

阿彌陀停車場 姫路停車場

百四十二

大石を切抜き屋社の形と作し之を横さまにしたるものにして四方三間半棟二丈六尺屋根は西に傾き其底に面して拜す寶殿の周囲は鑿りて窪きかゆるに自ら雨水溜りて一見恰も水面に浮ぶに似たり古大已貴命少名毘古の二神此所ありて一夜の中に石殿を造らんとし明れば工半にして止みたりといふ

おほなもちすくなひこをのいましけん静の岩屋は幾世經ぬらん 生石村生真人

觀瀆處 是石の寶殿の南小山の巖石に觀瀆所の三大字を刻す姫路の人永根文峰撰する所にして眼下海濤を望み風光絶佳なり

阿彌陀停車場 (播磨國印南郡)

阿彌陀驛 是播磨國印南郡阿彌陀村に在り中國街道に當る一小村のみ昔しは北原といひしを文永の頃時光寺に阿彌陀の像を移すを以て名を改めたりといふ石の寶殿會根の松高砂等を見物せんとするものは此に下車するを可とす

高御位山 是停車場より北一里餘西志方村に在り往古大已貴少名毘古二神此山に留りしと云傳ふ全山皆石にして一の門一の門御座石杯稱する奇石あり阪路屈曲し太古の遺跡今猶存す

姫路停車場 (全國飾東郡)

姫路城 是本邦名城の一に數へて五層の天主閣巍然として雲表に聳へ深樹之を繞りけり

阿彌陀停車場 姫路停車場

百四十三

つて白鷺の群生せしことあり因つて白鷺城と名つく北は増位廣峰書寫の諸山相連り東は市川の長流を帯ひ西は飾西郡の平野を望み南は海に面し一たひ閣上に登れば四方の風景一眸の中に集る此城は初め赤松貞範の居りし所にして足利氏に屬し嘉吉元年赤松滿祐將軍義教を弑し木山城に籠りて終に討死し赤松家滅びて山名宗全の所領となる後ち應仁元年赤松正則當城を奪取し即ち爰に移る天正五年織田信長播磨國を羽柴秀吉に賜ふ秀吉三木の別所を亡ぼして後ち此城に移り毛利氏の屬城を陥れ後ち姫山に三重の天主を築く同十年明智討伐の初羽柴小一郎秀長をして當城を守らしめ同十三年豊公天下一統の後秀長を大和に移し水下定をして之に代らしむ慶長五年池田輝政播磨三州を領す當城を再營して舊に復し後ち慶長十三年始めて五重の天主を築き九ヶ年にして成就すといふ徳川氏に至つて酒井家の所領と成り維新の後官に歸し今は歩兵第八旅團の兵營たり

射楯兵主神社

百四十三

舊曆十一月十五日臨時祭は廿一年目に執行して此大祭には尖栗郡の白倉山高端山華崎山の三假山を綱もて飾り作る又舊曆七月十三日より十五日まで修羅踊と稱する者あり古式なり飾磨津 是姫路を距ること凡そ一里許の南にあり港内繁昌旅店料理店等あり近海には家島丹波島松島鞍掛島坊勢島等あり眺望甚た美なり昔よりの湊にて古歌多し

我こひはあいそめてこそまさりけれしかまのかちの色ならねとも

通 經

たのますは飾磨のかちの色を見よあいそめてこそ深くなりけれ

俊成

播磨なるしかまに作る藍島いろあなかちの濃染せんとは

信定

まかまつに鴨のこゑこり聞ゆなれ伊保のとまりに鶴やなくらん

俊成

こひをのみ飾磨の市に立民のたえぬ思ひに身をやかへてん

白國村の梅林 是姫路停車場よりは凡そ三十町白國村の山腹に在り其數幾千株其種類紅

白相交りて播州菟原郡岡本村の梅林と并ひ稱せらる梅林の傍に白國神祠あり開化天皇第一

の姫宮國方姫を祭る

廣峰山 是白國梅林の傍より阪路を上ること凡そ十八町許山嶺に達す頂上に廣峯神社あり

祭蓋鳴尊を祭る天平五年三月吉備大臣唐土より歸朝の後帝に奏して之を建つ社殿の後

に神穴とて九つの穴あり上に干支の繪をかけり參詣者は此穴より賽銭を投すといふ例祭は

舊曆三月三日同八日なり作物の神とて農人の信仰殊に厚し山上眺望最も佳なり

増位山隨願寺 是白國村の奥にあり聖德太子の開基に係り其後聖武天皇天平七年僧正行

基此寺を建立す天正年中別所長治の兵火に罹り堂舎灰燼となる同十二年再興し今に至る

風蘿堂養塚 是増位山の麓にあり芭蕉翁の遺跡なり翁の旅具簑笠杖袈裟旅硯旅囊等あり

書寫山 是姫路より西北凡そ一里許にあり山上には杉多く中にも一老樹の四圍許なるも

のありて一本杉と稱せり頂上に一伽藍ありて圓教寺といふ西國二十七番の札所なり本尊は

如意輪觀世音丈六の像を安置す昔し花山院性空の徳を感じて此山に行幸ありしといふ王院

の馬場車寄女人堂引雲岡紫雲堂辨慶學問所の硯水池如意輪の瀧等山中名所甚多し

彌田温泉 是書寫山の麓より凡そ一里許夢前川の川上にあり湧出る炭酸冷泉を汲て温泉

とじたるものなり夢前川は鮎の名所なり

網干停車場 (全國揖東郡)

網干 是新在家、興の濱、余子濱、濱田、大江島の五村を合稱したる名ふして小市街を爲し

戸數一千數百戸人口七千製鹽と廻漕を業とするもの多し港は揖保川の口に在りて龍野山崎

等の物産皆此處に集まる

鶴宿 是街道の一驛にして人口凡そ三百を有し郡役所警察署裁判所等ありて昔推古帝

當所の水田百町を聖德太子に賜ひ班鳩宮と稱し其後此地ふ寺院を建築し班鳩寺と名づく

班鳩山班鳩寺 是當村の中央にありて其本尊は釋迦藥師觀音にして太子堂昭堂彌勒堂山

王社三層樓鐘樓等結構壯麗なり太子堂に聖德太子三十五歳の時大和國岡本の宮に於て法華

經を講讀の自畫の像あり毎年舊曆一月四日を以て太子祭を執行す參詣するもの夥しく境

内雜沓を極む

宇須幾津八幡宮 是網干驛の南十町松林中に在り宇須幾津八幡宮の祠あり祭神は應仁天

網干停車場

百四十五

皇玉依媛神功皇后を合祀す當郡の大社なり舊曆八月十五日の祭禮には近郷より參詣するもの多し

家島の群島 是網干港より三里若くは五里の海上東西八里南北三里の間に無數の群島あり其最も大なるものを中家島とし丹鹿松島鏡島等之れに亞く風景絶奇奥の松島と相似たり

龍野停車場 (播磨國揖西郡)

龍野驛 是山陽街道の一驛にして正條村に在り昔は繁華なる宿なりしか一時衰頽し小村となり然るに停車場設置以來次第に戸數増加し舊觀を復するを得へし

龍野町 是揖保川の西停車場より凡一里十五町脇坂氏舊城下にして戸數千五百人口六千醬油の産地として世に名高し又揖保川の鮎の漁獵に適す官衙は揖西郡役所、治安裁判所、龍野警察署、收税部出張所、龍野町役所、龍野郵便局等あり

龍野神社 是龍野町の西山腹にあり舊藩主脇坂家の祖先を祭る社殿の北に聚遠亭あり最も眺望に富み播磨灘を望む

播磨かた灘のみおきに漕出てあたりおもはて月をなかめん

室津 室の泊又は室の浦と稱す停車場より南凡二里半三方丘を負へる海灣にして水深く船舶の停泊に至便安全にして播州第一の良港なり往時西國の諸侯江戸に參勤交替の途次此處に立寄りたるを以て各其陣屋ありて自から繁華の地なりしか維新後は此事止みて頗に

西行

衰頽せり古來著名の港にして古歌など少なからず

室の浦のせとの崎なる鳴島のいそこす波にぬれにけるかも

山のはにほてりせぬ夜は室の海にまはひよりといつる船人

むろの浦鹽干のかたの小夜千鳥なき島かけてせとわたるなり

那波停車場 (全國赤穂郡)

那波港 是室津、坂越の中間にある一海港にして遶ふく陸地に灣入し風波を避くるに安全なれとも水淺く船の停泊に適せず港の南方に聳ゆるは鷹取山といへる赤穂街道の難所なり

坂越港 是那波港より一里海水甚深く良港にして灣内に生島と呼島あり雜樹鬱茂して其風景絶佳又風濤を避くるに最も適する所なり

赤穂町 是坂越の西南一里森家の舊城下にして戸數一千赤穂那波郡役所、赤穂警察署等あり此地方製鹽を以て有名なり赤穂鹽と稱するもの則ち是なり

華岳寺 是淺野家の菩提所にして大石義雄信仰の觀音の像を安置す義土木像其墳墓及ひ忠義塚等あり塚の後に大石櫻、大野柳と稱するものあり又義士手蹟等の摺物を商ふ

赤穂城趾 是宇喜田直家岡山の城主たりし時之を築き慶長五年池田瀨政姫路より郡代を置き其後淺野永井森の三家之を領して今は廢城となる大石宅趾は町の南舊城地内にあり今

那波停車場

百四十七

有年停車場 三石停車場

百四十八

の荒蕪に委し僅かに門のみを存す一老櫻樹あり良雄の遺愛樹なりと云傳ふ

有年停車場 (播磨國赤穂郡)

有年村 は東有年西有年と二村に分れ停車場の東の部にあり蓼々たる一小村にして山陽街道に當り其西凡一里半にして播備二國の堺なる舟坂峠あり

白旗山城趾 は停車場より北二里餘赤穂郡赤松村にあり群巒突屹として峭立し其西麓は千種川環流して斷崖削るが如く眞に天險の要地なり城趾は其中腹藪林の間にあり建武年中赤松圓心之れに據て以て南朝に叛き官軍を防ぐ

寶林寺 は白旗山の麓千種川の東岸河原村にあり金花山寶林寺といふ圓心の建立する所にして圓心父子の像並に赤松家の遺物を藏せり

昔細の古城 は河原村の隣村昔細村にあり赤松圓心始め大塔宮護良親王の令旨を受け二千人を以て義兵を擧げ王事に勤めたるは此の昔細城なりといふ今其遺蹟に圓心の肖像あり舟坂山 は播磨備前の境にあり此所は元弘の亂後醍醐帝の隱岐國遷幸の時兒島高德帝を奪ひ奉らんとせしは此所なり今は六百間の隧道あり

三石驛 は備前國和氣郡三石宿にありて山陽道に當る山間の一小部落なり蠟石を産して種々の細工物を作る世に三石蠟石と稱す此地要害を占め平家物語に倉光三郎殊尾を相具し

一々差し殺したり云々といふ

三石停車場 (備前國和氣郡)

備中の國に馳下り備前國三石の宿に止まりたる夜殊尾を知りたる者とも酒を持せて來り集りて終夜酒盛しけるが倉光の勢三十騎はかりをしよせてをこしもたてず倉光三郎を始め一々差し殺したり云々といふ

深谷の瀧 は三石宿の東北五六町の所にありて二層に分れて落つ一は五六丈一は三丈盛

署の候來り觀者少をからず

吉永停車場 (全國全郡)

吉永中村 は寂寥たる一小村落にして戸數五十戸に出てす昔は稍繁華の驛なりといふ其

南凡一里許開谷學校の跡あり寛文中池田光政碩儒熊澤蕃山を聘して之れを設けしむ延寶

二年聖堂を建て大成殿と稱す元祿十五年支那風に擬し講堂を造る其結構天下に冠たり維新

後中學を置きしか土地僻遠なるを以て之を廢し今は西穀一氏此に私塾を開く

備前燒 は數百年來伊部村の特産物にして一名伊部燒といふ其製造今尙益盛なり

臥龍松 は伊部村の西數町大内村にあり其形臥龍に似たり枝幹老古盤桓屈曲して鱗々葱

々積翠滴んと欲す高砂尾上の松等獨り美を專にする能はず

和氣停車場 (全國全郡)

和氣宿 は古井川に沿ふ一小村に過ぎす該川を遡ること一里餘岩戸村に天神山といふあり吉井の川流に臨み巖石重疊として自ら一大山を形くり青松雜樹其間に茂生し幽雅の地

吉永停車場 和氣停車場

百四十九

なり天正の頃浦上宗景此に居城し威を振ひしか後ち其臣宇喜田直家の爲めに滅され山上に礎石等を存す

鷺の湯 は中國著名の湯泉にして美作國勝田郡湯の郷村にあり停車場より七里勝田の御湯と稱す大古より發見せられ清和帝の貞觀二年觀山の僧圓仁之を改修し今日に至る浴室は明治二十三年の春新築し甚壯大なる浴場なり樓は鹽垂の奇峯を負ひ吉井川の清流を望み最も避暑に宜し旅店は栢屋龜屋加茂屋和泉屋岩見屋等其泉質は鹽類性にして無色透明打撲金瘡皮膚病子宮病等に効あり

津山町 は和氣停車場より十里岡山より十五里美作國東西北條の兩郡に在り松平氏の舊城下にして戸數三千人口一萬四千餘商業の繁昌美作第一の都會なり物産は米穀銅鐵新炭等なり

津山城址 は元和二年森忠政豊前小倉城に據して之を作る五層の天主閣を設く高十一間あり後ち森氏國除かれ松平氏の之に代り今は官に歸す

院庄の遺蹟 は津山町より一里元弘の變後醍醐天皇隱岐遷幸の時兒島高德單身此に來り夜潜に車駕を奪はんと謀る警固嚴なり乃ち門前の櫻樹を削り「天莫空勾踐」の句を題せし所なり明治二年社殿を建立し作樂神社と號す

藤野の櫻 は和氣停車場より東凡一里藤野村猿目神社の前に沿へる日笠川の堤に在り千

本櫻と稱す花時は遠近より來觀者盛なり

菊一文字の遺趾 は二日市の南十五町の山間大内村宇鍛冶屋谷にあり後鳥羽院の定め給ふ番鍛冶中の巨擘福岡の住則宗の宅趾なり刀莖に菊花を彫る世に菊一文字といふ是なり蓋し則宗の鍛へて帝の自ら熨及を入れ給ひたるものにして雄麗絶妙古今に超越す則宗の子助宗も番鍛冶に備はり帝より一字を賜はり大一文字と稱す此一族皆一の字を彫る

吉岡一文字の遺趾 は二日市の北十五町鍛冶屋村にあり福岡一文字の一派南朝の比吉岡一文字吉氏等一族の住したる所なり

吉井川 は源を美作國上齋原村の恩原澤ふ發し津山町の下を過き東南に流れ備前國邑久郡西大寺町の東を過き海に入る其流域二十七里鮎鮎鯉等を産す

瀬戸停車場 (全國警梨郡)

西大寺町 は上道郡の東南部吉井川の西岸にあり海口に臨み物貨輸轉商業繁昌戸數六百戸を有す

金陵山西大寺 は有名の巨刹にして毎年正月元日より二七日の間國家の祈禱をなす法會了りて十四日夜會湯と唱へ參詣人の人に牛王を投與す諸人裸體波髮身軀を吉井川の水に清めて之を争ひ拾ふ雜沓いふへからす

巨勢金岡の墓 は西大寺村にあり

長岡停車場 岡山停車場

百五十二

長岡停車場 (備前國上道郡)

長岡 是上道郡夫甘村に屬し山陽街道に當る一小村にして岡山市まで一里二十町東北七

八町藤井宿に接して西北十五六町の處に國府市場なり

國府市場 是寒村なれども古吉備の國府を置きし處にして繁華の土地なりしと云ふ平家物

語に松殿配流の時國府の邊湯迫といふ所に流すとあり

關白屋敷 是國府市場の北湯迫村に在り治承年中關白基房の配流せられたる所なり關白

屋敷と稱す

旭川 是源を美作國大庭郡の龍王池に發し備前津高赤坂御野等の諸郡を環流し岡山市を

横斷し注て兒島灣に入る其流域三十二里縣内第一の長流なり

岡山停車場 (全國御野郡)

岡山市 是池田氏の舊城下にして旭川の西岸に位し市區東西二十町南北一里坊數八十三

戸數凡一萬人口四萬を有し山陽道中屈指の都會なり就中橋本町西大寺町榮町紙の屋町上、

中、下、の三町の如きは最も繁華を極む岡山縣廳を始め諸官衙諸會社諸學校病院等あり又旅

店の最もなるものは自由舎池田武藏野魚春等にして料理店は大黒屋(西洋料理兼業)山佐西

大寺町三好野(旅店兼業)魚嘉(旅店兼業)上出石の三好野(旅店兼業)丸佐丸敬藤久等なり當

地の産物は米麥銅鐵紋建熊野柴等なり

岡山停車場

百五十三

岡山城 是蓋し天主閣及外郭の城は皆燒板を以て之を蔽ひ色黒きか故なり其創造詳

かならず天文弘治元祿の頃は金光家の居城なり天正の頃宇喜田直家城主金光を殺し奪て此

に居る其子秀家關ヶ原に敗れて封土を失ひ家康之を小早川秀秋に與ふ秀秋卒して子なく國

除かれ慶長八年池田忠繼之に居し光仲に至り因幡に徙り光政之に代り爾後累世池田氏の居

城となり明治維新に廢城となる今は天主閣を存するのみ

宗忠神社 是停車場より十二三町中野村にあり黒住教會の本社にして社殿莊嚴なり安永

年間黒住左京なるもの此教派を創すと云ふ

岡山寺 是磨屋町にあり孝謙帝の天平勝寶年間に創立し天曆頃信源上人七堂伽藍を造

り市中屈指の大寺なり

東山公園 是借樂園と稱す操山の中間に新設したるものにして招魂社あり西南の役の戰

死者の靈を祭る山上眺望絶佳なり

後樂園 是岡の東北にあり貞享年中藩主池田氏の開く所にして周圍九百三十二間周圍に

脩竹を以て塙に代へ四方に門あり池沼を設くる四ヶ所旭川の上流を導き繁洞して澗とな

り地となり奇態異狀各其風致をなし再ひ溢して旭川に入る園の西南は丘陵にして雜樹叢鬱

深山幽谷へ入るの趣あり北は青松林にして地平に且廣く東は豁然平遠にして諸峯を望むへ

し園は舊藩主下民の稼穡を視察し藩士をして文武を講せしめ或は招筵接待の用に供したる

所なり

庭瀨停車場

百五十四

庭瀨停車場

(備中國賀陽郡)

庭瀨及撫川

庭瀨は撫川村と相接近し戸數凡五百一種の團扇を以て有名なり

吉備津神社

は停車場より凡一里仁徳帝の御宇之を建立し其結構古式に法り規模宏大其

華表は日本無双と稱す華崗石なり拜殿の西に接して廻廊あり長百八十間其傍らに細谷川の

古跡あり「吉備中山細谷川之古跡」と記せる碑立てり

まかねふく吉備の中山をひにせる細谷川のさやけさ

まかねふく吉備の中山うちとけて細谷川に岩そくくなり

眞金ふく吉備の中山帯にせる細谷川の音のさやけさ

後鳥羽院

苗代に細谷川をせきかけて吉備の山田へ帯を引くなり

公朝

御釜の鳴動 として吉備津の神社内御釜の御殿を稱し吉凶禍福を占ふ所にして柴を竈に燃

し願主吉めれば其聲雷の如く鳴動し不吉なれば其聲低しといふ

備前吉備津神社 是縣社にして備前國一宮にあり三備吉備津神社の一なり推古天皇の御

宇に創業したるものにして昔は西國第一の壯麗なる大社なりしといふ中頃衰へ元祿十年池

田綱政之を再建し今に至る

高松の稻荷 是吉備津神社の西北一里稻荷村の山腹にあり高松の稻荷と稱し世人の信仰

後からす參詣者絶へず毎月廿五日縁日とす甚盛なり  
高松城の遺趾 是高松稻荷の途中左傍にあり今水田中に一小庵立てり是則ち城趾なり草  
庵の南に堤防あり當時水攻の爲め秀吉の築きしものなり北に八幡山といふ丘あり腰掛松と  
て秀吉此所にて號令したる所といふ

倉敷停車場

(全國窪屋郡)

倉敷町

は戸數千四百人口七千あり豪家多く人民半は商工を業とす窪屋郡役所倉敷警察

署紡績會社精米會社煙草製造會社等あり

妙見山

は市街の東にあり昔は此邊海にして其一島嶼なり

豪溪

は賀陽郡榎谷村にあり幾個の巉巖屹然として聳立屏風の如く矮松其間に横生し棋

谷川の清水其下を繞り奇絶妙絶備前の人某曾て其一大巖上に天柱の二字を刻し一奇觀を

添ふ

高梁町

は豪溪より立戻り高渠川を遡る四里戸數千五百人口六千あり地勢山に沿ひ流れ

に臨みて南北に長き一市街なり土地狹隘なるも又山間の名邑たり市中に郡役所裁判所警察

署高等尋常の兩小學郵便局町役場等あり元と松山と稱せり

松山の城趾

は高梁町の東北にあり臥牛山と稱し元弘の頃高梁秀英之を築く後足利尊氏

高師秀を守護に置き幾くもなくして豪族秋庭重明師秀を逐ひ自ら之に代り後幾多の隆替

倉敷停車場

百五十五

を経て秀吉の有となり宇喜田氏に與ふ關原の役後家康之れを小早川秀秋に與ふ秀秋卒して  
小堀政次池田長幸を経て後ち板倉勝澄之れを領し明治維新に至る  
藤戸の古蹟 は元暦年中平家は祐盛を大將として兵船數百を以て兒島郡粒江村舟津河原  
に上陸して陣營を張り源氏は範頼三萬騎に將として備中日間山の邊に陣す佐々木盛綱藤戸  
を渡り先登せしは日間山の東南小瀬の近傍一枚畑(一名佐々木谷といふ)より兒島郡粒江村  
船津河原の邊りなりと云ふ

瑜伽神社 は倉敷の南四里兒島郡林村にあり熊野權現を奉祀す文武天皇の三年役優婆塞

伊豆國大島に流さるゝや高弟義學三百餘人の徒弟子共に害を避けんか爲め熊野本社の神輿

を船に乗せ四國九州の邊を漂泊すること三年大寶元年に至りて備前國兒島郡柘榴濱今の下

村小社殿を建立し新熊野山瑜伽寺と稱す

韓琴泊 は兒島郡引綱村にあり海邊數町の間を稱す眺望に富み古歌多し

波の音の今朝から琴の聞ゆるははくの調へやあらたまるらん

都まで響きかよへる唐琴は波の音すけて風を引きさる

波の音風のかけたる唐琴はひきとめられぬ船人の袖

けふもまた泊りやせまし唐琴の日數をかひく五月雨の頃

唐琴のきこゆる波に船とめて通ふ浦の松の夕風

安倍清行  
素性法師  
知家  
後醍醐院  
中務

玉島停車場

(全國三島郡)

玉島港 は備中國淺口郡東南部の海岸にあり玉島阿賀崎乙島柏島の四ヶ町を合せて玉島

と總稱す人家軒を聯ね戸數二千餘備中の一要害にして商業繁昌市中には淺口郡役所、玉島

警察署、治安裁判所、紡績所、精米所、鹽江銀行、有信銀行等あり

圓通寺 は港の西南海上に臨む高丘にして巨巖起伏し松樹踴躍其間に生し寺は其上に在

て内海を望み四時の風光最も美なり

鴨方停車場 (全國淺口郡)

大谷の金神 は吉備村字大谷にありて金光教會の本部にして京坂地方信者甚多く信徒の

數は六萬人以上に達す嘉永年間赤澤文吉なるもの日月及び金の崇敬すへきことを唱へ之を

三神とし弘教に盡力せしに信徒日に加はり今日の盛大を致せり

笠岡停車場 (全國小田郡)

笠岡港 は小田郡西南部の海濱にして戸數千六百人口六千小田郡役所警察署裁判所出張

所明十銀行恒心社吉備土木會社笠岡倉庫會社等あり

桃山 は停車場の西南二十餘町新庄村にあり全山桃樹多く中に若干の梨花を交へ紅白相

映して一層の風致を添へ花時遊人少なからず

福山停車場 (備後國深津郡)

玉島停車場 鴨方停車場 笠岡停車場 福山停車場



福山市 是深津郡に屬し戸數三千八百人口一萬五千餘人商業繁昌し其市場の最も繁花なるは入川沿岸以北なり諸官衙銀行諸會社等あり旅店は風月樓(料理兼業)栗松、松村、料理店は清風樓、大梅等なり

福山城 是元和年間水野勝成此地に封せられ要害を相して此地に建築す當時幕府より伏見城に在りたる三層極形櫓、月見櫓、鐵門、大手門等を拜領して之を移し用ゆ勝成自から其繩張を作し元和六年起工し同八年に至て落成す後水野嗣なく國除かれ阿部氏はれに代り世々居城し維新に至る後之を公園となす昔人の辛苦經營して以て譏に成りたる鐵城今は庶人の悠々閑雅風月を弄する園となる

八幡宮 是公園の北にあり二社相並ひ立つ昔は四民の階級嚴重にして一は百姓町人の産神とし一は舊藩主の産神となしたるものなりといふ

賢忠寺 是東町宇寺町にあり開基は宥仙にして水野氏の菩提所なり勝成始め二三の墳墓あり

備後吉備津神社 是福山の北二里宮内村虎睡山にあり推古帝の御宇吉備中山に準じて之れを建立す當地方の大社なり

足利義昭の館趾 是福山の東十五六町にして蒨山といふ所にあり天正年中將軍義昭信長に攻られ毛利氏に寄りたる時造りたる館の趾なり今尙老松數株を存す

山野の鐵泉 是福山の東北六里山野村にあり冷泉なり暖めて之を用ゆ其地山間に僻在し來浴するもの少なし

明王院 は一に秋寺といふ草戸村にありて弘法大師の草創にして千餘年前の建築なり徑一尺餘の萩を用ひ山門を作る故に萩門といふ五層塔は巨勢金岡の母某の建立に係り就中著名なるは金岡か書きし曼陀羅なり今は宮内省に納め模造品を掲ぐ

鞆津 是福山より南三里海上に斗出したる岬にして港内水深くして船舶の停泊に便なり商業繁昌し良港の一なり○當所は古來有名の海港ゆへ旅舎に數寄を極めたるもの少なからず旅店には丸常、魚吉、料理店には萬喜、籠藤等あり對潮樓に一遊せんとするものは此家等に周旋せしむべし

福禪寺 對潮樓は鞆津東岸に在り辨天島を隔てて仙醉島と對し無數の島嶼烟波漂渺の間に隱見し白帆杳に去つて又來り其風光明媚清絶日東第一形勝の名あるに負かず對潮樓及日東第一形勝の扁額あり昔は韓使の書する所なり

仙醉島 是對潮樓の東にあり周回四十餘町松樹鬱茂し風景殊に佳なり平相國曾て此地に

嚴島の辨天祠を移されんとせしか地形狹隘なるを以て止められたりといふ

辨天島 是仙醉島と對潮樓の間に横はる一島にして全島殆ど巖石を以て成り巖崖奇礁の

赤人

松永停車場 尾道停車場

上に松樹の散在し松間辨天祠あり仙醉島と同嶼を双絶と稱す  
沼名前神社 は福山市西北の山麓にあり素盞鳴命を祭る國幣小社なり社殿宏大幽邃の地なり

阿伏門の觀音 は柄津の西凡一里にあり岬角にして崖の上に觀音堂を設く海潮山盤臺寺といふ登臨殊に妙にして烟波風濤雪朝月夕日々其趣を異にして我國の岳陽樓ともいふべき觀あり

松永停車場 (備後國沼隈郡)

松永村 は沼隈郡の西南部にあり南は松永灣に臨み海陸の便利多く製鹽を以て最も著名なる所なり

新伊勢宮 は停車場より東南十五六町神村伊勢山にあり應永の頃荒木半太夫なる者之を創設す例祭舊曆一月十五日執行す近傍參詣するもの萬以上に及ぶ當地方の一大祭禮なり

劍明神 は松永灣の海口にあり新羅王子某の寶劍を祭神とす地方著名の神社にして參詣絶へず舊曆六月廿五日大祭を執行す雜沓新伊勢宮の祭事に次ぐ

尾道停車場 (全國御調郡)

尾道 は備後國御調郡の東南にある一海港にして向島と相對し瀬戸の長さ一里半市街は山麓に沿ひ長三十餘町にして幅三四町乃至十五六町なり蓋し尾の道の名は山の尾の道といふ

ふに本つくならん又一に鶴の浦と名つく戸數五千戸人口一萬八千餘人を有し諸官衙銀行諸會社ありて商業繁昌なる一市邑なり旅店の最なるもの濱吉、今井、一咲亭、栗原等にして料理店は竹亭、胡半、若胡、佳肴園、福手、三榮、魚藤、大善、竹半、高琴、平理、竹長、鮮利等なり物産は肥料、壘表、吳座、鑄、酢、石細工等を産出す

千光寺 は市の後山の山腹にありて大寺の一なり其開基詳かならざるも多田の満仲の宿願によりて之を再興す満仲の守本尊なりし千手觀音を安置す聖德太子の作なりといふ山上眺望甚美なり

千疊敷 とて千光寺を上ること五六町にして山嶺に平地あり杉原民部大輔の城址なり大石の上に天守臺の跡を存せり此地は吉備第一の眺望を占むといふ

西國寺 は市の後愛宕山の山腹にあり天平年間行基僧正寺院を建立し後天曆年間火災に罹りしか延久年中之を再興す其由來久しく尾道三大寺の一にして什寶には名畫古書等多く就中菅公の金光明最勝王經十卷の軸は天下の絶品なりといふ

淨土寺 は市東方山麓にあり三大寺の一にして推古帝二十四年聖德太子建つる所なり正年中火災に罹り嘉曆貞和の頃再興して舊觀に復したり之れより先足利尊氏の筑紫に下るの時此寺にて近國の兵士を集め後又大軍東上の時も亦た將士等と共に此寺にて和歌三十三首を詠し佛前に供す眞蹟今猶存す此外什寶甚多し

尾道停車場

三原停車場

三原停車場 (備後國御調郡)

百六十二

糸崎浦 又は長井浦といふ港内水深く岸近くして大船の停泊に便なるを以て商船の寄泊するもの多し戸數三百の中旅店青樓其半を占む

糸崎八幡宮 は市街の東南にあり天平年中宇佐八幡宮を勸請したるものなり又西國の諸侯嘗浦を通行する時は必ず幣帛を献せしか例とせり又其境内に古井あり長井の水といふ神后三韓征伐の時御船を寄せ用水を汲取りたるを云ふ

多久良能火 は糸崎の海上佐岐島の邊に曉の頃海波赤色に變し遠く望めは火の如し土人之を「たくらふの火」といふ

西の海千尋の底に燃ゆる火は東の浦に誰れかたくらふ

廣島市 は安藝國安藝沼田の兩郡に隣り舊と淺野氏の城市にして中國第一の都會なり備後三原より十八里餘大阪を距ると凡九十里市街は概ね平坦にして廣表一里四方に亘り人口八萬五千餘あり太田川分流四派となり市間を東西に貫通し其海には宇品港あり内海有數の良港にして船舶の出入常に絶へず海陸共に運輸の便あり市の中央に廣島城あり本城は文祿年間毛利元就の中國十三州を領するに及び新に築く所にして嫡孫輝元の世に至り關ヶ原の事ふ與かり遂に徳川氏に收めらる後ち福島正則封せられて此に居り次いで淺野氏城主となり爾來子孫相襲て明治維新の時に至る維新後廣島鎮臺を置き現今即ち第五師團の本營たり又市内各所に控訴院、縣廳、地方裁判所其他の官衙諸學校病院銀行諸會社等悉く備はりて街衢常に繁榮なり就中大手町、本町、堺町等は市中の最要部分にして巨商豪估軒を列ね殊に殷賑を極めたり市北に廣島公園あり廣瀨にして酒灑なり園内に饒津神社あり長政侯の靈を祀る園後に小丘あり二葉山と云ふ頗る眺望に富めり其外市内記すべき事亦た神社佛閣の見るべきもの妙をからず不日再版の日を待つてこれを詳記する事となす今旅客の便宜のため市内二三の旅舎を擧ぐ、大手一丁目三よし屋、同町二丁目山長、同町三丁目武田、吉川、島屋町澁谷、塚本町岩田屋等其尤なるものなり

吳軍港 は同じく安藝國に在り廣島市を距る南方十里即ち第二鎮守府の所在地にして巨大の建物を列ね港内船艦の出入絶へず日に繁盛に赴けり又港前の江田島には兵學校の設

廣島市 吳軍港

百六十三

ありて海軍士官を訓練す

殿島 是舊と伊都岐島と云ひ一名宮島と稱す日本三景の一にして廣島灣の西南隅に位す  
周回七里餘悉く斷崖奇巖にして其間七浦の勝あり島峯を彌山と號し山麓より上り十八町頂  
上に山頂石あり山中楓樹尤も多く青松と枝を交へて全島を蔽ひ山水優美にして風光の絶倫  
なる真に三景の一たるに愧ぢず山麓北向の海内に殿島神社あり國幣中社にして市杵島、田  
心、瑞津の三姫神を祭る人皇第三十三代推古帝の二十二年創建せしものなりと云ふ社殿は  
平相國清盛の造營する所にして崖に倚り水に架し規模甚だ壯麗なり又左右には長廊を連ね  
延長殆んど五十間海潮満ち來るときは殿廊共に水上に浮ぶが如き奇觀あり又本社正面の海  
原に大鳥居聳へたり其高さ七間餘目今掲ぐる處の額は有栖川二品親王の御筆なり  
其他攝社末社等及び寺院の多きを且つ名勝の記すべきもの一々枚舉に遑あらずこれを細か  
に擧げんとすれば小冊子の能く盡すべきにあらざるなり仍つて左に古大家の吟詠二三を抄  
録して以て其一斑を察するの樂となす境内に一番の鳥及び多くの鹿棲めり共に神使と稱し  
て敢て害を加ふるものなきを以て能く人に馴る社邊の市街には旅舍料理店等多くして四時  
來遊の人絶ゆる時なし名物數種あり楊子、杓子は殊に著名なるものとす又た此地は天文  
陶全美逆を謀り其君大内義隆を弑せし時毛利元就全美を欺き誘出して夜雨に乗じて遂に之  
れを誅戮し大業成就の基を立てし古戰場あり廣島よりは日々和船及び小蒸氣船の往復あり

附

録

さをしかの月にさやけき宮居哉

月すみて猶しつかなり秋の海

海原やまたもたくひはなみの上にみや居しめたるいつくしま哉

神山縹紗小蓬萊、七浦風煙與海開、今古精裡無廢馳、闕宮時進紫霞杯

彩舟銜尾倚汀沙、隱映仙山五色霞、壩内潮回廊九曲、街頭鹿狎市千家、

諸平威儀悲賁土、二帝震遊想翠華、懷古何人同此意、四隣歌吸徹齋譚、

雖愛雲光薄、尙知嵐氣遮、穿林觀瀑水、度嶺遇磨巖、

松偃堪爲棧、巖懸自作家、樵意華表外、拍手喚神鴉、

義 隆

滙 元

持 豐

臨 川

茶 山

春 水

附

録

### 讚岐鐵道

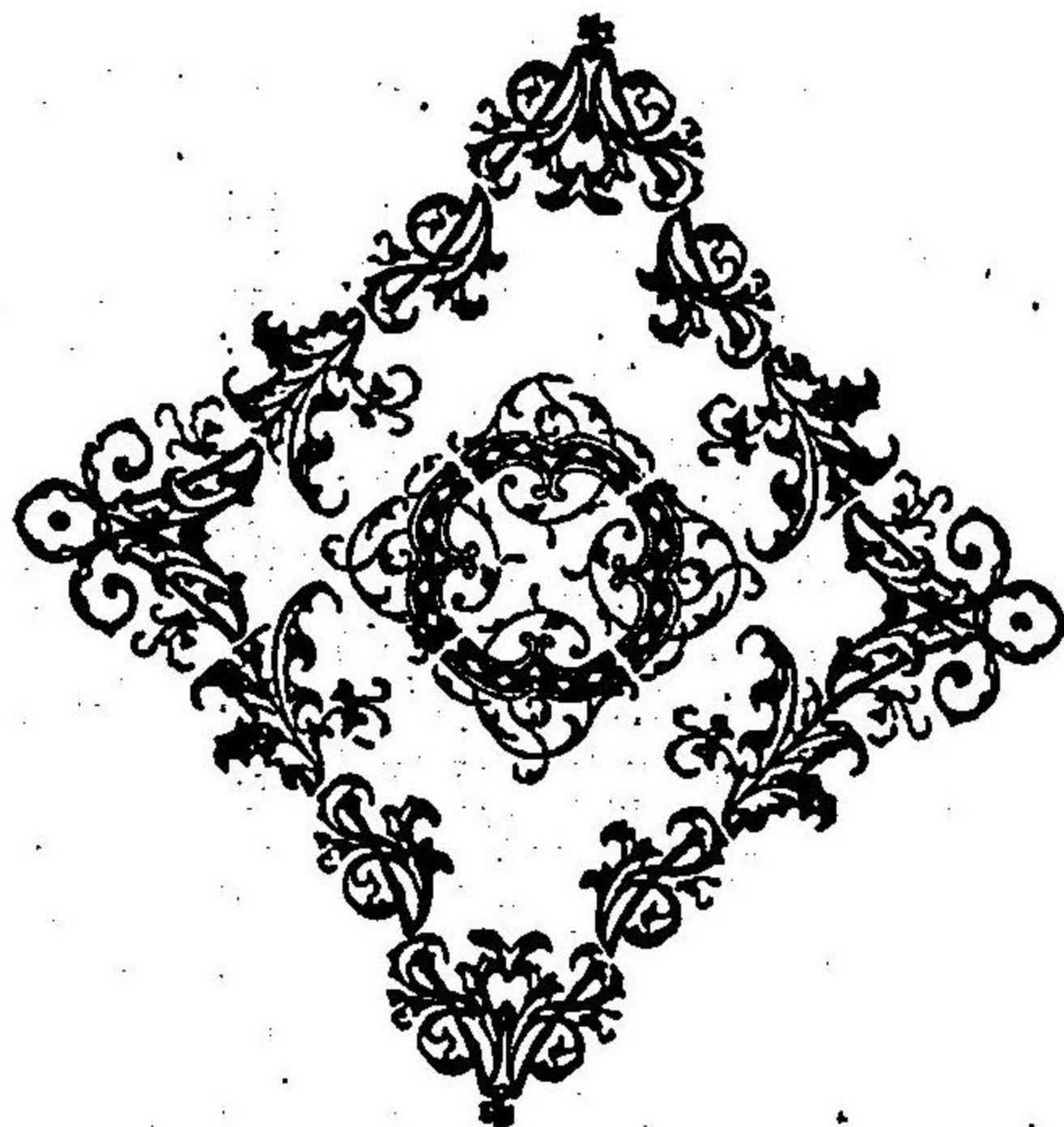
讚岐鐵道 は讚岐國丸龜琴平間に布設するものにして多度津善通寺の二驛其間に在り而して本鐵道の將來は漸次延長して遂に高松市に達するものなるべきも未だ其設計あるを聽かず目今専ら琴平神社の爲にするものゝ如し仍つて其案内も琴平に起筆し以て丸龜に及ぼすべし抑も當國は沿海山水の風致に富み亦た壽永の昔より歴史上有名なる舊跡等の記すべき事甚だ多きも紙數に限あるを以て今此に之れを略し尤も著名なるもの二三を附記す

#### 琴平停車場 (讚岐國那珂郡)

琴平驛 は象頭山の麓金比羅町に在り此地は多度津、丸龜を距る各三里街市戸數凡千餘人口五千有餘あり町内酒樓、旅舍多く琴平參詣の旅客常に充満して大に殷賑を極めたり而して旅舎の尤も著名なるは厩屋、備前屋等となす

琴平神社 は象頭山の中腹に在り古來有名なる靈社にして大日貴命を祭る神殿の結構最も壯麗を盡し境内攝社未だ多し當社は賽人の多きを實に我邦無双にして其收入毎月額萬圓以上に及ぶと云ふ以て其盛況を察すべし祭典は毎年三、六、十の三ヶ月に執行し殊に十月は尤も莊重なる祭式を行ふ當日は參詣常に倍増し其幾萬人あるを知らずと又本社境内は象頭山全體にして其峯甚だ高からざるも後方彌谷、天霧、曼陀、雲邊寺の諸山に連り谷深

琴平停車場



善通寺停車場

百六十八

く花木多く雲水絶勝四時の風光明媚にして山中所謂十二景の勝あり左に該景を賞する二三の詩歌をしるす

千代よはふ聲きこゆなりまの池の汀にあさる田鶴のむら鳥

三 冬

萬里鏡光池水開、千峰黛色入波推、鶴群忽自雲間下、恰似傳書渡海來、

旅人の打こし坂の夕日かけいつまやとりとさして行らん

資 源

踰阪豁然西望開、參差樓閣倚崔嵬、夕陽一抹翠微頂、隱々鐘聲度水來、

ふたもとのさの下風の長閑さにくその人かはるはたちよる

好 兼

聲たひにこころのそさの音すむかいつみの寺の入相の鐘

一 執

花曇り人にくもるや象頭山

木 長

讚岐富士 は飯山と稱し又方山ともいふ其形の似たるを以て讚岐富士と呼ぶ象頭山の東に方り海濱に峙てり山下に坂出港あり

善通寺停車場 (讚岐國多度郡)

善通寺 是善通寺村にあり此地は有名なる善通寺所在の地なるを以て村號となす琴平

多度津間の通路にして殊に善通寺參詣を兼ね旅人の來往するもの多くは此處に歩を止め備つて土地繁昌なりしも鐵道布設已來稍淋しくなれりと云ふ

善通寺 是驛中に在り大同年間弘法大師の草創する處にして寺地は大師の父佐伯善通の

庭園なりしと本寺創建の當時は唐の青龍寺に模造し巍々たる大伽藍なりしといふも爾來世の變遷につれ衰移して現今殆んど舊觀なし然れとも大師の舊跡なるを以て人の訪ふもの抄をからず

西行堂 是善通寺の南二町許久の松と稱する古松の樹陰に在り堂内西行の石像を安置す堂後ハ即ち法師の庵をしつらいし遺跡なりといふ

久に經て我のちの世をとへよ松跡したふへき人もなき身そ

西 行

契りねきて西へ行ける跡に來て我もれはりを松の下かせ

道 範

後醍醐帝の御陵 是善通寺より北三町許の處に在り石の御塔にして左右に龜山後宇多兩帝の御塔なりと稱するものあり周圍は悉く檜垣を以て回し老松數株鬱葱として之を蔽へり

多度津停車場 (全國全郡)

多度津驛 是多度津町に在り此地は舊と丸龜藩の支族京極氏の采邑にして人口壹萬餘を有し市街ハ甚だ廣からざるも當國第一の良港にして且つ琴平參詣の要路に當り上は大坂神

戶より對岸の中國諸港及ひ下の九州の各港と海路の往返頻繁を極め旅客の出入常に絶へず殊に本港には著名なる波止ありて和船の碇泊に便なるを以て上下の帆船寄泊して朝暮出入する千餘艘町内爲めに繁榮なり

屏風浦 是白方の浦を云ふ弘法大師誕生の地にして多度津より西方の海濱なり東北は志

多度津停車場

百六十九

丸龜停車場

百七十

丸龜、岩島、津島、平島等の群島を扣へて水島灘と相接し備前備中の峰巒を水天鬘鬘の間に臨み其風光絶佳なり透海に硯石と稱する奇石あり又弘法大師誕生の古跡は經納山迦毘羅衛院海岸寺の處なりと當寺の奥の院に大師幼時の像を安置すこれ大師の自作なりと

其ころの浦ふく風に磯なれ松かはらぬ色も秋は見へけり

家 隆

あら磯やはしり馴たる千鳥かな

去 來

朝霧や島一つうみふたつ海

之 盛

丸龜停車場 (讚岐國多度郡)

丸龜驛 丸龜町に在り多度津と相距る一里此地は舊と京極氏の城市にして人口壹萬八千餘國內高松市に亞くの都會なり丸龜城は慶長七年生駒某の築く所にして後萬治元年京極氏封を此地に受けしより爾來子孫相襲きて以て明治の初年に至れり現今第五師團丸龜分營の在る處即ち其舊趾なり

瀬島 丸龜の沖に在る小島なり土俗傳云此島の下層は巨大なる洞穴を形成し其中金氣充滿せりと

附云當國は海産物多くして就中鯛の漁獲盛んなり此鯛は金山鯛と稱し全身金色を帯びて其味尤も美なり聞く近海の鯛放卵の際に方り悉く瀬島の洞窟に集まりて子を孵化するに因り此色澤あり又この稱ありと云ふ

白峯 丸龜の東凡五里青梅村の海岸にあり峰勢峻秀にして一に峻の松山の稱あり山上に崇徳帝の御陵あり土人伊智の御所と呼び廟舎甚だ壯麗なり傳云廟舎に安置する尊像は帝の御宸筆なりと又境内に琵琶塚ありこれ御睦娥帝の御寄進なり其他境内に源為義、為朝、頼朝等の塔あり山下を坂出港とす製鹽の業盛んにして郡内の名邑たり

高松市 は當國第一の都會にして人口三萬四千餘あり舊と松平氏の城市たり丸龜を距ると東方七里北部海に接して海運の便あり市中香川縣廳其他の官衙學校病院及び銀行諸會社等悉く備はれり殊に此地は書畫骨董に富めるを以て其名大に世に著はる

屋島山 は高松市より東南一里餘山勢家屋の狀を成す仍つて此名ありと云ふ山麓の海濱を屋島浦といひ山東の入江を壇の浦と稱す此地は源平の古戰場にして安徳帝の内裏趾及び屋島城屋島寺の古跡共に今尙存在せり又佐藤次信の碑等あり

五剣山 は本名を八栗山といふ屋島の東南に方り海岸に聳へて五峰並立せしより此名あり現今其一峰を欠きて四峰となる之れ元錄年間風雨の爲め崩壞せしものなりと  
志度寺 は五剣山の東方志渡に在り其開基創建の年月は詳かならず眞言宗の巨利にして世の人口に膾炙する彼金比羅御利生記に由緒ある古跡なり高松より行程三里半とす

# 伊豫鐵道

本鐵道 は伊豫國內高濱及平井河原間に敷設するものにして其間三津、古町、外側、立花、久米の五停車場あり然れども其各驛に就きて特筆すべき事尠なし仍つて各驛を一活し沿道名所舊跡の著名なるもの二三を掲ぐ

高濱 は伊豫鐵道發端の停車場ある處にして北海岸に濱する一漁村なり村民多く漁業を事とし日々三津、松山に輸送するもの夥し

三津ヶ濱 は三津停車場所在の地にして全じく北海岸に在り奥居島其前に横たはり風浪の患なく國中第一の良港にして船舶の出入常に絶へず市街繁榮人口五千有餘あり奥居島は濱邊より海上一里全島山を成して聳へ風景頗る奇絶にして其形富士山に似たり故に小富士の稱あり島の東南に由良港あり碇泊に便なり又島西の釣島には燈臺あり

松山市 は三津ヶ濱より一里市の西部に古町停車場あり亦た南部に外側停車場あり此地は久松氏の舊城市にして人口三萬三千餘國內第一の都會とす市の中央に松山城あり規模甚だ宏壯にして現今第五師團第十旅團の營所たり又城廓内に公園地あり衆樂園と稱し衆庶の遊樂場となす其他愛媛縣廳裁判所學校病院銀行會社市内各所に散在し何れも建築壯麗にして街衢の尤も繁盛なるは長町の通りとす

伊豫鐵道





長建寺 是市北に在る古刹にして龍藏寺は寺域内十六夜櫻あるを以て世に其名著るし傳云往古寺畔に一翁あり常に此花を愛す齡八旬に及び一日杖を此樹下に曳き歎して曰吾既に老たり今年の觀花期し難しと樹邊を逍遙して去るに忍びざるものゝ如し然るに此樹靈ありけん忽にして梢頭二三の花を開く時に春寒未だ去らず諸山殘雪を散見する年の初にてありき爾來毎年一月に開花す嘗て舒明帝御覽の榮を賜ひしことあり

道後温泉 是道後山麓にあり松山市より東北に方り其距離凡半里弱 古へ熱多津、又飽田津、鷺田津の石湯など呼べりといふ古來著名の温泉場にして景行、仲哀、舒明、齊明、天智、天武、六帝の行幸ありしとあるより土人五度御幸を稱すといふ近時一小市街を成し高樓軒を並べて浴客常に群集し大に繁榮を極めたり道後山頭一小社あり湯月八幡と號す京都石清水八幡を勧請せし處とすまればより南に古城址あり建武年間河野某この處に龍居して遙かに玉師に應せしとまた此に古刹あり護安寺といふ發の名所なり

松枝の廊 是道後温泉場より東一町餘の處に在り行樂の地にして大厦高樓寔を列ね樓上樓下常に喧嘩極まれり

其外久米、平井河原の二停車場には今特に記すべき事なし仍てふるに筆を擱く

### 九州鐵道

本鐵道は現今豊前の門司港に首まり全國小倉筑前博多及び其他の各驛を経て肥前國島橋驛に至り此より熊本佐賀の兩線に分岐し熊本線は筑後に入り久留米等の諸驛を過ぎて遂に肥後の熊本市に達す將來は尙進んで全國の宇土に至り三角線を分岐して本線は八代に達する將に遠きにあらざるべく亦た佐賀線も現今は佐賀市にて止まるも本線も遠からず柄崎、有田の各驛に至り伊萬里、佐世保の支線を分岐し其本線は川棚、彼杵、大村等の諸驛を経て長崎港に到達する既に年餘を要せざるべし今既設線路に就き沿道の案内概略を記する

#### 門司停車場 (豊前國企救郡門司港あり)

門司港 是九州鐵道發端の地にして西海道の東北隅に位し門司岬其東に突出し赤間關と相對し其間僅かに二十町餘以て内外海の咽喉を扼す市街は山を負ひ海に臨み港内水深くして碇泊に便なり此地は元一小漁村にして赤間關に出入する船舶の寄泊所に過ぎざりしが九州鐵道の興りしより人烟俄かに繁殖し又諸會社勃興し神戸大阪及び四國中國等各要港に航路を開き従つて船舶の出入旅客の來往頻繁となりいまや般賑なる一要港となり特別輸出港の其一たり近時九州鐵道會社は此の地に一大倉庫を建て貨物主の便宜を謀り亦た日本銀行は西國の支店を設置せんとして既でに地を相定せりと(現今は馬關にあれども)此等の事

以て此の地將來有望の地たるを卜するに足る想ふに數年ならずして鎮西の一大良港たらん

傳云此地は往古三韓入貢の時必らず寄港せし所なりとて一に高麗濱新羅濱等の舊稱あり又或書に甲宗演とも記せり而して古へ文字か關と稱へ關門ありし處にして古歌多し

春秋の雲井の鷹もとまらず誰玉つさのもしのせきもり 西園寺入道

玉章も都へ行はとつてん門司の關路をかへる鷹金 家 隆

皆人の心つくしに和この瀬をかきそとくむる文字の關守 兼 鏡

旅人の心つくしの道なれや往來ゆるさぬもしの關守 衣 笠

都をば霞とも立出て西の關も門司をこそ見れ 顯 輔

戀すてふ門司の關守幾たひか我書つらんころ筑紫 如 顯

都出て百代の波のかち枕なれてもうとき物にそ有ける 中宮大夫

戀してかくは人にもまらせなんおもふ心や文字のせきもり 幽 齋

古郷に言傳やらん一筆を書や絶なんもしのせきもり 清瀨公園

清瀨公園 は市街の後方色立山にあり園内廣潤にして樹木鬱茂し尤も眺望に富み其風致

絶倫なり 絶倫なり

和布刈神社 は門司港の氏神にして一に速戸大明神と云建武三年初めて足利尊氏社殿を

造營せし已來應永年中大内義弘文龜年中大内義隆天正年中仁保某寛永五年細川忠興明和四年小笠原忠總相尋ひて社殿を營む境内眺望絶佳の地なり 甲宗八幡宮 は清和帝の貞觀元年初て建立せし所にして玉依姫命品田知氣命大帯姫命を祭る文治元年三月源範頼神馬及太刀を献す義經亦鏑矢を献し平家退治の立願せし事あり 建武年中には足利尊氏本社を造營し享祿五年大友の兵火に燒亡す應永十二年大江元就神殿を再建し又慶安二年小笠原忠政本社造營の事等ありて古來由緒多し 例祭は毎年八月十四日十五日の兩日に執行す

大里停車場 (全國全郡大里驛にあり)

大里驛 は早柄海峽内の濱村にして大瀬戸を夾み引島と相對し峽西の海上には藍島ありて六連島と相接し海上の眺望甚だ佳なり又沿岸海水浴場に適するの場所多し

此地昔時柳か浦と稱し壽永の頃皇居のありし處なるを以て大裏、大裡又内里とも書せり皇居の址に就は諸説あれとも今定かならず茲に只其端緒を記して以て大方識者の高教をまつ平家物語曰

緒方三郎十萬餘騎にて攻めよると聞へければ山鹿の城をも(筑前國遠賀郡にあり)取物もとりあへず出給ひ高瀬船に棹して通夜豊前國柳といふ所にそ落着給ひけり河の邊の草もらに鳴虫の音までもよはりはてぬるを開給て大臣殿(宗盛卿)かくと思つとけ給ひける

さりとても思ふ心も虫の音もよわりはてぬる秋の夕暮  
彼所は地勢の眺望少し故ある所なりとて梅櫻桃李等を植へ九重のけしきおもひ出ければ  
さてもわたらせ給ふへき御心ありけり薩摩守忠度をにどなく口ずさみて

都なる九重の内戀しくは柳の御所を春よりて見よ

君住はこゝも雲井の月なるを猶戀じきは都なりけり

緒方三郎やがて襲ひ來ると聞へければ彼の御所にもわつか七ヶ日とまはしける御船にめ  
して通夜棹しけるに頃は九月の未なれば月くまなくさへ渡りさて四國の方へおもむき給  
ひけり修理太夫經盛

住馴し古き都の戀じさを神も昔をおもひ出らん

小宰相清經柳か浦にして更行夜船より身を投給ふ事いと哀れなり云々

企救の高濱 は大里驛より小倉町に至る海岸の總稱にして此間老松生茂り其狀甚た奇な  
り所謂根上松の一種にして悉く根を露らし其最も高きものは殆んど丈餘に及ぶものあり瀛  
車は此濱邊を通過し車上頭を回らせは千帆僅かに去つて千帆至る其好風景を眺めつゝ眞に  
旅憂を忘れしむ古來有名の勝地ふして古歌多し

豊國のきくの濱松こゝろにも何じか妹にひびしそめけん

豊國のきくの高濱たかくに君まつよるは小夜ふけにけん

家 隆  
人 賢

長月のきくの高濱月影にうつろう波を花かきと見る

音にのみきくの長濱よる浪のありも寐ぬ夜は數積りつゝ

音にのみきくの濱松下葉さへうつろふ頃は人は頼まじ

兼 馨  
光明峰寺

これよりや天の河原に續くらん星かき見ゆるきくの高濱

よそにのみきくの長濱なからへてこゝろ筑紫に戀や渡らん

八百日行くきくの高濱夜ととも秋の千とせやしるよも有哉

これのみそうつろふ色はなからまじ雪の花咲くきくの高濱

豊國のきくの長濱行暮し日のくれぬれば妹おしそおもふ

春秋の千代を友とや契らん散ぬ花さくきくの高濱

顯 輔  
正 徹

小倉停車場 (全國全郡小倉町にあり)

小倉町 是九州官道の始めて起る所にして大瀬戸の峽南硯海に臨み赤間關と相距ると海  
程凡三里あり舊小笠原氏の城市にして人口壹萬餘を有し繁盛なる小都會たり此地木綿綿帯  
地等を産出し世に小倉織と稱して著るし又此町内の重なる旅店は達見、藤井、近藤、廣田、  
高木、小寺の諸店とす

小倉城址 是現今第六師團第十二旅團の所在地にして天正年中細川忠興之を築き寛文以  
降小笠原氏代々の居城たりし處とす其地海岸に瀕し眺望絶佳なり

蒲生川 一名を紫川と云ひ源を菅生の瀧より發し町の中央を流れて海に注ぐ此川に沿ふて上流に至れば足立山、嵐山、菅生瀧等の名所古跡最も多し

八坂神社 は鑄物師町にあり縣社にして素盞雄尊を祭り其他十神を合祀す元和三年國主細川忠興の建立する所にして當町の總鎮守とす祭禮は六月一二の兩日にして三本松の淨殿に神幸あり此日は遠近の老若男女群集し其賑ひ甚だ盛んなりと云

神道蓮門教院 は塚町にあり建築壯麗にして庭園も亦見るに足る境内に高塔あり蓮門妙法塔といふ高さ丈餘旋らすに石欄を以てす常に參拜する者多し

永照寺 は寺町にあり眞宗にして古來有名なる巨刹なり世人稱して九州本山と云

福聚禪寺 は廣壽山と號す足立村にあり小倉町を距ると半里許舊藩侯小笠原氏の菩提寺にして寛文中藩祖忠政侯の建立なり開基は唐僧即非和尚にして其建築甚だ宏壯支院庵室

數宇あり寺背は高山巖々として恰も屏風を立たる如く山上には千疊敷吐月峯寺の勝地あり此地紅葉の名所にして秋季は滿山紅を呈し宛ながら錦織を布くが如く甚だ美觀なりと云又山頂に足立妙見あり地は尤も眺望に富み周防灘及中國四國の諸山を一目に瞰下して光景絶倫眞に仙境もかくやの感を起さしむ此地を過さるの旅客は宜しく登臨を試む可し

忘言亭の址 は鳥越山上の東位にあり小倉町を距ると一里餘舊藩侯の山莊なり此地は老松鬱蒼として晝尚暗く其眺望の絶佳なる左の一律を讀て知るべし物徂徠の養拙君二亭記を

るものあり委はしく此亭の景を記するも長篇なるを以て茲に略す蓋し養拙君は當時の藩侯にして即ち該亭を築造せし人なり

寄題忘言亭

淡 窓

孤亭勝槩冠倉藩 隔浦人家古穴門

帆映暮山留遠影 樓搖春浪曳餘痕

名園未識南塘路 高會何傾北海尊

此日風煙空想像 欲題詩句亦忘言

延命寺山 は延命寺所在の地にして一に東北山と號し寺に東照權現を祭る寶永年中時の

藩侯廣壽山より此處に移すと云ふ此地は慶應丁卯の年藩兵長州奇兵隊と交戦せし所なり亦

眺望に富み納涼觀月の勝地たり

武藏山 は宮本武藏墳墓所在の地にして高碑あり玄信二天居士の碑みこれなり碑文は略す

宇佐八幡宮 は宇佐郡宇佐御許山の麓にあり小倉町より道程凡十八里祭神は應神天皇に

して田心、湍津、市杵島の三女神并に仲哀帝神功皇后を合祀す官幣大社にして神殿莊嚴九

州第一の大社なり本社は元明帝の和銅五年に創建す

一説に欽明帝の三十一年神勅により崇め祭り神殿は聖武帝の神龜四年に創めて造營せりと

も云ふ

社地 是小倉山と號し高さ十餘丈寄澤川御物川其麓を環流し下流相合して恰も鳥嶼の狀を成す日本紀に宇佐島の稱あるは蓋し此故なるべし祭禮は毎年二月十月に各十日間其式を行ふ又三月八月の十五日に放生會あり

ありきつゝきつゝ見れともいさきよき人の心を我わすれめや

新古今

西の海立白波の上にしてなにくすらんかりのこの世に

夫木集

和この原波路へたつか宇佐の海深きちかひは世にもかわらじ

同

宇佐の宮我立杣のひじりをもはくも神の末の嬉しき

慈 續

けふまては生の松原いきとれと我身のうさに歎きてそふる

同

流れきて浮身はこよによるも川月の瀬にしもしつみはてなん

家 集

影見れば月も南によるも川清き流れを渡るみや人

幽 齋

抑も人皇四十八代稱徳帝の時に在りて僧道鏡君寵を待み竟に覬覦を圖りて宇佐の神勅と詐はり自からあして天位に上らしめんを人をして奏せしむ 帝和氣清誓を宇佐神宮に遣はして其神教を伺はしむ清誓宇佐に詣り還つて神旨を奏して直言憚る所なく妖僧をして異志を遂ぐる能はしめざるのみならず終に之を斥けて國跡を辱かしめざりしもの本社之神威清誓の忠節偉且大なりと謂ふべし

彦山 是又英彦山と稱す小倉町より十餘里著名の大山にして國の西南隅に位し筑前及豊後に跨り山頂を高千穂の峯と云ふ

上古諸神の降臨ありし處にして山中奇怪の岩窟多く其數總へて四十有九就中豊前編巖若窟を最も著名なるものとす

此山は文武帝の慶雲二年役行者の開山にして爾來修驗行法相傳はり以て近年に至れるなり俗に彦山山伏と稱せしもの即ち此山の行者なり

山中巖若窟の奥ふ靈池あり池水常に湛々として明鏡の如く若し世に不祥あらんとする時は必らず變狀ありと云

所れ人のるむるしを筑紫なる比古の御山の玉の湧く池

法 遵

いさきよき日子の高根の池水にすます心のすまさらめやは

讀人不知

英彦山神社 是山中にあり國幣小社にして天忍穗耳尊及ひ伊弉諾伊弉册の二尊を祭る神代よりの鎮座なり

彦山高處望氣氣 木末樓臺晴初分

淡 窓

日暮天壇人去盡 香烟散作數峯雲

耶馬溪 是高瀬川の上流にあり山國谷の別稱にして溪間十里洞門巨巖相連り羅漢寺等と總て奇景の地にして文人墨客の杖を曳くもの甚だ多し

黒崎停車場

百八十四

峰容面々趁看殊 耶馬溪山天下無  
 安得彩毫如畫巨 生練一丈作橫圖  
 石約峯頭山東溪 烟雲錯落樹低迷  
 書人要聞黃家秘 何不齋糧到鎮西  
 青帘往々賣新醅 杜宇花紅夏已回  
 一百里唯隨潤轉 十三邨總背山開  
 危峯拔地尖於筍 瘦樹纏巖短似符  
 怪得旅窓瞻昔夢 銀門關下策驢來

山陽 星巖 淡窓

黒崎停車場 (筑前國遠賀郡黒崎驛にあり)

黒崎驛 是筑前國驛路の首めにして豊前小倉町より二里此地往時は九州諸侯の江戸参勤の上下及び九州に來往する陸路の旅客は必らず通過せし要路に方り從つて土地賑かりしも現今舊時の如くならずと又舊藩の頃は關所を置き出入の人を檢じ國中の婦女は手形なくして濫りに國外に出つるを許さざりしと云

帆柱山 是古來有名の所にして眺望甚だ佳なり驛を距ると半里許にあり傳云昔神功皇后三韓御征伐のその櫓檣を置給へりと仍つて其名あるならん山に寺あり許多の寶物を藏すと云其他春日社、祇園山、龍潛寺、紅庵地藏等ありて共に有名なる勝地なり

折尾停車場 (全國全郡折尾驛にあり)

折尾驛 是九州鐵道線の外亦た興業鐵道線の通過する所にして兩線路相交りせりこれに依つて九鐵線の乗客にして直方町及び若松港に往返せんとする人は此驛にて乗換あり宜しく注意すべきなり里程は直方へ九哩にして若松へは七哩とす

因に云興業鐵道會社は其名稱の如く主として興業上の目的より成り成り石炭の運輸等尤も盛なりと云今該線の起止兩驛の概要を左に附記すべし

直方町 是當國鞍手郡にあり繁盛なる土地にして元和年中に藩侯長政其季子隆政を此地に封じ四萬石を分ちておれを領せしめ居館を建設して士民も共に移住せしむ爾來一の廣昌となれりと後數代を経て絶封宗家に合す

若松港 是本國長位の隅にして遠賀郡島郷の東頭にあり東方は海を隔てて豊前長門の兩國に對し水陸の便大に宜しく行旅の來往頻繁なり殊に船舶の出入多くして繁盛なる一港なり昔時巡見使九州下向の時は往返共に此地に留る恰も常例の如くなりしと

赤間關には海上五里葦屋港にも亦五里にして小倉へは二里なりとす傍近の海邊を連歌の演といふ佳景の地なり

洞海 是若松より山鹿浦に通する入海にして周回六里海口東は名護崎出て若松港とこれを扼し西は山鹿浦と蘆屋港と相對して其口を擁す其形勢細長にして山鹿若松の間凡う四

折尾停車場

百八十五

里其中廣きは半里狭きは四五間に過ぎざる處あり古仲哀帝の八年筑紫に行幸し給ふ時神功皇后は別船にて此海より岡の湊に着玉ふとまた豊太閤征韓の時も皇后の遺徳を追慕し其吉例を幸として此海を通り給ひしと里老これを語り傳ふ

遠賀川停車場 (筑前國遠賀郡遠賀川驛にあり)

遠賀川驛 是遠賀川に沿ひたる小村落なり

遠賀川 是國中の大川にして源を豊前の彦山の麓より發し其流十五里而して十二里の間は舟運の便ありて河口は即ち葦屋港なり

葦屋港 是遠賀川の河口に類し山鹿浦と相對して一港をなす遠賀港水葦の岡港又岡の港等の別稱あり古來有名の勝地にして皇祖神武帝の日向より出て東征し給ふ時先づ久しく駐蹕あり降つて仲哀、神功、天武、安徳の諸帝も相尋ひて此地に行幸あり降つて文錄年中には豊臣太閤朝鮮征伐の時艦を此港に離しされより渡海せしと云海岸は白砂青松相連り玄海の眺望際涯なく眞に光景絶美なり

水葦の岡の湊の波の上に敷かきすてゝかへる雁金  
千方吹く音を寂しき水葦の岡の湊の秋の潮風  
唐土の空も一つにみゆるまで葦屋の沖にすめる月かけ  
行とまると心つくしの哀れさは葦屋の里の松の夕ぐれ

素羅  
行尊  
慈鎮  
同

往古此地金屋町に笠師數家あり其元祖は元人の歸化したる者にして名工の譽あり其製作品は時の禁庭及將軍家等に賞用せられ茶人の愛玩する名器甚だ多かりしも天正の末に至り其家斷絶せりと云

山鹿城址 是葦屋港の對岸山鹿村にあり壽永の頃山鹿秀遠の居城たり壽永中平家の軍一の谷に敗れ安徳帝を奉じ一門悉く相率ひ難をさけて西下するや先づ太宰少貳種直の館に據り尋めてこの城に轉せしも源氏の部將緒方三郎の來襲に逢ひ豊前の國柳が浦に遁れ給ふよし平家物語源平盛衰記等に見ゆ

浪懸岸 是山鹿村の海岸大小二ヶ所ありて西北の風烈しき時は岸打浪の翻反として恰も吹雪の狂風に捲るゝと一般眞に壯快たる一奇觀たり

我袖のぬるゝをなにくたどへまじ浪懸の岸世になかりせば  
松の根にあらはれにけり年を経ていかて崩れぬ浪懸の岸  
懷中抄  
夫木集

赤間停車場 (全國宗像郡赤間驛にあり)

赤間驛 是街道の一村落にして殊更に記すべき事なし節婦松尾ねまきの碑孝子竹丸正助の墓あり共に驛を距ると遠からず此地を通過する人は宜しく就ひて其遺蹟を追吊すべし傳は山陽文集筑前孝子傳等に詳かなり

宗像山 是赤間村の上なる蘿ヶ岳をいふ傳云神武帝東征して岡の湊に來給ふ時一神赤馬

赤間停車場

に乗りてあの里人に下知せりと故に里名を赤馬と稱せしが今赤間と書するとなん  
筑紫なる宗像山の西にすむ翁と君と我とこういへ

読人不知

佐夜形山 は鐘崎村にあり山高からずといへとも一山孤立し係累なきを以て三面は海一

面は白砂地の長汀陸につゞき其風光愛すべし

あなし吹さやがた山に雲はれて月影たゞむ迫門の白波

惟明王

夜舟あく迫門の潮干をよそに見て月にそ越る佐やかたの山

中 務

鐘御崎 は北方玄海に突出したる岬角にして慈島其前に横はる往昔三韓より梵鐘を渡來

して此近海に沈没せり故に此名ありといふ亦他に一説あれども茲に略せり里人云其鐘今に  
存在して確かに海底にふれを見らる

千早振る鐘のみさきを過れとも我は忘れず志賀の皇かみ

讀人不知

白波の岩打音や響くらん鐘のみさきのあかつきの空

衣笠内大臣

音にきく鐘の岬はつきもせずなる聲ひやく渡なりけり

俊 頼

福間停車場 (筑前國宗像郡福間驛にあり)

福間驛 は驛次の村落にして記すべき事なし

宮地嶽神社 は宮地村にあり驛を距ると一里半祭神は阿部丞相にして (即ち宮地岳大明

神) 藤高宮 (勝村大明神) 藤助磨 (勝頼大明神) の二神を合祀す以上の三神は共に往時神

功皇后三韓征伐の時從軍して功勞ありし人なりと本社は運命を守護するの神とて商家の尊  
信殊に篤く近年更に崇拝者を増加して其參詣人の多きを太宰府天満宮に亞ぐと云

宗像神社 は田心姫湍津姫市杵島姫命の三神を合祭する官幣中社なり而して田島大島澳

島の三所に鎮座し各所其主神を異にす然れとも右三神に外ならず尊號は田島にあるを邊津  
宮大島にあるを中津宮澳島にあるを沖津宮と云神代よりの鎮座にして歴世の皇帝幣帛を捧  
げ又寶物等の御寄附あり大祭は陰曆九月一日にして勅使參向奉幣の事あり此日は參拜する  
者遠近より群集す例祭は十一月十五日にして此日は諸商露店を張り農具及び諸雜貨等を買  
ぶもの多くして大に賑かなりと云

田島は鐘御崎の西に方り大島は同岬の北海上二里澳島は其北十里にありと云

大島にて

さりとも身の愛事は大島の神の心を頼むはかりが

具 氏

船人を誰を戀とか大島のうらかなしげに聲のきこゆる

同

澳島にて

たつ波に鼓の音を打ちへてからひとよせぬ澳の島守

顯 仲

澳島の磯邊に大鼓石とて巨岩突屹として洞門をなし潮の干満に浪の音恰も鼓を打つの音も  
似たりと

福間停車場



古賀停車場 香椎停車場

百九十一

安倍宗任の墓 は大島にあり抑もこの宗任は陸奥の豪族安倍貞任の弟にして八幡太郎義家と戦ひ軍敗れて生捕られ時の禁庭より引出され梅花の詠歌をよせしとは三歳の兒もよくこれを知りたる事蹟なるが後伊豫國に流され尋ひて本島に遷されて終に此地に死せりとか而して三人の男子を生み長子ハ肥前松浦に行き松浦黨祖先となり次は薩摩に行き又三男は此島に止まりて島三郎季任と稱し其子孫今に存すと云墓は島内安昌院の側の榎樹の下に建ち五輪塔なり此院は宗任の宅跡にして遺孫妙任尼の開基なりと

かつら洞 是勝浦村の沿岸の地なり福間驛より凡三里傳云神功皇后三韓より凱旋のその刻み此浦に上陸し玉ひしより自然かつらの稱起り古き名所なりしかとも今は田島鹽田等となり多額の製鹽を産出す

古賀驛 是驛次の一村落なり

立花宗茂の城址 是停車場を距ると遠からず初め大友左近將監貞載の築く所にして貞載戦死の後其弟宗匡立花氏を繼ぎ累代此に據り其後小早川隆景の所領となる

香椎停車場 (全國全郡香椎驛にあり)

香椎驛 是古來著名の勝地にして一小市街をなす往古仲哀帝の行在所たりし處なり且つ此地に崩御し玉ひて後も神功皇后駐蹕ありて國中處々の敵を攻め數年にして平定し次いで

三韓征伐の時も此處に陣立し以て發軍し給へりと此故に依り驛外に神宮ありて豊前の宇佐の神宮と共に九州の大社なり此地名産として椎茸を出す

香椎宮 是停車場を距ると二三町の處にして即ち行在所の跡にあり官幣大社にして神功皇后を祭り八幡住吉の兩大神を合祀す鎮座の創始は詳かあらず社記には元正帝の養老年中神託により云々の事ありと貞觀十一年に再建す境内に老杉あり綾杉と名づく皇后凱旋の時手つからこれを裁け給ひしものなりと其葉相交りて綾をなせり故ふ此名ありといふ此杉の葉は天平神護元年已來毎年朝庭に捧るの例あり又昔時太宰の帥となり西下する人嘗社參拜の時神官此杉の枝を冠に挿すの故事ありき

新古今

千早振る香椎の宮のあや杉は神のみそぎに立るなりけり  
又御飯水とて神饌を炊く鹽水あり一に不老水と稱す此處は武内大臣寓居して調度を捧け玉ひし故其家は老の舍また老の山老の水等の名稱あり

香椎洞 是濱男の海邊を云勝景の地なり

いさとも香椎の洞に白妙の袖さへぬれて朝を摘まん  
大 伴  
時津風吹へくなりぬ香椎洞潮干のきはに玉藻かりてん  
大 貳  
行返り常に我見し香椎洞より後は見んよしもなし  
男 人  
沖津風寒く吹らしかすひ洞潮干の千鳥夜半に鳴らん  
爲 家

香椎停車場

百九十一

香椎停車場

百九十二

船出する沖津鹽さび白妙の香椎の渡り浪高く見ゆ

聞しにけしきさ勝る香椎洞窟しかりは海の中道

奈多の白濱 なただのしろはま は即ち海の中道なり奈多より志賀島に至る一條の砂地にして其間三里砂は

純白にして恰も棒糖を細粉したると一般青松其上に連りて光景真に絶倫なり松露及び金  
茸は此松原の名産なり

松林横截大洋潮 萬壘波間碧一條

山陽

此景何縁在西僻 直須奴僕命天橋

名島 なましま は城址にして驛を距ると二三丁立花鑑載初めて城を此地に築き天正十五年大關三  
韓征伐の後小早川隆景に賜はり同十六年本城を築けりと其後黒田氏も入國の際此に居城せ  
し事あり

此地の海濱に奇石あり楢石と名づく傳云神功皇后の三韓より歸り玉ふ時御船の楢を捨てか  
れしもの化石したるなりと

多々羅濱 たたらはま は多々羅川の邊をいふ此地は建武の昔足利尊氏京師に敗れ逃れて此國に來り

し時南朝の忠臣菊地武敏征西將軍懷良親王を奉し大に戦ふてこれを敗り降つて永祿十二年  
毛利大友兩家の軍戦争ありし古跡なり又此地草場山に礦泉あり風光明媚愛すべし  
地藏松原も亦多々羅河邊にあり有名なる地藏堂あり庵を北山重盛山還國寺と名づけたり此

箱崎停車場

百九十三

地藏の石鉢は小松内大臣重盛公砂金を宋に贈りし時その歸便に載せ來りしものなりと又あ  
の松原に米一磨の石塔あり磨に可憐の逸話あり請ふ此地の古老に聞け

箱崎停車場 はこざき 停車場 (全國全郡箱崎驛にあり)

箱崎驛 はこざき は香椎と共に上世已來其名世に聞へ津浦またから袖の湊等の舊稱あり應神帝  
の御胞衣を箱に納めて埋めしより箱崎の名興る又右の縁由を以て後世宮を此地に建つ即ち  
箱崎神社なり

箱崎神社 はこざき は千代の松原にあり官幣中社にして應神帝を祭り仲哀帝并に神功皇后を合祀  
す天平寶字三年の創建にして四面の廻廊は長徳年中太宰大貳藤原有國立願成就の爲建設せ  
しものなりと祭典は八月十五日にして又舊正月三日には村内の壯丁相集り珠競てふ戯れを  
なす奇觀なりといふ其戯珠に二種あり満珠干珠と名づく

延喜年中醍醐帝親から紺紙金字にて敵國降伏の四字を書し神前に捧げ玉ふといふ其數三十  
七枚にして時の寶算の數なりと樓門に掲ぐる大額は即ちその寫なり又樓門の門は有名なる  
後藤の作なり千匹猿を印鑄す妙手見るべし境内ふは石燈數十基並列し又著名なる標松あり  
即ち御胞衣を埋めたる時其標として植たるなり

箱崎や千代の松原石たぐみくつれん世まで君はまじませ

管 家

千早振神代に植し箱崎の松は久しき印しなりけり

行 清

箱崎停車場

百九十四

跡たれて幾世經ぬらん箱崎の印の松も神さひにけり

顯朝

幾代にかのこり傳へん箱崎の松の千とせの一つならねは

重之

あけてこり見んと思ひし箱崎の波間に霞む松の村立

景樹

廟門峯巖面長瀾 仰視彫題照碧灣

山陽

長倚神威伏戎狄 新羅高麗指揮間

千代の松原公園 是即ち箱崎松原なり白砂青松相連る一里餘天然の風色類ひなきに園地を造り花卉を栽へ層一層の光彩を添へ遊客をして轉た歸るを忘れしむ

昔天正十五年太閤本州に下向あるや特に此地に遊覽ありて近侍の人に各歌つこふまつれとありて自から詠しられしは

あつき日にこの木の下に立よれば波の音する松風そ吹く

太閤

千とせをもたこみ入れたる箱崎の松に花さく折にあはさや

同

此歌は細川幽齋書して箱崎神庫に藏し今尙存在すると云又此時宗對馬守歌一首を贈り幽齋に發句の所望ありて其和歌に

敷島の道すなほなる御代に逢ひて恵み久しき箱崎の松とあれは其歌の結末の一字により詩にて和せらる

始識蓬君情所鐘 向來相釣對開窓

帝都門外莫言遠 千里同風一樹松

又此松原にて千利休茶を獻せしと度々なりしと今街道の側に一小紀念碑あり點茶地と記す即ち利休の釜掛松所在の地にしてその松ヶ枝に釜を釣るし松葉を焚きて獻せし所なり碑は千宗易これを建つ

崇福寺 是横岳山と號す箱崎松原の中に入り仁治元年僧湛慧初め一寺を太宰府横ヶ岳に建立し其翌年聖一國師宋より歸朝し其師佛鑑禪師に乞ふて萬年崇福寺の遍額を認め本寺に掲げて寺號となす蓋し勅賜に基くといふ天正年間兵火にかより悉く灰燼となる後藩侯長政これを再興して今地に移し結構壯麗を極めたり而して自家の菩提所となし大に保護を興へたりと

昔て後嵯峨帝西都法窟の敷額を賜ふ今佛殿にあるは其寫なり境内には藩祖如水已來歴代の塋城ありて幽靜閑雅寂として人蹟なく尤も靜思養神に適す寺寶種々あり殊に多く内外の古書畫を藏す

御所陣 是原町村にあり貞治元年征西將軍懷良親王の御陣所ありし處なり

宇瀨八幡宮 是宇美村にあり祭神は應神天皇にして神功皇后外二神を合祀す社殿壯麗にして參拜者常にあふし此地は應神帝降誕の地にして山水清秀風光頗る雅致なり境内に衣掛の森湯釜の森等の巨楠あり神木に槐の木あり皇后御産の時其枝に縋り安産ありしと因つて

箱崎停車場

百九十五

繼植して今日に至り回らずに瑞籬を以てす世俗槐を子安の木と稱するは此縁故に由るなるべし又産湯水とて石柵をめぐらしたる清水あり世人これを汲んで産前の婦人に授くと祭典は毎年十二月十三日に執行す

もろ人をはくむちかひありてこそ産の宮には跡をたれけり

家 隆

掛巻もかしこけれとも産の宮わかたのも君に験あらはせ

慈 鎮

朝日さすかしひの杉にゆふかけて曇をてらせ世を産むの宮

西 行

須惠の目薬 は其名九州に著るしく上須惠村に田原氏あり下須惠村に岡氏あり内橋村に

中村氏あり共に舊福岡藩の典醫にして其處方ハ一子相傳の秘訣なりと

博多停車場 (筑前國福岡市博多町にあり)

福岡市 は福岡博多の兩地を合して一市をなす舊黒田侯の城市にして人煙稠密市街繁盛人口五萬三千餘と稱す那珂川其中央を流れ河東を博多とし河西を福岡とす中島其間にあり

福岡 は舊所謂士族町にして現今諸官衙學校新聞社及國立銀行等多く此區域内に在り

博多 は九州北部の要港にして特別輸出港の一なり港口は西北に向ひ玄海に通じて大海をなす灣の廣袤方二里許周回凡十餘里に及び殘島志賀島との灣口を要す灣内には船舶常に稠湊し神戸大坂及び四國中國より伊萬里長崎諸港の間交通の便日に數回陸路は汽車の便あり

りて旅客の來往貨物の出入大に頻繁雜沓を極め商業の盛にして街頭の賑はしき恐らくは九州第一に位せん

此地は上世より外船の來往せし處にして當時袖の湊の稱あり天文文祿の頃は數回兵火の厄にかこり民家盡く燼燼し全く荒廢に歸せしを天正年中豊太閤島津征討出陣の時各地の慘狀を歎惜し自から街衢の規畫を定め無稅地として再び繁榮の基を立つ此時進歌の催ありて小寺休夢(藩祖長政の大叔父なり)前句して立并べたる門の賑といはれしに太閤とりあへず博多町幾千代までか募るらんとつけ給ひしとなん其後十四の星霜を経て慶長五年孝高の子黒田長政比國を領して福岡に居城し爾來子孫相襲きて以て明治の維新に至り従つて今日の奎運を見る

海原や博多の沖に繁りたる唐土船に時告るなり

兼 昌

博多曉望

落月逗滄波、宿雲懸畫棟、一聲柔櫓來、撲破千宗夢

淡 窓

福岡城址 は營市福崎の丘上にあり此城は舊藩祖黒田長政入國の後即ち慶長十六年甫めて土工を起し七閱年にして成功せし堅固なる名城なり爾來子孫相襲きて廢藩置縣に至るまで居城せし所にして現今陸軍省の所管に屬し第六師團の分營あり

西公園 は福岡荒戸町の東端荒戸山上にあり元と東照宮のありし處にして東西南の三面

は遠近の諸山と對し北は玄海の碧波を望み洋中小嶼羅列して白帆と黒烟は西に東ふ織るが如く又頭を回らせば海の中道箱崎の濱白砂青松相連り一望の間能く百般の現象を認め其風光の優美なる他に多く比類を見ず眞に必遊の勝地なり

藤園 は同町にあり園の廣袤二反歩餘全園盡く藤蔓にして花時は曳鈴の雅人多し

櫛田神社 は博多祇園町にあり市の産土神にして祭神は大若子命、天照皇大神宮、素盞雄尊の三坐とす傳云素盞雄尊は小野好古天慶の亂に純友征討祈願のため此に崇め奉ると社殿宏莊にして境内また華麗を極む大祭は例年舊六月十五日祇園會と稱し其式甚だ盛んにして此日は遠近の老若群をなし大に雜沓を極むと云

又本社寶物多し豊公其他諸將記名の古文書松浦佐用姫の持ちし古鐘光佐成筆六歌仙の畫其他黄金の名刀等なり

綱場天満宮 は同綱場町にあり菅公を祭る此地は菅公左遷の當時上陸ありし古跡にして其上陸に當り進むべきの坐床なく綱を巻きてこれに充てたりと因つて地名も綱場の稱あり豊國神社 は同奈良屋町にあり豊臣太閤の靈を祭る社殿は明治十九年七月の建立にして結構壯麗なり

抑も豊公の博多に於ける御徳は前既に述ぶるが如きを以て諸有志相謀りて其洪恩を永久に記せんとて本社創立の舉ありしと干時博多再興より三百年に當れりと云

因に記す昔當地に神屋宗湛といへる人あり有名の茶人にして大に豊公の恩を蒙れり依之豊公薨去の後は自邸に祠を建て窃かにこれを祭りて以て子孫に及びしと一介の茶翁にしてかくの如し當市有志家諸君の該舉ある亦宜なる哉

東公園 は同石堂橋の東敷町古への所謂十里松林の中にあり明治十年に開園す眺望甚佳ならずと雖ども砂白く松翠りに頗る消閑の地に適す又園内廣潤にして種々の遊戯場あり彼元寇紀念碑日蓮上人の碑等建設の企圖ありて園内に其事務所を置き専ら準備中なりと其竣功の曉は園中一層の光彩を増すべし

聖福寺 は安國山と號す同御供所町にあり開基は藥西禪師にして建久六年の創建なり抑も此禪師は最初我邦に禪を弘法せし人にして鎌倉右幕下に乞ひ此寺を創建す山門に額あり扶桑最初禪窟の六字を記す後鳥羽院の宸筆なりと後年兵火にかゝる數回小早川隆景これの中興し後又藩祖長政篤く保護を與へたりと

故に當寺は頼朝公を大檀那とし隆景を中興の大檀那となす各その紀念碑あり又寺裏に幼壽庵あり庵に垂櫻ありて花時は雅客の來り賞する者多し

本寺は什寶多く其一二を擧ぐれば開山禪師の頼朝公に言上の自筆、頼朝秀吉諸公の手翰、中將姫連系にて纏ひたる彌陀來迎の圖、達磨大師の像、宋雪烟筆瑠璃覺和尚贊、其他古書畫、古劍、唐製金銀銅の細工物多し

博多停車場

二百

承天寺 是萬松山と號す禪宗にして同上辻堂町にあり開基は聖一國師にして仁治三年宋人謝國明の創建なり年經て天正永祿の交屢々兵火に罹る豊臣太閤小早川秀秋黒田長政等相尋ひてこれを保護すと本寺も什寶多くして豊公家康其他諸將の臺狀あり又金岡の密畫觀音像及本朝宋朝の古書畫を藏す

東長寺 是南岳山と號す同上小山町にあり一に寶持院と稱し俗に太子堂と云ふ眞言宗にして開基は弘法大師大同二年の創建なり本尊には不動尊を安置す即ち大師の自作なり然るに現存するものは其頭部のみにして鉢部は後人の補作なりと云元弘年中兵火にかゝり一時烏有に屬せしも後藩侯忠之これを再興し自から大禮那となりて特別の保護を與へたりと境内には忠之侯の廟あり殉死の士六人の墓も亦其側に並列す

本寺稱號の起因は密教東漸して長久に傳へんとを期し仍つて東長密寺と大師自から命名せりと

劇場 是博多御供所町に教樂社同東中洲に永樂社あり共に建築壯大にして九州にて屈指の者なり

柳町 是九州最古の遊里にして初めは今の濱崎町に在りしを慶長年間此地に移され古來繁盛の巷なりと

里俗傳云往古異國より軍船を催ふし我邦を襲來りし事あり此時に當り小女郎といへる妓

女ありて大に才略あり聘せられて彼船に至り策を以て其大將を擒にし遂に陸上に拘囚せり然るに本國に在る彼が子等これを聞きて大に哀しみ萬里の波濤を渡り來り頻りに我官に愁訴して其許されん事を請ふ官終に其請を許す小女郎は此功に依り衆妓の長となれりとなん今其町内に墓ありとかの演戲にものさるゝ博多小女郎の狂言は或ひは此等の傳説に基きて編案修飾せしものならん

新茶屋 是石堂橋の東にあり此地往時は藩士が其藩侯及祖先の墓參の時更衣の休息所として起りたる所にして今や高樓軒を並べ絃歌の聲湧くが如く柳町と比肩の花街なりと云

志賀島 是博多灣口に在り島中蒙古塚あり此塚は俗に首切塚と稱へ弘安の役元虜の首を埋めたる所とす明治十三年伊太利國皇孫セノア殿下來朝の時其由來を尋ねんとて特に此に訪はれし事あり

憶昔胡元寇九州 樓船十萬無加愛  
神風那識起東南 蒙古山高是關隴  
後宇多帝の弘安四年元主忽必烈其將范文虎等をして兵十萬を率ひ來つて我西邊に寇す時に鎌倉の執權北條時宗九州の探題北條實政に令し諸將を督して迎へ撃たしむ我兵奮闘元兵をとして上陸する能はざらしむ一夜風濤大に起る我兵機に乗じて悉くこれを掩殺し生擒三人を放ちて國に歸らしむ爾來元兵復た我邊海を窺はず時宗の宏量其處置の果斷なる亦た其功の

博多停車場

二百一

偉大なる豈に壯快ならずや

市内重なる旅舎 是京屋、石田屋、松島屋、古賀文、山城屋、今任、海容館等とす、著名の物産は博多織、博多絞等とす

雜餉限停車場 (筑前國那珂郡雜餉限驛にあり)

雜餉限 是驛次の村落にしてコークス橋を産す

水城址 是水城町の端にあり天智帝の御宇外寇を防んとの目的にて築造せられしものにして大堤を築き其中に水を湛ふ堤の高五間東西に長きと八町許現今水田となりて其痕なし

ますらをとれもへるはれや水莖の水城の上に涙ぬくはん

大伴

岩垣の水城の關にむれむかふうちの心もしらぬもろひと

夫木集

國分寺跡 是水城町を距りたる山際に至る凡八町許にあり聖武帝の天平十二年に此地に建立ありし國分寺の跡なりと云

刈萱關の址 是通古賀村の境内にあり天智帝の御宇太宰府警固のために設置せられし者にして今宇關屋の西の内に其址あり此關の名は彼刈萱の故事に因り汎く世人に知られたり

傳云昔當國の武士加藤左衛門繁氏なるもの世故に感じ高野山に登り名を刈萱と改めて出家得道怠りなし然るにその妻子はこれを慕ひて同山へ尋ね行き麓に至りて妻女は長旅の勞れにや病に罹りて遂に死せり子は名を石童丸と稱しまだ妙齡の稚兒なれとも父を

暮ふの念は嶮はしき山路を事ともせずよふくにとどりつき父なる道心に逢見しもつれなく論じ返されて泣々もあかぬ別れをなせしと古來戯曲に演劇に人のよく知る所なり

刈萱の關守とのみ見へつるは人も許さぬ道へなりけり

管 家

思ひきや心筑紫のはてにきて宿りを今はかる萱の關

全 宗 祇

敷ならぬ身をも如何にと言問はくいかなる名をや刈萱の關

二日市停車場 (全國御笠郡二日市驛にあり)

二日市驛 是驛次の村落にして其地太宰府に接近するを以て舊蹟の訪ふべきもの甚た多し今二三を左に記載す

天拜山 是武藏野村にあり停車場より凡そ三四町それより登り四五町にして頂に天滿宮

祠あり山麓には武藏野温泉あり一名湯町と稱し浴客常に多し

傳云往古菅公の太宰府に配流さるゝや此山に登りて其寃を天に訴へ身は雷となりて上洛し盡く讒人を燒殺せりとこれ公の威嚴を誇稱せんとして後人の捏造附會せし俗話なるべし

太宰府神社 是太宰府村にあり停車場を距ると三十餘町菅原道實公を祭る宮幣小社にして延喜十九年の創建なり神殿は其結構紫宸殿を摸して甚だ古雅なり境内ハ廣瀾清楚にして

多く梅樹を栽ゆ菖蒲の池は社前にありて池中鯉魚を養ひ相輪の塔ハ亦域内に峙てり飛梅は老幹蟠屈自から神龍を誇るもの如し

傳云此飛梅は曾公京に在ますの日其庭園に植へて愛でられし名木にして公の此地に左遷の日に

東風吹かは匂ひあせよ梅の花主なしとて春をわすれぞ

と一首の和歌を名残りに館を出で玉ひしに後一夜にして此地に飛來り繁茂せしものなりとて此名あり花瓣は八重にして其色は薄紅なり而して其實は干涸して神符に封じ沈く世の信者に領つ

本社は古來世人の信仰篤くして參詣するもの常ふ多く日々平均千人以上に及ぶと云ふ實に當村千餘の戸口本社あるの故を以て晏然衣食するを知らは其神徳の偉大なる祭するに餘りあり祭禮は毎年三月二十五日小祭五月二十五日に大祭を執行すまた陰曆正月七日には鶯替の神事あり此日は遠國の信徒も百里を遠しとせすして參拜する者殊に夥しく旅舎の如きも殆んど立錫の地なきに至り甚だ雜沓を極むと云其他境内末社多し

なさけなく折人つらし我宿の主忘れぬ梅のたち枝を

梅の花ぬしを忘れぬものならは吹らん風に言つてはせよ

古への光にも猶まざるらん鎮むる西の宮の玉垣

菅 家

全

慈 鎮

神垣に昔わか見し梅の花ともは老木となりけるかな

無常説法現神通 千里飛梅一夜搖

萬事夢醒雲吐月 觀音寺裡一聲鐘

經 信

明人 薩天錫

菅公の略傳

菅公は參議是善の子なり博學にして治體に通ず大に 宇多醍醐の兩朝に用られ累遷して右大臣に至る時に藤原氏朝廷に跋扈し其一族にあらされは高官に上るを得ず而して公の此榮進ある實に異數ありしなり藤原氏常にこれを妬む三善清行、公のその毒手に罹らんとを慮はかり書を寄せて致仕を勸む公純忠 帝の信任の厚きを思ひ一身を省みるの違あらす銳意政を勉めて只管 聖恩に奉答せんとを期す仍之其裁決流るゝ如く時人大に其徳を稱す既にして公關白に任せられんとするの説あり於此か藤原氏のこれを思むと益々甚しく遂に議を擲へて曰く道實廢立を圖るの意ありと爲に筑紫に貶謫せられ年を経て終に配所に薨す于時延喜三年二月二十五日にして享齡五十九年なり其後 帝大に悼惜し給ひ國典を以てこれを祭り正一位太政大臣を贈らる菅公兼ねて文事に卓絶にして其詩歌文章甚だ多し今左に配所に在つて述懐の一絶を抄録す以て公が忠君の誠意を知るべし

去年今夜侍清涼 秋思詩篇獨斷腸

恩賜御衣猶在此 捧持日々拜餘香



大宰府の舊跡 是現今觀音寺村に其正廳たりし都府樓の痕跡を存す都府樓は天智帝の御宇初めて之を建て外賓接待所に充て玉ひし處なりと菅公の詩中都府樓纒見瓦色觀音寺唯聞鐘聲の句あり此屋瓦は唐土の物にして恰も鐵の如く世人珍重して硯材等に用ゆる者あり抑も本府は鎮西府、都督府、西の都等と稱し舊記に因つて按之に其長官は權帥といひ九州及び二島を管し西方の藩鎮として専ら外敵に備へ其任重大なるものなりき應神帝の御宇三韓我邦に威懾せる時代に於て政事頗る頻繁なり故に武内宿禰をして本府を主らしむ云々これ本府設置の權輿ならん爾來宣化帝の時大伴盤連をして筑紫を鎮せしめ推古帝の時亦朝臣を居らしめ醍醐帝の時道實權帥となり並ひて大江匡房任に此に在り降つて安徳帝の時鳳鸞を駐め玉ひし事あり源氏は大宰少貳を置き次て九州探題を置く等の事あり觀音寺 是同村に在り戒壇院と相接す天智帝の開基にして別院四十九院あり往昔西國第一の大寺なりしといふも今は額廢して僅かに其跡を當時の古鐘を存在するのみ戒壇院 是同村にあり律宗にして日本三戒壇の其一なり天平勝寶六年四月唐僧鑒真此處に於て初めて授戒を行ひしと爾來九州にて該宗の僧たらんと欲するものは必らず來りて受戒するを恒とせりと云ふ

竈山神社 是國の中央竈門山の巔に在り大宰府より凡二里上代よりの鎮座にして醍醐帝の延喜年中託宣により神殿を營むと祭神は海神玉依媛命に神功皇后及び應神帝を合祀す本

社は古來靈驗著るしく且由緒甚だ多し此山は御笠山又寶滿山と云ひ應神帝降誕の時生湯を召させ玉ひしより竈山の稱ありと云ふ嶮岨にして登るべからず鐵索ありてこれを攀ち其頂上に達すと云山上四季の眺望に富み奇景筆紙に盡し難し

春はもへ秋はあがるふかまど山霞も雲も烟とそ見る 元 輔  
 竈山まだ夜をこめてふり積る峯の白雪明てこそ見ぬ 匡 房  
 音にきく富士の高根にあらねども三笠の山も煙立けり 公 任  
 都より西にあるてふかまど山烟絶へせぬ戀もするかな 讀人不知  
 あやしくもわれ濡衣きつる哉三かさの山を人にかられて 同  
 散るたひにもえまがれてもをしき哉竈門山の火さくらの花 道信法師  
 ふらはふれ御笠の山し近ければ巖島まては指て行てん 檜垣姫  
 立つやく雲を千里の煙にてにきふふ民の竈山かな 幽 齋

原田停車場 (全國全郡原田驛にあり)

原田驛 是當國南端の驛にしてこれより遠車は國境を超へ肥前の田代驛に接續す  
 朝倉の官址 是驛の近村に在り齊明帝行宮の舊跡なり 天智帝  
 朝倉や木丸殿に我れば名のりをしつゝ行きてこそ見ぬ  
 筑紫神社 是停車場より遠からず有名なる荒神にして九州十九神の一なりと

田代停車場 鳥栖停車場 久留米停車場

二百八

冷水峠 是九州の官道にしてこの麓より長崎熊本の兩道に分る其東に一邑あり秋月と云ひ舊小城市にして稍繁華の地たり

田代停車場 (肥前國基津郡田代驛にあり)

田代驛 是當國最初の驛路にして古來賣藥商多く近縣に行商すると盛んなり

太田山寺 是停車場を距る三町餘本尊は觀世音を安置し此邊にて有名なる佛神なり

八坂公園 是驛中八坂神社の境内にして庭園佳麗なり

鳥栖停車場 (全國養父郡鳥栖驛にあり)

鳥栖驛 是佐賀線分合の處にして旅客の出入雜沓す乗客の佐賀長崎兩縣下に行かんと欲する人は此處にて下車すべし

轟木町 是停車場より遠からず基津養父三根三郡々役所の所在地にして稍繁華の處とす之より記事は熊本線の久留米に移り佐賀線は巻尾に誌るす

久留米市 是有馬氏の舊城市にして筑後川環流の處にあり人口二萬五六千國中第一の都會とす古來商業繁盛の地にして耕、蠶、油、鹽、傘等の産出多く就中耕は此地の特産と爲す市内諸官衙、學校、會社等悉く備はれり今旅客便宜の爲め旅舎の著名なるものを擧ぐれば通町丸や、御井町木屋、芋坂川町松屋、三本松町鹽屋、酒井屋等あれなり

久留米停車場 (筑後國御井郡久留米市外に在り)

水天宮 是瀬下町にありて停車場と相對す縣社にして安德帝并に建禮門院を祭る本社は建久年間の創建にして常に參詣の人多く古來有名なる社なり境内老松鬱蒼として河面に映じ風光亦絶佳なり東京に分社あり即ち日本橋區蠣殻町有馬邸内の水天宮これなり

篠山神社 是篠山町の小阜上即ち有馬氏の舊城地にあり筑後川其西北を流れ其東南は平野に面し眺望尤も快豁なり本社は明治十一年に造營し有馬家累代の神靈を祭る處たり

梅林寺 是京町に在り元丹波國福地山にて僧禹門の開基にして舊名を瑞岩寺と號せり元和年間有馬氏此地に移し今の稱に改め以て其菩提寺となす寺内有馬家の墳墓あり此地は古來梅花の名所として雅人の杖を曳く所にして園中將軍梅と稱する名木あり

高山氏の墳墓 是寺町遍照寺の寺内に在り氏は彦九郎正之と稱し勳王家を以て世の能く知る所の奇傑の士なり近年正四位を贈りて東京靖國神社に合祀せらる

筑後川 は一に千歲川といひ又筑紫三郎と稱す古へ一夜川の稱あり九州第一の大河にして其流三十五里上流は豊後の日田川にして筑前の境を西に流れ久留米を環り南轉じて肥前の界を過ぎ大野島を抱きて有明の海に注ぐ文政年間山陽翁此川を下るの作あり左に録す

下筑後河邊菊池正觀公戰處感而有作

文政之元十一月、吾下筑水儻舟筏、水流如箭萬雷吼、過之使人豎毛髮、居民何能正平際、行客長思已亥歲、當時國賊擅鴟張、七道望風助豺狼、勳王諸將前後沒、西陲僅存臣

久留米停車場

二百九

武光、遺詔哀痛猶存耳、擁護龍種同生死、大舉來犯彼何人、髮剪滅之報天子、河亂軍聲代脚枚、刀戟相摩八千師、馬傷胃破氣益奮、斬敵取胃奪馬騎、被箭如蝟目皆裂、六萬賊軍遂挫折、歸來河水笑洗刀、血迸奔湍噴紅雪、四世全節誰儔侶、九國逡巡西征府、棟宇未肯向北風、殉國劍傳自乃父、管卻明使壯本朝、豈與恭獻同日語、丈夫要貴知順逆、少貳大友何狗鼠、河流滔々去不還、遙望肥嶺鬱南雲、千載森森骨亦朽、獨有苦節傳芳芬、聊吊鬼雄歌長句、猶覺河聲激餘怒、

傳曰菊池武光奉征西將軍懷良親王數與足利黨大友少貳二氏戰正平十四年大戰筑後河側克之

若津港 一名大川湊といふ筑後川の下流に瀕し久留米市を距ると四里繁盛なる良港にして船舶常に輻湊せり

高良山 一名不審山又高牟禮山の稱あり國の中央に峙ちて停車場より一里許山頂に高良神社あり國幣中社にして高良玉垂命を祭る即ち武内宿禰大臣なり本社創建の年月は今詳かならずと雖へとも社殿の構造古格にして壯麗なる大社なり祭典は毎年九月九日にして參拜の人四時絶へず山中楓樹尤も多く其秋色甚だ佳なり

羽犬塚停車場 (筑後國上妻郡羽犬塚驛にあり) は沿道の一小驛にして特に記すべき事なし同郡内矢部村に後征西將軍良成

親王の御墓所といふあり其他接近の山本郡飯田村に善導寺あり浄土鎮西の祖にして古刹なりと又下妻郡尾島村に鑛泉あり同郡草野村に發心城の古跡あり

矢部川停車場 (全國山門郡矢部川村にあり)

矢部川の鑛泉 は停車場より數町の處にあり一小市をなするの鑛泉ハ肺胃の病者に適し浴客常に多し

柳川町 は矢部川驛を距る一里許久留米市に次ぎ國中の都會にして舊と立花氏の城市たり人口凡一萬を有し市街稍繁華なり

渡瀬停車場 (全國三池郡渡瀬村にあり) は驛次の一部落のみ他に記すべき事なし

大牟田停車場 (全國全郡大牟田驛にあり) は前海に瀕する要津にして船舶の出入常に絶へず石炭の輸出盛んにして市街

従つて繁榮あり又市内に一大紡績會社あり業務甚だ盛大にして職工七百餘名を役し年中の收入凡そ六七十萬圓の巨額に上ると

三池炭山 は我邦著名の炭山にして七浦、宮浦、大浦の三坑あり日々探炭の噸數凡一千五百噸大浦坑は馬車鐵道に依り七浦、宮浦の二坑は瀛車によりて共に大牟田に運搬す此地に三池集治監あり

長洲停車場

長洲停車場 (肥後國玉名郡長洲町にあり)

二百十二

長洲町

は國の北隅に位し古來の名邑にして熊本市を距ると九里餘人口凡六千あり此地は往昔景行帝西狩の時行宮を置かせ玉ひし處なりといふも今其跡詳らかならず

四王子社

は當村の産土神にして景行帝の皇子四王を祭る一條帝の永曆元年神託により奉祀すと傳云本社の氏子たるものは水難に罹るとなくまた鱗に噛まると事なし會々蛇蝎の社前に至れば身體の働作自由ならずと之に依り川守また鱗の御符と稱し神符を出す拜受するもの甚だ多し

腹赤濱

は腹赤村沿海の地をいふ此處は景行帝の西國巡狩以來腹赤魚の故事ありて今尙里老傳へ語る腹赤魚は此濱の名物にしてこれを饒きて買ふ家あり又濱邊に御供の池の古跡あり

四方の海波靜かなる御代なれば腹赤の賢もけふ備ふなり

腹赤釣る大わた崎のうけなわに心かけつゝすきんとそ思ふ

初春の千代のためしのなかはまに釣れる腹赤も我君のため

名石宮

は腹赤村の内上沖瀬村に在り長洲町より一里許景行帝并に皇后御刀媛を祭る朱雀帝承平三年の創建なり祭事は八月二十三の兩日ふして此日は市立などありて大に賑かなりといふ本社は舊と陸沖の二社となりしを元和元年神託に依り今地に合祀せしものを

衣笠右大臣

西行

二位中將

りといふ尙ほ村内には御腰掛石、御供水等の古跡あり

高瀬停車場 (全國全郡高瀬町外にあり)

高瀬町

は高瀬川の河口にありて繁盛なる小港なり港内船舶輻湊し穀類の輸出盛んなり熊本市以北の穀類は盡く此地に出だし他邦に積送るを例となし毎年の平均額六十五萬俵に上ると云ふ

寶成就寺

は不二山平等院と號す高瀬下町に在り眞言宗にして京都大覺寺の末派たり里俗談話所といふ嵯峨帝の敕願所たりし處にして九州眞言の根元たり本山は醍醐帝の延喜四年京都醍醐の聖寶僧正開基創建する所にして爾來の歴史甚だ多きも今こゝに之を略せり

願行寺

は蒼園山と號す新町に在り時宗にして相州藤澤清淨光寺の末寺なり崇光帝の貞和五年遊行上人の後五世他阿彌陀上人の開基にして彌陀の三尊を本尊となす寺内に龍造寺隆信の墓あり此地は即ち隆信戰没の處なり

温泉場

は郡内宮尾、立願寺、小天の三村にあり共に高瀬町を距ると遠からず其泉質も亦共に硫酸性の礦泉にして疥癬其他皮膚病に尤も妙効ありと云ふ

水葉停車場 (全國全郡水葉町に在り)

水葉町

は高瀬熊本間の小驛にして屋瓦瓶等を産出す世に水葉瓶と稱し其名著るし又土偶水葉積等の土製玩物あり共に此地の名物なり

高瀬停車場

水葉停車場

二百十三

植木停車場

春日大明神宮 是木葉村に在り天兒屋根命武雷神姫大神を祭る元正帝の養老七年時の國守靈夢に感しこれを創建せりと云ふ境内に宇都宮大明神の社あり此社は宇都宮隆房の靈を祭る隆房は南朝の忠臣にして征西將軍懷良親王に従ひ此國に來り延文年中筑後大原合戦の時奮戦忠死せし人なり親王大に悼惜し篤く此に葬りて社を建て神號を賜はれり  
廣福寺 是紫陽山と號す石貫村に在る禪寺なり元徳二年菊地武時の建立する所にして大智祖繼禪師の開基なり本山は菊地氏已來加藤細川等の國主世々篤く保護を加へ由緒寺實甚だ多し又山門の傍に御前水と稱する井泉あり豊大閣西下の時此水を用ひしとあり仍て此名あり

田原阪 是田原村往還の坂路にして停車場より五六町明治十年の亂も劇戦ありし處にして官賊勝敗の決は實に此戦ひにありしなり坂上に招魂社あり又一大紀念碑あり崇勳碑と名づけ當時の戦狀記して碑面に歴然たり一讀肝膽を塞がらしむ

植木停車場 (筑後國山本郡植木驛にあり)

植木町 是熊本市の北方に當り熊本より山鹿及高瀬に出る追分の宿驛にして稍繁華なる所とす

拜所の松 是町の北端ある路傍にある老松なり傳云往古肥前の人某篤く阿蘇神社を尊信し毎月參詣するを例とせり一日參詣の途次此地まで來り故ありて山に上るを得ず仍て此よ

り遙拜して家に歸り後ち其しるしとして此松を栽へたりと云ふ  
植木の森 是一に植木山と云町の北野にあり古松老杉繁茂して風致頗る幽邃なり傳云加藤清正所思ありて此森を作れりと又細川忠利の植ゆる處なりとも云ふ  
吉次峠 是高瀬街道の坂路にして頂上に古墳あり金買吉次の墓なりと云ふ吉次の事歴諸説あるも何れを信と定め難し依てこゝに之を略す此地も十年の役劇戦ありし處なり  
菱形八幡宮 是菱形村にあり古代の創建にして岩洞白龍窟の前に拜殿あり往時は大社なりしといふも久しく荒廢せしを以て藩侯細川綱利これを修理せられしと云ふ岩洞の内に小池あり菱形の池と云ふ形の似たるを以てなり祭典は八月十五日  
杵築大明神宮 是推古帝の二年に創建せし古社なりと云大已貴命其他六神を合祀す參詣人常に多し祭禮は九月十五日なり

池田停車場 (全國飽田郡池田驛にあり)

池田驛 是一に京町村ともいふ此地は熊本市外の一小街にして熊本市と接近す故に市の東方に所用ある人の此驛より下車するを便なりとす近時熊本市坪井町に直達する道路を開き交通運搬大に利ありと  
成道寺 是柿原村に在り停車場を距ると二十町餘萬歲山と號し禪宗なり寺内老樹蒼鬱として奇石多く幽靜なる佳境なり寺中七不思議あり左にこれを録す

池田停車場

池田停車場

二百十六

(一)夜々異香薫(二)無人讀經の聲あり(三)夜々無人鈴聲あり(四)夏夜蚊居らず(五)春時蛙鳴かず(六)番ひの雀のみにて群雀なし(七)双鴉ありて群鴉なし

本妙寺

は花園村に在り加藤清正侯の廟所にして嗣子忠廣慶長十六年十月の建立なり本山は發星山又中尾山とも號し初め法性山中比金峯山等の稱ありしといふ日蓮宗にして京都本國寺の末派なり最初京都妙傳寺の住職日眞上人攝州浪華に建立せしを清正侯入國の後當地の法華坂に移じ日眞上人を以て開山となせり于時慶長五年なり其後即ち慶長十六年今の地に移せるなり其時二世日眞上人當山に寺住たり 後陽成帝勅願の繪旨を賜ひ權大僧都法印となし又紫衣を賜はれり

清正侯の廟所 是境内の山上にあり法號を淨池院殿永運日乘大居士と云ふ廟側に自然石の碑あり侯在世中の治國安民の要を掲ぐ廟前參拜の人常に山をなし九州寺院中參詣の多きと當寺を以て第一となす

金峯山

は嶽村に在り上古一朝に湧出せりと仍つて朝出山の稱あり後世飽田山とも云今稱は菊地武重の命する所にして山上に權現の社あり 淳和帝の天長九年大和金峯山より勸請す傳云武重常に大和金峯山を信仰す一年肥前勢と戦ひ大に危ふし此山に祈りて終に戰勝を得たり故に山號を改めたりと武重は南朝の忠臣にして時に當國の國主たり嶽村岩下の曠原に合戰場及首塚、胴塚等の古跡あり天文中菊地大友の古戰場なり

熊本市 是九州の大都會にして舊と細川侯の城市たり人口五萬四千餘あり市街は白川及坪井川の兩岸に跨り廣袤凡一里四方道路清潔にして兩側に樹木を栽へ人車の來往繼るが如く百貨輻湊して常に繁榮を極めたり市内縣廳、裁判所、憲兵本部、大林區署、其他の官衙及第五高等中學校、九州學院、銀行、諸會社、新聞社、米穀市場等ありて建築何れも壯麗なり又劇場に東雲座あり九州第一の大劇場たり當市旅店の著名なるものは不知火館、研屋、綿屋、越後屋、種子屋等とす

熊本停車場

(全國飽田郡春日村にあり)

熊本市 是天正年間加藤清正當國の守護たるに方り建築する所にして其後寛文中に至り細川忠利封を此國に受けしより爾來子孫相襲きて此城に據り以て明治維新に到る維新後熊本鎮臺を置き現今第六師團の本營たり規模宏壯堅固にして實に天下の名城たり彼明治十年の役精悍の賊軍大舉して攻圍五十餘日に及ぶも遂に之を抜く能はず空しく兵をかへすに至る之れ時の城主谷將軍其措置の宜しきと名城たるの賜ものならん

錦山神社 是城廓内北方の高台に在り清正公の靈を祭る縣社にして明治四年の創建なり社殿壯麗にして境内廣潤清潔なり社前に碑あり安井息軒の撰文を刻す又城内法華坂の下に紀念碑あり谷將軍の撰文にして故山田將軍の潤筆なり園内には花卉を栽へ風致頗る雅美を極む

熊本停車場

二百十七

中原停車場 神崎停車場

西光寺 是細工町二丁目在り眞宗本派本願寺の末派にして明應年中僧了宗山鹿郡方保田村に創建せしを慶長元年加藤清正今地に移さしむと云子時本山第三世了勤和尚住職たり當寺の梵鐘は舊と唐の資福寺の鐘なりしを清正朝鮮征伐の砌押收して常に陣鉦に用ひたりと歸朝の時持歸りて此寺に寄附したるものなりと云ふ此外延壽寺順正寺を合せて眞宗の三大寺といふ尙市中には諸宗の互利基督敎の禮拜堂等數多けれども之れを略す

水前寺 是熊本市を距る一里餘出水村に在り舊と細川氏別業の地にして成趣園と稱し園内出水神社あり本社は明治十二年の建立にして細川家歴代の靈を祭る境内は頗る廣潤假山を築き奇石を排置す泉池は清泉湧出し常に湛々として山水相照映す其風致の幽靜雅美なる禿筆を以て寫し難し園中十景の勝あり

尙三角港、八代町、安蘇山其他の案内は再版の時詳記すべし

中原停車場 (肥前養父郡中原村に在り)

中原驛 是鳥栖驛より分岐し來る佐賀線の第一驛にして寂寥たる村落なり

神崎停車場 (全國神崎郡神崎町に在り)

神崎町 是博多より佐賀に至る各驛中尤も繁華なる處にして人口五千餘神崎郡役所警察署等あり又町内に櫛田神社あり此邊にて有名なり此地ハ素麵の産出多し

目田原松原 是町の東方に在り相連なる八町餘一直線にして好景の地なり

諸富港 是郡内に在り神崎町より行程二里筑後川の河口に臨み筑後の若津と相對し船舶の出入常に絶へず稍繁華なる港なり

佐賀停車場 (全國佐賀市に在り)

佐賀市 是鍋島侯の舊城市なり九州屈指の都會にして人口凡二萬九千佐賀縣廳所在の地とす又市内に裁判所、市、郡役所、警察署、學校、病院、銀行、會社、取引所及新聞社等ありて商工業盛んに行はれ常に繁榮を極めたり街衢の尤も重なる處は白山町、本町及新馬場等にして旅店は一ツ屋、榮徳屋、塚屋等其著名なるものとす

松原神社 是新馬場に在り縣社にして鍋島氏の祖先并に眞正公を合祀す社殿結構壯麗にして境内假山泉水等尤も佳美を極めたり

川上川 是市の東方に在り河水清麗にして河邊大に風致に富み夏時は納涼に適し春秋鮎漁を以て名あり河畔川上村に淀姫神社あり往時は肥前の一の宮たり

以上既設線沿道の案内を畢はる尙本線延長して長崎港に達するに至り沿道各驛の著名なる地は柄崎、有田、佐世保、大村及長崎等にして柄崎は古來著名の温泉場たり有田は世に所謂伊萬里饒を産出し佐世保は第三鎮守府所在の地にして大村は舊と大村氏の城市たり長崎は五港の一にして東洋の良港たる等人の普く知る所不日再版の時に至り悉く之を詳記すべし

佐賀停車場

# 阪堺鐵道

阪堺鐵道 是大阪市南區難波新地より泉州堺市に達する狭軌鐵道にして往復頻繁其乗客の多くして純益割合の多き事全國私設鐵道中第一なりといふ停車場ハ難波、天下茶屋、住吉、堺の四ヶ所とす

**難波停車場** (舞津國大阪市南區難波六番町)

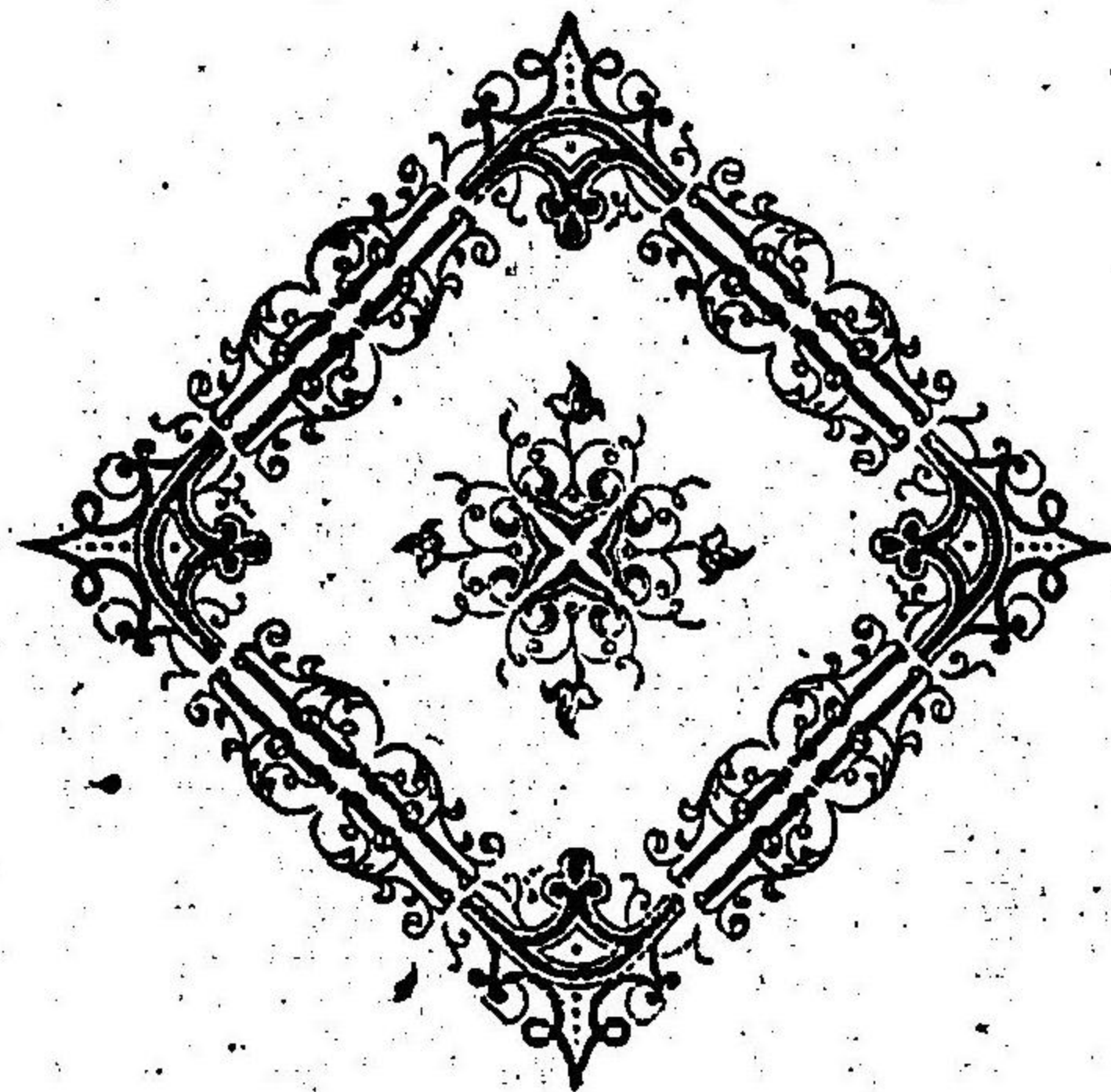
難波新地 是大阪市の南端即ち南區最も繁盛なる一廓にして道頓堀千日前 湊町停車場等皆三四町の所にあり所謂南地五花街の内なり停車場の南方數町にして今宮商業俱樂部あり又廣田神社戎の宮等あり地は今宮村の區域内とす以上詳細の案内は大坂の部に一括して茲に之れを略す

**安倍野** 天王寺村の南にあり停車場より二十町許元弘年中北畠顯家戦死の古跡にして其墳墓あり明治維新の後朝廷大に其中勳を追表し阿部野神社を創建し別格官幣社に列せらる顯家及父親房の靈を祭る明治十五年社殿の新築成り境内に多く櫻樹楓樹を移植して春秋の風致に富めり

北畠顯家傳

北畠顯家は中納言親房卿の長子なり天弘三年陸奥國司兼鎮守府將軍に任ず建武丙子の春

難波停車場





天下茶屋停車場 住吉停車場

二百二十一

尊氏京師を陥れ帝釈山に幸す顯家義貞及正成等とこれを京師に敗り遂ふて豊島河原に戦ひ遂に西海に走らしむ詔して征夷將軍となす三月中納言を拜し又鎮守府大將軍に任じ任に赴く帝南狩の時結城道忠等を率ひて上野國利根川に戦ひ鎌倉を陥れ驅て濃州里血川に至り力戦して利あらず伊勢を経て南都に屯じ嚴若坂に戦ひてまた利あらず堺浦に屯集し軍を進めて此安部野に戦死す時に元弘四年五月二十三日なり帝痛く悼惜し從二位を贈り其功を賞せらる

天下茶屋停車場 (攝津國西成郡勝間村)

天下茶屋 是阪堺間の街道に方る一小村落にして村内に有名なる茶店あり其齋といふ者豊太開此茶店に休憩し茶人紹鷗を召し喫茶するを恒とせり因て此名あり當時太開の愛玩せし茶器及び茶亭等今尙秘藏す  
今之紹鷗の森は即ち茶人紹鷗の居住せし古跡なりといふ又此地は林某父兄の驛を設けし事ありしより院本釋史等に載せて普ねく人の知る所なり

住吉停車場 (全國全郡粉濱村)

住吉村 是阪堺間の中央に位し即ち住吉神社所在の地にして參詣遊覽の人常に絶へず街道には茶店軒を並べ亦手遊品を買ふの家あり  
住吉神社 是住吉にあり停車場より僅かに二町古來當國一の宮と稱す官幣大社にして祭

神は第一の神殿底筒之男命第二中筒之男命第三表筒之男命第四神功皇后の四座とす神功皇后の攝政十一年之れを創建して皇后の祠は後に之れを合祀する所なり社殿の結構頗ぶる宏壯清麗にして社域亦廣大なり域の内外青松林を成し鬱蒼として遠く海邊に連なる西は茅海に臨み東は遙かに金峯葛城の諸山を負ひ風光明媚境内攝社末社多く又無數の石燈諸所に並列す

平城帝

われ見ても久しくなり住吉の岸の姫松幾世經ぬらん  
橋 是本殿の北側にあり三韓より來貢の時橋を以て第一の貢物となせしより初めて植て神木となす云々

誕生石 是第三神殿の側井垣の外にあり昔源頼朝土岐能員の女丹後局を寵し遂に懐妊す政子深く之れを妬み局を失はんと謀る頼朝の臣本多某竊に命を承けて局を具し此國に來りて本社に詣る時に分娩の兆あり本多某褥を石上に覆ひて只管神明に安産を祈る須臾にして男子誕生あり後建久元年十月頼朝上洛の時本多告ぐるに狀を以てす頼朝大に喜ひて伊賀伊勢二州を其生む所の子に賜ひ同十三年大隅薩摩の二州を與へ島津三郎忠久と號すといふ

住吉の志帥

道志らばつみにもゆかむ住のえの岸にたふてふ戀わすれ帥

貫之

住吉停車場

二百二十三

住吉停車場

二百二十四

住よじとあまは告ともなかぬすな人忘艸生といふなり  
忘貝 は住吉海濱の名産なり

忠 岑

いとまあらはひろひに行む住吉えの峯によわの戀わすれ貝

讀人しらす

墨の江に行きいふ道なきのふ見し戀忘貝こそじりけり

同

忘水 は淺澤小野の細江の流をいふ

住よじの淺澤をの忘水こへくをらてれふよしもかな

範 綱

人もみな結ふなれとも忘れ水我のみあかぬ心ちこそすれ

頼 政

夏虫の影見し澤の忘水思ひ出ても身はこかれつゝ

定 頼

住吉浦 は都て海濱の地をいふ一名津守浦ともいふ

住よじの浦の玉藻をむすびあけて渚の松の蔭をこり見ぬ

元 輔

住よじの浦風いたく吹ぬらし岸うつ波の聲しきりなり

惠 慶

けさ見れば雪もつものりの浦なれや濱松枝の波につくまで

慈 鎮

出見濱 は一名長畝浦ともいふ本社正面松林の極端なる海岸の地をいふ近時海水浴場

の設けありて浴舎等壯大の建築をなし以て遊客の宿泊に便にす又毎年舊曆三四月の交は海

濱遊淺となりて汝干狩に適す蛤は此地の名産なり

夏は又出見の濱を住吉と眞柴折しき誰か涼むらん

内大臣

秋の夜は月の光りも住吉の出見の濱の有明の空  
高燈籠 は出見濱にあり古來燈臺として設置する所にして所謂住吉の高燈籠と世人のよ  
く知る所なり

家 隆

堺停車場 (和泉國堺市吾妻橋通二丁目)

堺市 は和泉國の北端に位し大島郡に屬す大和川に沿ひ攝河の界に跨るを以て此名あり  
大坂と相距る三里南は岸和田信達を経て紀州和歌山に至る十五里神戸港へ海上十里にし  
て各地交通頻繁なり

明徳年中足利氏の時山名氏清當國の守護となり城を此地に築きて泉府と稱す後豊臣氏の時  
堺政所を置き維新の後堺縣を設置せり後又縣を廢し大坂府に合す

此地は昔は外國の商船常に來泊し繁盛なる互市場たりしも慶長年中に至り之れを禁せしよ  
り商業大ひに衰へたりと雖も富商舊家今尙存し人口四萬有餘あり街衢端正官衙諸會社  
費を列らね特に釀酒紡績段通織織物器の製造を以て名あり

大濱海水浴場 は堺浦の南端所謂大濱にあり停車場より六町餘西方茅渚海に面し遙か

に淡路島と相對す東北には遠く神戸港及六甲武庫の諸山を望み眺望甚佳なり海邊には

海水浴場旅店あり各自宏壯を競ひ屋内には浴場を設けて傍ら料理店を兼ね其最もなるもの

は茅海樓一力等にして魚肉の新鮮清酒の醇良なるは兩美といふべし

堺停車場

二百二十五

夏と秋さかひのうらの松風にかたへすしくよする白浪  
 妙國寺 是市内材木町の東隣にあり停車場より六町許開基は日珠僧正にして永祿五年  
 三好實休其寺地を寄附し諸堂は油屋常吉なるもの建立すと方丈の庭中巨大なる蘇鐵樹あり  
 傳へいふ實休曾て此地に住する時初めて植置しものなりと此樹古來著名にして十有株四方  
 に繁茂して大小枝凡百本餘四時鬱蒼として翠鸞の翔翺するに似たり眞に稀世の老樹と謂ふ  
 へし

開口神社 是市内甲斐町の東にあり又三村明神とも號せり伊弉諾尊の御子事勝食勝國長  
 狹命を祭る聖武帝の天平十六年行基僧正に勅して一字を建立し密乘山念佛寺と號す眞言宗  
 の靈場たり俗に呼んで大寺といふ繪旨院宣及將軍家の文書等數多し又末社夥多にして其他  
 金堂三層塔鐘樓食堂等あり

龍興山南宗寺 是市内旗籠町の東にあり開基は正慶普通の師とす三好長慶の創建にして  
 澤庵和尚を中興となす境内には千利休の塔其中にあり

一乘山家原寺 是家原村にあり堺市より東南凡三十町行基僧正護生の舊地たるを以て同  
 僧正の開基に係る本尊は文殊佛左右に釋迦普賢の二佛を安置す天平二年聖武帝の勅に依り  
 興正僧正之を再建す城内祖師堂藥師堂龍穴辨天池等あり  
 大僧正行基略傳

行基僧正は天智帝の第七年和泉國大島郡家原村に生る幼名法貴丸と稱す百濟の人王仁の  
 裔なり行基都鄙を周遊し衆生を教化し四方要害の地には橋を造り坡を築かしも民人今に  
 至つて其利を蒙るもの多し聖武帝深くこれを信重し詔して大僧正を授く僧正靈異神  
 驗多し時人稱して行基菩薩といふ留止の地皆道場を建つ畿内のみにして凡そ四十九  
 院諸道にも亦多し竟に天平勝寶元年二月寂す于時齡八十

大島神社 是大島村にあり堺市を去る南方凡一里許官幣大社にして日本武尊を祭り古  
 來泉州一の宮と稱す社地廣大にして老杉鬱茂し泉池あり亦堂塔あり境内の杉林は千種の森  
 とす

和田新發意墓 是和田村にあり和田新發意源秀は楠氏の一族にして宗家と共に王事に盡  
 し正成戦死の後は其子正行を補佐し貞和五年四條畷に於て正行と共に斃る家人遺骸を本土  
 に葬る今森の中に寺あり多門天を安置すこれ新發意の守本尊なりといふ

高師濱 是高志又高石とも書す高石村の海濱をいふ此地に濱寺舊址あり往古元享年中三  
 光國師の開創せる大雄寺の古跡なり東西八町南北廿四町許白砂青松相連り海を隔て須  
 磨浦明石濱一の谷又鐵拐峯と相對し南は紀の海阿波の鳴門と遠く接す風景絶佳又觀月の勝  
 地たり

れきつ浪たかしの濱のはま松の名にこそ君を待たたりへき

堺停車場

二百二十八

汝風に音も高しのはま松にかすみてかゝる春の夕なみ  
 汝風も夜や寒からしれきつ波たかしの濱に千鳥なくなり  
 あた浪のたかしのはまのみなれ山なれすはかけてわれこひめやも  
 音にきく高しの濱のあた波つかけしや袖のぬれもこそすれ  
 れきつ浪よする高しの濱松のぬにはなけとも人そつれなき  
 うつ浪の高しの濱の眞砂地にねひたる松のぬこそあなれ  
 戀すてふ名のみ高しの濱千鳥なくくかへる袖のあたなみ  
 身をわひる涙は今もいつみなるたかしの濱にみつる汝なり  
 沖津浪たかしの濱の松もなをぬるゝはかりの名にこそ有けれ  
 よる波も高しの濱の松かぬのかはくまなまきまくらなりけり  
 風あらし波や高しの濱千鳥ふみかよひこしあともたへぬる  
 物れもふ波の高しの濱松のまつもむなき色にふりつゝ  
 なきなのみ世に高しの濱松のつれなき色にこひやわたらん  
 たつ名のみ高しのあさのぬれ衣袖まきほさん波のまもかれ  
 たのめこし人にこゝろをれきつ浪たかしの濱の松そくるしき  
 岸和田 は堺市より四里道路平坦石津高石大津等の村驛を経て紀州和歌山街道に當る一

平親清女  
 雅言  
 定家  
 紀伊  
 盛徳  
 家隆  
 後鳥羽院  
 明恒  
 順徳院  
 定衡  
 俊成女  
 行家  
 知家  
 妙光寺  
 守親

驛にして本岡部家の城下なり和泉の中部大阪灣の東岸に面し海を隔てて神戸と相對し南は  
 僅かに數町にして貝塚町と相接し人家稠密水陸の便あるを以て近傍の貨物多くは此地に集  
 まる即ち堺、和歌山兩市間に於ける繁昌の一要地なり諸官衙銀行會社等あり  
 岸和田城 は本と和田城と稱し南朝の頃楠氏の一族和岡高家の築きしものにして後ち之  
 れを海岸に移したるを以て岸和田城と名づく世々岡部家の居城にして明治維新に至り廢し  
 今、僅に本丸二丸及び其濠渠を存するのみ此地方盛んに蜜柑を産す又海産物多し旅店最も  
 なるものは西吉、田邊屋等なり  
 地藏寺 は岸和田南町に在り昔は一の大寺なりしといふ俗に之れを地藏と稱す例月二  
 十四日の縁日にして甚賑ふ  
 牛瀧山 は有名なる紅葉の名所にして岸和田より東南凡四里山の中腹に寺あり大威徳寺  
 と號す役の小角の開基にして大威徳明王を安置す滿山楓樹多くして寺院の左より小徑を下  
 れは瀑布あり其下巨石横はり臥牛の狀の如し牛石といふ瀑布は三段に分る其一は高さ二十  
 五丈其二は一丈二尺其三は三丈六尺なり下流は即ち牛瀧川にして溪谷の間を洄りて流れ泉  
 聲石に觸れて遠く數町の外に聽ゆ此山猿鹿多く晚秋の候來つて當寺に宿する時は眞其聲  
 を聞く事あり  
 犬鳴山 は岸和田より南凡そ三里半日根郡大木村に在り山中不動明王の祠堂あり傳に

堺停車場

二百二十九

塚停車場

二百三十

昔獵夫あり山中に午睡す會ふ大蛇あり獵師を呑まんとす獵夫傍に在りしが頻りに吠へて其主に報す獵夫悟らす之れを叱すれども益吠へて止まず遂に怒りて其頭を斬る頭飛騰して蛇の喉を噛み之れを斃す獵夫驚き自ら其過を悔ひ其業を止めしといふ今山中路傍高所に獵夫と犬の墓あり因つて犬鳴山と號す此山甚峻にして七條の瀑布あり奇石怪巖多く幽邃の勝地なり山麓まで人力車を通す道中水間觀世音等遊覽すべき所少なからず

貝塚願泉寺 は岸和田より凡二十餘町貝塚町に在り同年中行基の創立にして大伽藍なり其後ち僧卜半なるもの此寺に住し今は眞宗にして貝塚御坊と稱す

横の尾の觀音 は西國巡禮第四番の札所にして和泉河内の堺に接し横尾山の半腹に在り岸和田より東南凡五里俗に松の尾寺と稱す僧行滿の開基なり丈六彌陀を安置す

久米田寺 は岸和田の東凡一里池尻村に在り天平年中行基僧正の開基にして本尊は釋迦の立像にして不動堂觀音堂あり後の山に櫻諸兄の墓あり前は廣大の池にして世に久米田池と稱す

### 大阪鐵道

大阪鐵道之内攝河兩國分

大阪鐵道は大坂市南區道頓堀湊町に起り河内を経て大和に入り王寺に至り分岐して一は奈良に達し其間廿七哩即ち幹線なり一は王子より高田に達すこれ支線にして其間八哩(櫻井まで竣功遠からずと云ふ)

湊町停車場 (攝津國大坂市南區湊町にあり)

湊町停車場 は南區にあり西道頓堀川に臨み水陸の便共に宜し心齋橋通我橋へ二町道頓堀千日前等接近の地にあり官線の梅田停車場へ凡三十町餘をり即此處ハ大阪鐵道の極端驛たり

天王寺停車場 (全國東成郡天王寺にあり)

天王寺村 は大坂市街に接し即ち市の南端今宮村の東にあり村内に有名なる四天王寺あり依之村號となす

四天王寺 は停車場より北三町にある巨刹なり(詳細は大坂市の部に出づ)

清水及一心寺 は共に停車場より三四町の處にあり(全上)

茶臼山 は一心寺の南にあり(全上)

平野停車場 (全國住吉郡平野郷に在り)

湊町停車場 天王寺停車場

二百三十一

平野停車場 八尾停車場

二百三十二

平野郷町 は大坂奈良間の街道に方り又堺及紀州高野山に通ずる道あり此地の東數町にして即ち攝河兩州の堺界となる府廳を去る三里二十町人家稠密商業繁盛なり

大念寺 平野村にあり停車場より僅かに一町なり融通念佛派の本山にして大原山諸佛

念護院と號す本尊は天得如來にして永久五年良 恩上人の開基なり

不退場 齋堂觀音堂 輪藏累世塔等悉く境内にあり鎮守には八幡宮を祭り本堂の北にあり

八尾停車場 (河内國澁川郡龍華村にあり)

八尾村 近傍諸村を合併し稱する村名にして停車場は龍華村にあり

龍華寺の古跡 龍華寺村にあり古へ 楠寺と云ふ

楠の寺の長屋に我ぬねし童女のなり髪あけつらん

讀人しらす

だちはなの島にこれれを何遠しさらさてぬひし我下衣

讀人しらす

椋樹山大聖勝軍寺 龍華寺村の内宇太子堂村にあり一名願成就寺或は野中寺と云ふ

里人は椋樹寺又は下太子とも呼ぶと云ふ眞言宗にして本尊は聖德太子植髮御影なり傳云佛

法の我國に渡來してより朝野これを尊崇せんとするの兆あるや物部守屋卓然大に其不可を

唱へ中臣勝海等と相謀つて遂に佛閣佛像を燒き當郡阿都の館に籠居し數十萬の兵を率めて

以て國家の害毒を除かんと欲す聖德太子時に年十六自から將として之れと戦ひ大に敗れて

身殆ど危かりしか適々巨椋樹あり樹裏に隠れて其厄を免るゝを得たり事平らきて後帝に奏して以て當寺を創建す後ち慶長の亂兵燹にかゝりて伽藍大に頽廢すといへとも弘法等の崇拜甚溼しと

觀音堂 太子堂の左にあり如意輪觀音を安置す

神妙椋 堂前にあり馬蹄石は椋樹下にあり太子軍馬の蹄の跡石面に殘ると云ふ

額二面 太子の筆なりと云ふ分明ならず

守屋大連墳 勝軍寺南門前の左にあり此人死後我邦上下擧て佛法に感潤する事二千餘年

守屋頸瀧池 同所にあり

近松山顯證寺 久寶寺村にあり停車場より八町一に久寶寺御坊と云ふ本願寺の一派なり本尊は阿彌陀佛にして春日佛師の作長一尺八寸親鸞上人等身の畫像蓮如上人の眞筆なりと云

蓮如松 對面所の庭中にあり蓮如上人の手植なりと云ひ傳ふ

澁川神社 宇植松にあり

江鏡神社 若江郡若江村にあり又同郡弓削村にあり弓削道鏡の古跡なり

初日山常光寺 八尾西郷邑にあり本尊は地藏尊にして所謂八尾地藏尊なり小野の笠

八尾停車場

二百三十三

の作例年舊七月廿四日祭禮ありて甚盛なりと云本寺は天平年中行基僧正の開基にして  
寛治二年白河法皇熊野行幸の時佛舍利を賜はりし後康應三年將軍足利義滿此等に詣て自書  
の額を贈り祈願所とす慶長元和以來兵亂の爲め殿堂悉く頽廢せりと云

八尾御堂大信寺 八尾寺内にあり本寺は大谷派本願寺の一派にして願證寺の本派本願

寺に於けると一般の由緒を有し東本願寺十二代教和上人慶長年中の建立なりと云

長門守木村重成墓 上若江西郡村にあり木村重成は豊臣秀次の侍臣木村常陸介の子な

り父常陸介秀次の事に坐して自刃するや其妾妊めるあり後其郷里近江の馬淵に生る年

甫めて五歳當國前大守六角氏に養はれ長するに及んで豊臣秀頼に仕へ元和元年五月六日

此地に戦死す時に年廿五

恩地左近墓 高安郡恩地村の中にあり恩地左近は楠氏の忠臣にして其麾下に屬し屢

戦功あり後恩地城に籠り主家を補佐し王事に勤むこと終始渝らず遂に身を以て國に殉す

眞に楠氏の臣たるに耻すと謂ふべし

九本櫻 恩地塚の傍にあり古へは大樹にして根部より九本に分る今枯朽して宛も古

梅の如し

獅子吼山教興寺 教興寺村にあり停車場より一里餘一名高安寺又大慈三昧院と號す眞

言宗なり本尊は彌勒菩薩聖德太子の作座像長一丈餘當寺は初め秦川勝の建立にして秦寺と

も云へり往古は伽藍轟然として連なりしか後兵火に罹りて一時大に荒廢せしを覺玄比丘再  
興す佛殿天井の畫は狩野永伯邑信の筆にして蟠龍を圖す庭中の木石は奇雅大に趣ありと  
云

十三峠 神立村より大和の國境まで廿三町の峠にして大坂より大和龍田法隆寺初瀬等

に通する街道なり嶺の路傍に塚十三あり依之此名あり然れとも其何人の塚たるを悉らす

と云

業平河内通の古蹟 十三峠の北に樵夫の通路ありて其地をいふとなり其他山畑村の中

に懸の水十三峠の北池の上の峯に笛吹山又其傍に衣懸岩神立村に別の水等皆を業平河内

の古蹟に屬す

伊勢物語にかうちの國たかやすのこほりにいき通ふ所いつきにけりさりとあのをとの  
女ありとたもへるけしきもなきて出しやりければたここ心ありてかゝるにやあらんとあ  
もひうたかひてせんさいのなにかくれいてかうちへいぬるかほにて見れば此女いさよう  
けううしてうちをかめて

風ふけはねきつ白浪たつた山夜半にや君かひとりとあゆらん

とよみけるをきこて限りなくかなしとたもひてかうちへもいかなりにけりまれくかの  
たかやすにきて見ればはじめこころにくもつくりければ今は打とけて手つからぬかひ

とりてけこのうつはものにもりけるを見て心うかりていかす成にけりさりければかの女大和の方を見やりて

君かあたり見つゝをくらむ伊駒山雲をかくして雨はふるとも

といひて見わたすにかうちしてやまど人こんといへりよろこびてまつにおひくすきぬれは

君あんといひし夜毎に過ぬればたのまぬものこひつゝをぬる

といひければねとこすます成るけり云々

四條畷古戰場 是四條村の内京街道にあり南朝の正平四年正月五日楠正行足利の將高野

師直師泰と決戦せし地なり

牧岡神社 是停車場より一里出雲井村にあり里人大に尊崇して當國一の宮と稱す官幣大

社なり祭神は大日靈尊天津兒屋根命經津主命武甕槌命の四座とす其他若宮に天押雲命を

祭り本社南にあり又た末社多く且猿田彦祠神祠等あり例祭は舊九月九日とす此地梅

花の名所にして花時遊覽の人たごし

暗峠 是生駒山の南にあり此地は大坂より大和及伊勢參宮の街道なり茶屋旅舎多く東

端に河内大和の國堺あり又其北端に洞峠ありて山路甚險峻なり

菊の香にくらかりのほる節句かな

ハセを

髪切山慈光寺 是暗峠の北方三町許にあり眞言宗にして本尊は役行者とす

観音堂 是本堂北のにあり

鬼髪田 是觀音嶽の麓にあり今精心田と云

五子塚 是當山にあり行者の從者の塚をらん

鎮守社 是山王八幡春日の諸神を祭る

役行者の略歴 是役行者優婆塞は大和國葛上郡茅原村の人にして母獨鈷の空より降つて

口に入るを夢みて雄すと云舒明帝の六年正月に生れ(寺記には同帝の三年十)七歳にして能く慈

救兜を誦する事日に十萬遍幼きより聰明にして修驗道を尊信し年三十二家を棄てて葛城山

に入り巖窟に在る三十餘年藤蘿を衣とし松子を食とし神咒を誦する時は飄然として諸山

を遍歴し神出鬼没其動止測るへからず天智帝の御宇生駒山に鬼賊あり行人大に愁とす行者

乃ち捕へ咒縛して以て其害を除くと云後山の西嶺に大慈の像を發見し之を本尊として一字

を營み山を髪切と稱し寺を慈光寺と名く元龜年中兵火に罹り佛閣荒廢して今僅かに其痕跡

を存するのみ當山は郭公の名所にして曳筈の雅客妙なからすと云

長尾瀧 是長尾山中にあり其二道は高さ四丈許他は高さ二丈許左右巨巖を劈て直下し雄

絶壯絶あり雙龍菴は瀧の上にあり慈雲比丘此處に五年間山居せりと云往時弘法大師額田村

に止錫の時此瀧に來りて法を修し自ら五大尊を作りて長尾寺に安す又天正の頃近衛龍山公



柏原停車場

二百三十八

此に來つて詠歌あり

たつねすはありとも爰に山鳥の長尾のねくの瀧のまら糸

柏原停車場 (攝津國志氣郡柏原村)

柏原村 是河内國志紀郡の南端大和川の北岸にある一村落にして紀州高野に通ずる街道なり村内人家多からずといへとも往來頻繁にして旅舎料理店等あり

龜瀨越 是停車場より東一里許大和川の北岸にあり此處三個の隧道あり即ち龜瀨隧道にして其最も長きもの一千四百廿尺とす

道明寺天満宮 是停車場より大和川を隔て僅かに七八町道明寺村土師里にあり寺は眞言律宗にして古來女僧の住職たるを例とす昌泰四年春管公左大臣藤原時平の纒に因り筑紫に左遷せらるゝの時公の伯母覺壽尼此寺に在りけるに別を告んとて立寄られし所にして此天満宮には管公の木像を安置す傳言此木像一夜の作にして世に荒木の天神と稱し後覺壽尼之を補ひたるものなりと云又覺壽尼の像もあり

管公筑紫へ左遷の時道明寺の伯母君の御許に立寄りあけほのになりぬれば

鳴けはありわかれもうけれ鳥のねのなからん里の曉もかな

依之土人は今に鵜を飼養せすと云當祠は管公薨去の後五十五年を経て村上帝の天曆九年京都北野の天満宮と同時に建立ありしものにして古へは堂宇頗る壯麗を極めしも元龜年中兵

柏原停車場

二百三十九

災に罹り後天正年中官命に依り再興せりと寺の本堂には十一面觀世音釋迦佛等を安置し其他末社祠堂甚た多し境内に木樓樹 二本杉 硯水 土師窟跡 龍池塔の古礎等あり又千飯は此寺の名産にして其名世に高く所謂道明寺糲是なり天満宮例祭は毎月廿五日開扉あり三月廿五日は茶種御供祭と稱し參詣人甚盛なり又會式は毎年二月廿五日にして此日は遠近より參詣者群集し大坂鐵道會社にては爲めに臨時列車を發するに至る

紫雲山萬井寺三寶院 是萬井寺村にあり古へ古子山と云本尊ハ千手觀音にして神龜二年聖武天皇の勅を奉して行基僧正の開基なり西國巡拜第三十三番の札所にして參詣者常に絶へず寺寶には後醍醐帝繪旨同和歌松虫の鈴楠 正成菊の旗同正儀壁書等其外種々の什物あり

萬井寺古戰場 是南朝 正平二年八月楠 正行精兵三百騎を以て北軍の將細川顯氏が三千騎と戦ひ大に勝利を得し所なり

仲哀天皇陵 是萬井寺の南岡村にあり

仁賢天皇陵 是野々上村にあり

狭山池 是狭山村天野山の麓にあり山中の溪流悉く注ぎ入る崇神帝の時嘗國水少くして農業に不便なるより詔して此池を作らしめ二千年の久しき今日に至り尙其遺澤を蒙むると云

仲 實

春深み狭山の池のねねはのくるしけもなく鳴く蛙かな  
 玉手山安福寺 は玉手村に在り停車場より十五六町尾張大納言光友卿の菩提所にして其眺望の絶佳なる府下第一なりと云加之四時ともに遊覽の資料に富み特に春季の茶花秋の松茸他に又其比を見すと云境内に經堂 龍眼肉樹 國見丘等あり  
 譽田神社 は譽田村にあり停車場より凡一里應神天皇を祭り仲哀天皇神功皇后を合祀す末社數多く亦種々の古跡あり社地に隣れる一丘陵は即ち應神天皇の御陵にして惠我藻伏山岡陵と號す石階重疊し頂上に六角形の窟を營み左右數十の石燈を列ね道を挟んで多く櫻楓を栽へて毎年四季に祭禮あり

王子停車場 (大和國葛下郡王子村にあり)

王子村 は奈良街道より高田及御所等に至る岐路に方り大和川の東に位する一村落到して停車場は即奈良幹線と高田支線との分岐點に當るを以て旅客の乗降雜沓す  
 片岡山達磨寺 は王子村にあり停車場より八町推古帝の廿二年聖德太子片岡山の邊にて飢人の路傍に臥せるを見飲食を與へ衣裳を着せなどじつやがて安くふせるを見給ひてしなてるやかたねか山のいひにうへてふせる旅人あはれおやをし 聖德太子  
 返し  
 いかるかや富の小川の絶はこそ我大君の御名を忘れぬ 帆 人

王子停車場

二百四十

仲 實

春深み狭山の池のぬぬなはのくるしげもなく鳴く蛙かな  
 玉手山安禪寺 玉手村に在り停車場より十五六町尼張大納言光友卿の菩提所にして其眺望の絶佳なる府下第一なりと云 加之四時ともに遊覽の資料に富み特に春季の茶花秋の松茸他に又其比を見すと云境内に經堂 龍眼肉樹 國見丘等あり  
 聖徳太子 聖徳太子の御陵にして惠我漢伏山岡陵と號す石階三重し頂上に六角形の窟を營み左右數十の石燈を列ね道を挟んで多く櫻楓を栽へて毎年四季に祭禮あり

王子停車場 (大和國葛下郡王子村にあり)

王子村 奈良街道より高田及御所等に至る岐路に方り大和川の東に位する一村藩にして停車場は 即奈良幹線と高田支線との分岐點に當るを以て旅客の乗降雜沓す  
 片岡山達摩寺 王子村にあり停車場より八町推古帝の廿一年聖徳太子片岡山の邊にて飢人の路傍に臥せるを見飲食を與へ衣裳を着せなどしつやがて安くふせるを見給ひてしててるやかたねか山のいひにうへてふせる旅人あはれおやなし  
 聖徳太子 飢 人 返し  
 いかるかや富の小川の絶はこそ我大君の御名を忘れぬ

三宅弘先生著

日本歴史美談

中形全壹册●正價金拾貳錢郵稅金四錢

松田直一先生著

小學日本歴史讀本

中形全壹册●正價金七錢郵稅金貳錢

伯爵 東久世通禧公題辭  
 文學博士 重野安繹公題辭  
 文學博士 黒川眞頼公書簡  
 原田種生先生謹編

歴史 考證 宸翰集

大形美本全壹册●正價金拾五錢郵稅金四錢

吉見經綸先生著

國民倫理學

●大形紙綴二百頁全壹册

●正價金四拾錢郵稅金六錢  
 本書ハ倫理ノ基源ヲ細説シ各種ノ條目ノ如キハ順序頓整ニシテ論據スル所ハ國民ノ遵守スベキ要項ニ在リ文章明暢繁簡宜ヲ得テ我邦中等諸學校ノ科業書トシテ適當ナルハ恐ク此書ノ右ニ出ヅルモノナカルベシ  
 虎 陵 山 人 著

修身談柄

中形全壹册正價金拾五錢郵稅金四錢

吉見經綸先生著

教授學

大形全壹册●正價金參拾錢郵稅共

日本酒類商標集 抜萃廣告

擔當記者 文昌堂 華本安次郎

總て○印は醸造元○印は關東一手捌○印は内外各國の博覽會天

櫻正宗

右山邑氏には此の外にも多(正吉)しめ(桃)又(松)に(櫻)の

惣花

右岸田氏には(東遊)世(天)正(世界)又(北)花(北)等

榮鯛

關西一手捌 大東 兵衛 大北 魚 川 新

有賀鯛

關西一手捌 大東 兵衛 大北 魚 川 新

延喜

關西一手捌 大東 兵衛 大北 魚 川 新

目出鯛

關西一手捌 大東 兵衛 大北 魚 川 新

朝陽

關西一手捌 大東 兵衛 大北 魚 川 新

菊正宗

記者文皇堂の木の四斗樽日(正)宗と稱る清酒右の菊正

總理

關西一手捌 大東 兵衛 大北 魚 川 新

世界長

特約大阪今橋通心齋橋筋角 藤井竹太郎支店

鳳凰

大阪内淡路町天神橋筋西入 高橋門兵衛

龍正宗

大阪三休橋筋南東入(橋九) 石田兵衛

東勢鯛

大阪北久寶寺町心齋橋通西 中野兵衛

長正

大阪太左衛門橋筋八幡筋北入 小長尾政七

政宗

大阪太左衛門橋筋八幡筋北入 小長尾政七

神龜

記者曰く猶此他に魚鱗の跡酒數種あれど都合に據り再編に

白鶴

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

陸軍

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

白鶴

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

竹正

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

福長

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

豐瀧

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

聖德

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

日本橋

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

開運

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

愛人

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

福益

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

和合

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

富龍

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

愉快

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

兩國

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

天祿

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

高徳

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

神遊

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

嬉業

此他各地ニ特約販賣所アリト略ス

●西の宮より東の部

富久娘 右宮久娘は日本酒の醸造に同家には富久盛。芳名木。菊。桐。はな。丸。越。等の醸造あり

大臣 外に(丹波)長春等の醸造あり

松の位 外に(丹波)長春等の醸造あり

百臻長 外に(丹波)長春等の醸造あり

早利榊 外に(丹波)長春等の醸造あり

牡丹正宗 外に(丹波)長春等の醸造あり

桃正宗 外に(丹波)長春等の醸造あり

鳳凰 外に(丹波)長春等の醸造あり

太白光 外に(丹波)長春等の醸造あり

淵明 外に(丹波)長春等の醸造あり

宿禰 外に(丹波)長春等の醸造あり

太白長 外に(丹波)長春等の醸造あり

金正宗 右宮久娘は日本酒の醸造に同家には富久盛。芳名木。菊。桐。はな。丸。越。等の醸造あり

秀花 外に(丹波)長春等の醸造あり

國光 外に(丹波)長春等の醸造あり

千福 外に(丹波)長春等の醸造あり

四季の友 外に(丹波)長春等の醸造あり

賞花 外に(丹波)長春等の醸造あり

如海 外に(丹波)長春等の醸造あり

鶴洲 外に(丹波)長春等の醸造あり

仁義 外に(丹波)長春等の醸造あり

椿宗 外に(丹波)長春等の醸造あり

舞鶴 外に(丹波)長春等の醸造あり

有功 外に(丹波)長春等の醸造あり

富久 外に(丹波)長春等の醸造あり

君代 外に(丹波)長春等の醸造あり

●西の宮より東の部

白鹿 右馬本家は我國の大醸造家なる事は諸君にも既に御見聞の如し商標の内(鹿)に(地球)と(銀海)と(美酒)と(長春)と(丸)と(越)と(等)にて醸造石数は二萬三千五百餘石此此金毎(長春)と(丸)と(越)と(等)にて醸造石数は二萬三千五百餘石此此金毎

美人 外に(丹波)長春等の醸造あり

いろ盛 外に(丹波)長春等の醸造あり

物産一 外に(丹波)長春等の醸造あり

壽海藏 外に(丹波)長春等の醸造あり

東自慢 外に(丹波)長春等の醸造あり

富貴 外に(丹波)長春等の醸造あり

梅の春 外に(丹波)長春等の醸造あり

蜀山人 右馬本家は我國の大醸造家なる事は諸君にも既に御見聞の如し商標の内(鹿)に(地球)と(銀海)と(美酒)と(長春)と(丸)と(越)と(等)にて醸造石数は二萬三千五百餘石此此金毎

花嫁 外に(丹波)長春等の醸造あり

老泉 外に(丹波)長春等の醸造あり

關羽 外に(丹波)長春等の醸造あり

富貴長 外に(丹波)長春等の醸造あり

清光 外に(丹波)長春等の醸造あり

大鷲 外に(丹波)長春等の醸造あり

愛國 外に(丹波)長春等の醸造あり

●攝津川邊郡伊丹及其近傍の部  
 伊丹 新右衛門 七  
 小島 利右衛門 七  
 西島 長左衛門 七  
 山田 長左衛門 七  
 二上 兵太郎 七  
 武山 有方 七

●大阪府東部  
 伊丹 新右衛門 七  
 井阪 長七 七  
 中村 七太郎 七  
 友添 太作 七  
 尾州 名古 七  
 尾州 泉町 七  
 尾州 山手 七  
 尾州 古手 七  
 尾州 古手 七  
 尾州 古手 七

●大阪府中部  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七

●大阪府西部  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七

●大阪府南部  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七

●大阪府東部  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七

●攝津神戶市(兵庫)及播州の部  
 兵庫 西出町 七  
 兵庫 西出町 七  
 兵庫 西出町 七  
 兵庫 西出町 七  
 兵庫 西出町 七  
 兵庫 西出町 七  
 兵庫 西出町 七  
 兵庫 西出町 七

●大阪府東部  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七

●大阪府中部  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七

●大阪府西部  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七

●大阪府南部  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七

●大阪府東部  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七  
 伊丹 新右衛門 七

瑞典フイラン、シ、ダー、サ、氏原著及序文  
 日本中西牛郎氏校閲序文  
 日本大原嘉吉氏譯述

**瑞派佛教學**

菊判大形紙數八百頁、脊革金文字入全壹册  
 ●正價金壹圓四拾錢、郵稅金拾八錢

著者在歐二十年、在米亦二十餘年、其間刻苦勵精、  
 萬國古來、哲學宗教、學問、研究、本年、至、  
 萬國宗教大會、評議員、之、一、且、蓋、  
 アリ、身、佛、教、之、  
 生、問、題、之、  
 保、里、教、之、  
 哲、學、神、學、之、  
 タ、ル、モ、ノ、也、  
 ノ、最、上、之、  
 一、讀、者、  
 卷、ヲ、得、ル、

發兌元 大阪市東區淡路町二丁目 金川書店

獨逸人ジンメルマウン氏原著  
 瑞典人ダ、ー、サ、氏序文  
 日本人 大原嘉吉氏譯述

**眞理之活泉**

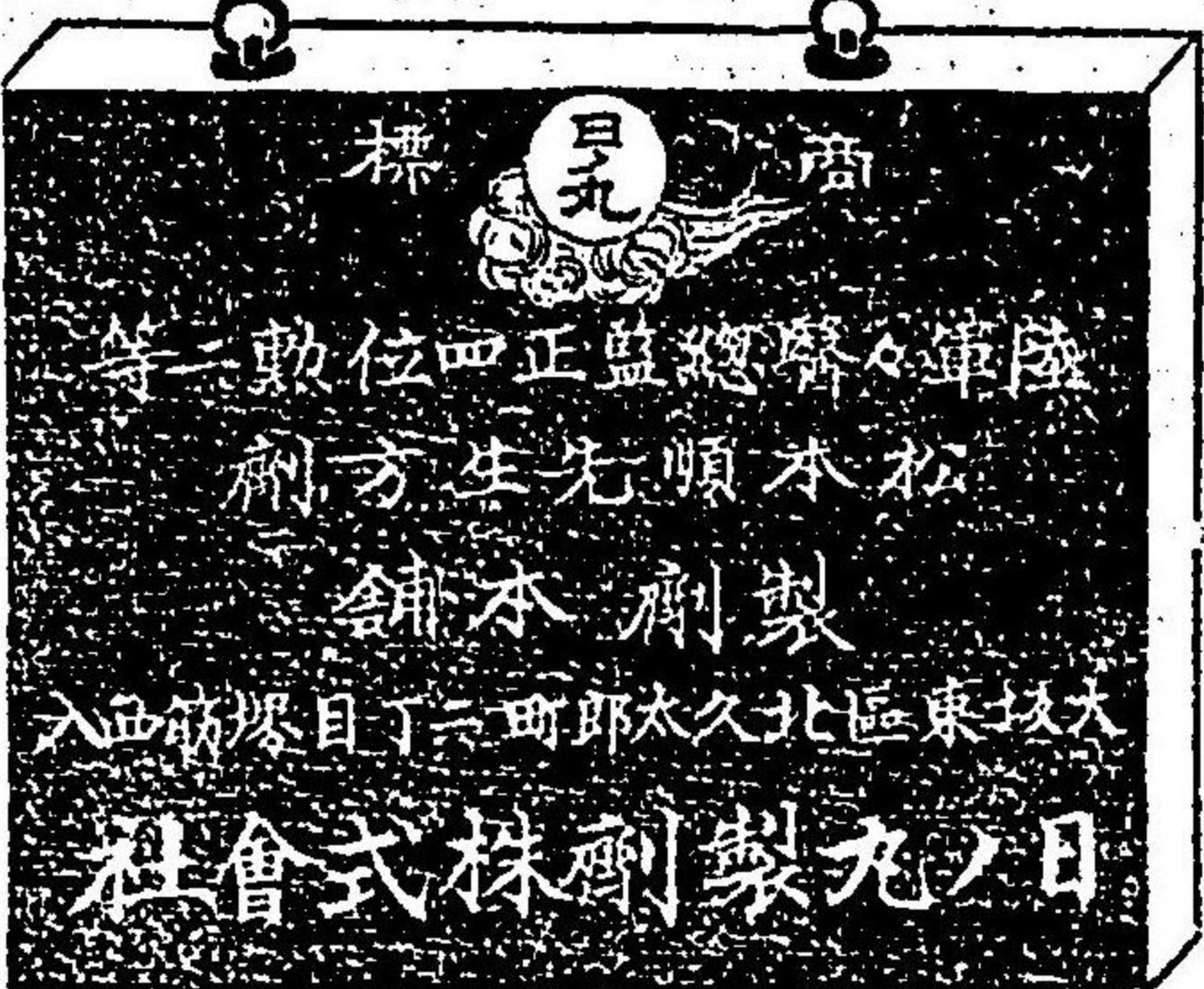
菊判大形美本紙數百五十頁、全壹册  
 ●正價金拾六錢、郵稅金四錢

眞理之活泉、ト、ハ、何、シ、ヤ、佛、教、是、ナ、リ、佛、  
 教、タル、甚、ダ、深、妙、容、易、ニ、其、蘊、奧、ヲ、極、  
 難、シ、ト、雖、モ、流、麗、謹、嚴、ナル、文、字、ヲ、以、テ、平、  
 ズ、ト、佛、教、ヲ、一、々、丁、寧、ニ、問、答、ヲ、揭、グ、初、  
 段、ニ、分、テ、不、識、ヲ、佛、ノ、何、タル、法、ノ、何、  
 ヲ、シ、テ、不、知、ヲ、了、解、セ、シ、ム、ル、ニ、於、テ、  
 タ、ル、僧、ノ、何、タル、ヲ、珍、書、也、天、下、求、道、ノ、諸、  
 ハ、眞、ニ、代、稀、有、ノ、珍、書、也、天、下、求、道、ノ、諸、  
 士、及、佛、教、ノ、要、義、ヲ、領、得、セ、ン、ト、欲、ス、ル、  
 諸、士、ハ、速、ニ、此、書、ヲ、讀、テ、其、渴、望、ヲ、醫、セ、ヨ

發兌元 大阪市東區淡路町二丁目 金川書店

菅公 長公  
 隊 兵 兵庫西出町 菅野安次郎  
 鱗 兵 兵庫西出町 北風酒店  
 悦 兵 兵庫南仲町 藤田善右衛門  
 辰 兵 兵庫南仲町 藤田サ、ン  
 巳 兵 兵庫南仲町 小野權四郎  
 正 兵 兵庫南仲町 中山治助  
 宗 兵 兵庫南仲町 中野榮助  
 登 兵 兵庫南仲町 乾野新兵衛  
 萬 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 英 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 正 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 宗 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 角 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 總 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 石 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 の 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 寶 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 殿 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 梅 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 の 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 井 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 白 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 天 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 運 兵 兵庫南仲町 榊井豊助  
 萬代龜 兵 兵庫南仲町 榊井豊助

本社は近來世間に流布する賣藥の往々粗製濫造に流るゝを憂へ専ら之れが改良を圖らんと欲し新に創立したるものなり



鮮地方に向て販路擴張の目的に有之候間江湖の諸珍最寄賣藥店に就き御購求の上本社廣告の虛妄ならざるを御實驗あらんとを奉希す

### 位勳二等松本順先生

本社販賣の藥劑は一として我陸軍々醫總監從四位勳二等松本順先生が多年刻苦せられたる秘傳の方劑にあらざるなし  
本社は松本先生に對し嚴重なる誓約を爲し先生秘授の方劑は如何に高價なる原料と雖も少しも之を加減せず故に其効能確實にして驗神の如くなるを親しく先生に就き診察投劑を請ふに異なるをなし  
本社は何の益にも立ざる原料を加へ徒らに其量を多くして代價を貪るか如きことをなさざるか故に中には其量極めて少きものあり然れども其原料は純精にして其効驗は遙に前者の上に出るものなり又功能書もみたりに數多く並へ立るとを爲さず適切なる主治の外は決して記載するをなし  
本社近日開業の上へ全國到る處の地方は勿論普く朝鮮地方に向て販路擴張の目的に有之候間江湖の諸珍最寄賣藥店に就き御購求の上本社廣告の虛妄ならざるを御實驗あらんとを奉希す

さて其翌日飢人死せり太子哀れみ其所に葬り墳を立て達磨墳といへり後勝月上人その墳の上に塔を立て聖德太子と達磨大師の遺像を据へたりといふ又一説に笠置の解脱上人かの墳に三重塔を立て草室を構へ達磨寺と名づけたりともいふ

信貴山 は停車場より二十八町此山は聖德太子の守屋大臣と闘ひし古跡にして其中腹に龍喜院朝護國孫子寺あり毘沙門天を祭る聖德太子の創建に係るといふ

龍田神社 は立野村にあり停車場より二十町官幣大社にして天御柱國御柱の二神を祭る天武帝の第四年小紫美濃王小錦下佐伯連廣足をばはしめて龍田の立野に風神を祠らしむ云々即ち龍田明神にして今の神社これなり正殿の額は小野道風の書なり境内松柏鬱蒼頗る幽邃の地なり例年舊曆四月四日七月四日十月十五日大祭典を執行す

龍田川 は停車場より十五六町の所にあり古來紅葉の勝地にして有名なり古歌多し

龍田川紅葉みだれてなかるめりわたらは錦中やたへなん 讀人しらす

龍田川紅葉はなかる神なひの三室の山に時雨降らし 讀人しらす

年毎に紅葉はなかな龍田川湊や秋のときりなるらん 貫之

卵の花のさける盛へ白浪の立田の川の井せきとそみる 伊勢

下田村 は王子より五十町を距り御所街道の一驛あり

下田停車場 (全國全郡下田村)

下田停車場

さて其翌日朝人死せり太子哀れみ其所に葬り墳を立て達磨墳といへり後勝月上人その墳の上塔を立て聖徳太子と達磨大師の遺像を据へたりといふ又一説に笠置の解脱上人かの墳に三重塔を立て草室を構へ達磨寺と名づけたりといふ

信貴山は停車場より二十八町此山は聖徳太子の守屋大臣と闘ひ古跡にして其中腹に觀喜院朝護國孫子寺あり毘沙門天を祭る聖徳太子の創建に係るといふ

龍田神社は立野村にあり停車場より二十町官幣大社にして天御柱國御柱の二神を祭る天武帝の第四年小紫美濃王小錦下佐伯連廣足を使はしめて龍田の立野に風神を祠らしむ云々即ち龍田明神にして今の神社これなり正殿の額は小野道風の書をり境内松柏鬱蒼頗る幽邃の地なり例年舊曆四月四日七月四日十月十五日大祭典を執行す

龍田川は停車場より十五六町の所にあり古來紅葉の勝地にして有名なり古歌多し  
龍田川紅葉みだれてなかるめりわたらは錦中やたへなん  
龍田川紅葉はなかる神をひの三室の山に時雨降あじ  
年毎に紅葉はなかな龍田川湊や秋のときりなるらん

卯の花のさける盛の白浪の立田の川の井せきとぞみる  
伊勢之

下田停車場(全國各郡下田村)  
下田村は王子より五十町を距り御所街道の一驛あり



菅麻寺 是二上嶽の下丸子山の麓にあり下田停車場を距る南方三十五町此寺の用明帝第四の皇子磨古親王の建立にして二上山萬法藏院禪林寺と號す其初は推古帝の廿年河内國山田郷に創建し萬藏院と名づけられしを天武帝の白鳳二年磨古皇子此地に移し禪寺と號す後天平寶字年中右大臣豐成公の女中將姫此寺に入りて尼となり佛道を修む又蓮華を集め糸を取り以て曼陀羅を織り即ち有名なる蓮の曼陀羅にして當寺唯一の什寶とす故に本堂を曼陀羅堂といふ勅額あり又新曼陀羅あり而して中將姫眞の曼陀羅は寶藏に收め此新曼陀羅は順德帝の保延二年に納めし物なりといふ講堂には阿彌陀如來地藏菩薩の像あり又側に藥師堂あり法華堂には釋迦如來を安置す此堂は右大將賴朝熊谷直實を奉行として建立せしものにして紫雲庵は中將姫の常に佛道を修めし且つ終命の所姫は薙髮して善心尼とも妙意ともいひ後ち改めて法如尼と號す

法如尼一夜草菴に念佛のみぎり夢々たる窓の前に月の光さしあらはれ老尼一人來り給ふをあやしみて

南無阿陀佛をのみよそよそと鳥あやしやたまそ二上の山

尼返し

二上の雲路はるかによふ聲をさるべに分じ山の端の月

奥院を往生寺といふ源空上人の遺像を安置す此像は上人自から開眼四十八度に及びたるも

のにして久しく智恩院に在りけるか後故ありて此處に移せしものなりといふ又此寺は毎年五月廿一日二日練供養あり參詣人山の如く頗る奇觀なりといふ

石光寺 は一に染野寺といふ當麻寺前四町染野村にあり天智帝の時三大石ありて夜々光を放つ仍つてこれを彌陀三尊に刻まじめ本尊とせり故に石光寺の稱あり

染殿井 是寺前にありかの中將姫の蓮の糸を染し所なりと

糸懸櫻 是寺前にあり役行者佛法の榮枯盛衰を占はんとして自ら裁へたるものにして中將姫常に此に蓮糸かけしより此名ありといふ

角刺宮舊趾 是恩海村にあり清寧帝崩して皇太子億計王と皇弟弘計王と相讓りて帝位爲めに空し皇妹飯豐青皇女自から恩海尊と號し忍海の角刺宮に政を聽き給ふ所なりといふ

高田停車場 (全國全郡高田町)

高田町 是堺奈良間にある竹田越街道の一驛にして東は今井櫻井初瀬に達すべく南は新庄を経て御所五條吉野等に相通じ往來頻繁商業も亦盛んなり

官幣大社石上神社 是延喜式の石上坐布都御魂の神社にて大和三輪龍田の諸社と共に二千年來の古社なり山邊郡布留村に鎮坐し奈良街道の丹波市町より東折して行く事半里許りにして其社殿に達す抑も本社は崇神帝の第五年伊香色雄命をして天社國社を定め諸神を祀るの時此地に移さる社殿壯麗繞らすに回廊を以てす其神器十種の瑞寶は高皇產靈尊より

饒速日尊に傳はり其子味間見命に譲られそれより神武帝に奉りて後に石土の大神樂祀す別七社若宮神庫樓門等あり例祭は九月十五日

ふるみどりあらうひかねていかならんまなく時雨のふかの神杉

太上天皇

初雪のふるの神杉埋れてじめゆふ野へは多ごもりせり

長方

五月雨にふかの神杉まじかくに木高く名のる郭公かま

定家

布留龍 は桃尾山にあり桃尾龍ともいふ翠樹殿たるの間飛泉四十尺白虹雲を穿つて

海き冷光目を勝ふて走る絶景驚りなし

いまは又行ても見はや石上ふるの龍つせ跡をたつねて

後噓峨院

布留村より丹波市を経て奈良まで里程三三三町道路平坦にして人車を通す車賃凡十八錢

なりさふ

内山金剛乘院永入寺 は山口村の東にあり永入年鳥羽院の勅に依り釋亮慧の草創なり

眞言寺にして本堂には阿彌陀佛を本尊とし奥院の不動明王は本邦有名佛像中三昧の一なり

と院の宸筆の額あり鎮守社には清瀧權現岩上明神長尾天神を勧請す此寺は元弘の亂笠置

没落の際後醍醐帝行幸ありし所にして又大塔宮も隠れ給ひじ事ありといふ

良因寺 は布留村にあり一名石上寺長峯寺今齊藥師堂等の稱あり天長年中善守法師此に

住す其後ち歌山僧正遍昭及素性法師も幽居せし處にしてかの法師の石塔などありといふ

後撰集石上といふ寺にまふてふ日の暮れば夜明てまかりかへらんとてとまりて此

寺に遍昭侍りと人の告侍りければものいひある見んとて云侍りける

小町

石上の上に旅寮をすれはいとさむし昔の衣を我に借をん

返

世をそむく昔の衣は只一重かさねはうといひ二人ねん

遍昭

良峯の寺に來てこそ千早振布留の社の紅葉をは見れ

相摸

官幣大社大和神社 は同郡新泉村にあり三輪町より北方二里十五町許本社は延喜式大和

座大國魂神社三座并名神大月次相嘗新嘗を祭る祠は垂仁帝第三十五年の創建にして社殿甚

だ壯麗ならざるも境内は廣濶整然として自から神威のいへ高きを示す例祭は四月二日其式

頗る盛んなりといふ

三輪山 は一名三諸山又神並山といふ三輪町の東にあり或は神岳山神山三垣山神邊山に

作る皆同山なり此山は孤峯屹立して樹木鬱蒼たりこれを望むに群山に異なり山頂に不動藥

師地藏の三石像あり奥の不動といふ又彌勒石像彌勒谷にあり高さ六尺

三輪山をじかもかくする春霞人にしらぬ花や咲らん

實之

三輪の山のかに待見ん年ふとも尋る人もあらじと思へは

伊勢

三輪の山じめる心の杉は有なからをしへし人はなきて幾世そ

元輔

いにしへにありけん人も我ことや三輪の檜原にかさしをりけん

古里のみわの山へを尋ぬればすまの月の影たにもなし

春くれは杉のしるしも見へぬかを霞そたてる三輪の山本

いく年のかさしなりけん古の三輪の檜原の昔の通ひ路

官幣大社三輪社 是三輪山の半腹にあり大物主神を祭る崇神帝の第八年始めて之を建つ

三輪町に華表あり左折すれば若宮に至る其より數十歩石階を登りて拜殿あり其後の山は即

ち三輪山なり町より山頂まで凡二十町なり又舊記曰大曰貴命平三定 萬國一功績 既成仍

營建宮殿於日本國之三諸山一就而居住此大三輪之神也社傍有二株老杉一名曰三輪杉云々

しるし杉 是古へ三輪神女伊勢國鹿野の野にて獵夫と相契りて一兒を生む共に居る三

年或日兒を伴ひ失踪す獵夫甚た悲しむ百方搜索するも得ずたましく一首の歌を残せり曰

戀しくは尋ねても來よ我宿は三輪の山下杉立る門

と獵師之を見て大に歎ひ大和國三輪山に尋至り遂に神女と兒とに逢ふ是よりしるしの杉と

546

心こそ行符もしらぬ三輪の山杉の梢の夕暮の空

下をれの音のみ杉のしるしにて雪の底なる三輪の山本

信 實

慈 圓

信 實

かはらすは尋も見はや三輪山のありし梢の杉のしるしを

長谷寺 是式上郡初瀬町の北端泊瀬山にあり停車場より三里登山神樂院と號す文武帝の

御宇徳道上人之を造立すといふ本堂は八棟作りにして長一丈六尺の十一面觀世音を安置す

二王門は南に向ひ麓より上に至るまで長廊を設け屋下に石階を築きて諸堂への通路とす山

上に坊舎あり昔し學寮多く眞言宗にして新義の學僧集る所なり小池坊は昔時紀州根來寺に

ありしに天正十一年秀吉公根來寺破却の後寺僧諸國に流浪し遂に此地に移すといふ乃ち今

の講堂これなり

貫之梅 是回廊の中邊にあり紀貫之幼時伯父の雲井坊淨眞初瀬に住みけるが其跡にて學

文し十四五歳にして都へ上り朝廷に仕へ後ち伯父の許へ參られしとき庭上の梅を見て

人はいざ心もしらす古郷は花そむかしの香に匂ひける

と聞へければ返し

花たにもあなし色香に咲ものを植けん人の心しらなん

境内甚幽雅にして特に牡丹を以て名あり又近年多く櫻樹を植へ花時遊覽者少なからず

龍蓋寺一名岡寺 是高市郡岡村にあり停車場より三里天智帝の第二年義淵僧正の開基本

尊は如意輪觀世音にして西國第七番の願札所なり此地は舒明帝の皇居岡本宮の舊址なる

を以て世人岡寺と稱す此所より隣村飛鳥に至るの間往古逝回丘と稱へ櫻花の名所なりしを

今や枯朽して其跡を留めず

待人のゆきとの岡も白雪のあすさへふらは跡や絶をん

丹比真人  
家 隆

飛鳥川ゆきとの岡の葛かつらくるじや人にあはぬ恨は  
普光園入道

開創は南都の道基上人なり此寺は俗に壺坂寺と稱し院本等にもありて普ねく人の識る所あり

畝火山 是高市郡畔隨村にあり停車場より二里神武帝の創めて皇居を造營じ給ひし處にして檀原宮の跡あり又其東北の麓山本村の田圃に神武帝の御陵あり造營新たに成りて宏壯なり

多武峯 是十市郡にあり高田停車場より四里餘山腹に該山神社あり藤原鎌足公を祭る別格官幣社なり元と談山妙樂寺護國院と稱し定憲和尚の創建にして本殿には鎌足公の靈を祭り附屬の堂塔僧院等殆んど枚舉に遑あらず古來有名の勝地なり殊に境内櫻楓多し春秋來觀するもの絶へず境内の十三重塔の地下には鎌足公の遺骸を納むといふ淡海公の墳墓當所にあり

妹背山 是貝原篤信和州巡覽記に曰く

上市より龍門の谷の中に入此地の河邊の兩傍に河を隔て妹背山とて兩山あり飯目への方にあるを脊山といふ西なる古城の形見ゆる龍門の方にあるを妹山といふ東なり是は茂山なり妹山脊山とも高からずあなじ大なる山なり川をへたてて兩山相向へり兩山の間を吉野川流る妹背山は名所なり云々古歌多し

君とわれ妹背の山も秋くれば色かはりぬる物にそ有ける  
讀人志らす  
公 實  
慈 續  
參議堂  
延喜御歌  
滿 子  
行 家

わが涙吉野の川によじさらば妹背の山の中に流れよ  
身のならも淵瀬も知らず妹背川あり立ぬへき心ちのみして  
すゑ絶ぬ吉野の川の水や妹背の山の中を行らん  
妹背川昔ながらの中ならん人のゆきとのかけ見へまじ  
流れてもうきせを見せそ吉野なるいもせの山の中河の水  
吉野山 是は金峰山の麓より河岸の際を呼ぶ者にして停車場より六里道幅廣く平にして車行自在なり満山皆櫻樹にして其名海内に遍なく特に南朝三世五十餘年の行宮ありし處にして古跡多し其花時風景の如きは人の聞知る所なれば茲に贅せず

みよし野の山へにさける櫻花雪かどのみぎあやまたれける  
友 則  
見よし野の山あなただに宿もかなよのうき時の隠家にせん  
讀人志らす

春たつといふはかりにやみよしの山も霞て今朝はみゆらん  
 見渡せば松の葉白きよしの山いくよつもれる雪か有らん  
 よしの山八重立岑の白雲にかさねてみゆる花さくらかな  
 吉野山やかていてしと思ふ身を花ちりなはと人や待らん  
 こよひたれす吹風を身にしめてよしの山を月を見るらん  
 みよしの山の秋風さよふけて古郷寒く衣うつなり  
 よしの山去年の枝折の道かへてまだみぬかたの花を尋ん  
 志はらくは花の上なる月夜かき

忠 岑  
 兼 盛  
 清 家  
 西 行  
 頼 政  
 雅 經  
 西 行  
 は せ を  
 貞 室

これはくさばかり花のよしの山  
 吉野川 は源を大臺原山より發す  
 和州巡覽記に曰

吉野川その水上を尋ればむくらのまづく萩の下露  
 とよめる歌のことく源は一所にはあるべからずと思ふ此川東風烈しければ雨ふらずして  
 も河水まざるといふ上市より下は河のわたり廣し末は紀の川なり紀州和歌の浦へ出る  
 よしの河峯の歎冬吹風に底の影さへうつろひにけり  
 よしの河瀧つ岩ねの藤の花手折てゆかん波はかくとも  
 光明峯寺入道  
 延喜御製  
 師 頼  
 雅 章  
 は せ を  
 鬼 貫  
 貫 之  
 越 前

よしの河岩もと櫻咲にけり峯よりつくく花の白雲  
 水底に春やくるらんみよしの吉野の川に蛙鳴なり  
 吉野川はたるとも見へぬ夕霧にやませの波の音のみそする  
 千本櫻 は長峯より一望する櫻をいふ即ち一目千本の稱あり  
 吹ませてふかきやいつれ吉野山千本に匂ふ花の春風  
 花さかり山は日ころの朝ほらけ

富士は雪花一時のよしのやま  
 藤尾坂 は俗に藤井坂といふ文治元年十一月源義經の妾靜義經にわかれ藤尾坂を下  
 り藏王堂に來りしを吉野の山僧等見答めて捕へたりし所なりと  
 金峯山寺 一名藏王堂は六田より登ること凡一里の處にあり本堂は藏王權現(二丈六尺)  
 眼士左方千手觀世音(二丈四尺)右方彌勒(二丈二尺)役行者の遺像を安置す是當山の開基な  
 り其外觀音講堂僧舎四十一區吉水院寶城院は俱に後醍醐帝の行宮なり大塔の址は本堂  
 の西にありて礎石存せり元弘三年正月大塔宮吉野に據り北條氏の兵を防ぐ戦ひ利あらず村  
 上彦四郎義光宮の鎧を賜はり自から大塔宮と稱して敵を欺き宮を高野山に落し遂に屠腹し  
 てこの藏王堂の前に死す貞和五年正月賊將高師直師泰等大軍を以て襲ひ來り寺院悉く  
 燒失せり後ち豊太閤諸堂を復興せりといふ

高田停車場

二百五十二

寶城寺は 藏玉堂の乾の方三町許りにあり又金輪寺といふ建武三年以來南朝三世五十餘年間の行在所なりき帝勅して新撰和歌集をあらまさせ給ひ又御手づから茶入十三をまかせ給ふ世に金輪寺といふ是なり

都たにさひしかりしを雲はれて吉野のあくの五月雨の空

御製

吉水院 は當院も後醍醐帝の行宮たりし所にして京都を逃れさせ給ひ先づ此寺に潜幸ありて後寶城寺に移らせ給ふ此院にてよみ給ひし御歌に

花にねてよしや吉野のよし水の枕の下にはしる音

御製

抑も本寺は役行者に草創にして行者山上修業の時休憩所として用ひたる庵室なり其のち醍醐の聖賢齋師も此處に隠れしを止め給ふ加之源平の兵亂には源義經辨慶も茲に警軍議を謀る事三年に及びり其居所今に破壊せず庭前には駒の足跡武藏坊が力釘今に其形を遺すといふ又文治元年 源義經兄頼朝に思まれ西國に航せんとして大物浦に於て颶風に遇ひ竊かに此處に通る吉野法師等義經を討んとせしゆま此寺を出で中隱谷に隠れしに僧徒等猶も跡を求め來りけれや忠信を殘して防矢を射させ静を捨て多峯を経て南隱の内藤堂の十字坊へ入しといふ其後豊臣太閤も吉野遊覽の時此院に留まれり

塔尾山如意輪寺 は本尊は如意輪觀世音なり後醍醐帝御製の木像にして厨子の扉に吉野より熊野までの畫圖あり上に帝の宸筆の詩あり又御硯あり箱の蓋は巨勢金剛の筆なりといふ

後醍醐天皇陵 は如意輪寺の後にあり

太平記曰後醍醐天皇南朝延元三年八月九日より御不豫の御事ありけるか次第にももらせ給ひ終に同十八日丑刻に崩じ玉ひき藏玉堂の良なる林の奥に圓丘たかくつきを北向に葬り奉り同十一月五日諡號を奉る云々

櫻雲記後醍醐帝の陵のほとりに櫻を千本植んと誓ひじて年々に植花の咲たるを見て

植花かは昔の下にもみよしの御幸のあとを花や殘さん

久盛

正平三年 楠正行死を決じて將に出陣せんとするや先づ關下に拜趨し尋ねて先帝の御廟に詣り如意輪寺の過去帳に楠正行同正時以下二十三人の姓名を録し且つ

各留半座乗花臺待我閻浮同行人

さきたまはねはれると人を待やせんひとつ連のうちを殘して

願以此功德平等施一切同發菩提心往安樂國

と正行筆をとりて書附たりけると又

歸せしと兼ておもは梓月なき敷に在る名をそとこむる

となん寺の扉に書したたりけるを今を寶庫に藏めて残りあるといふ

後醍醐帝のみさまをわかれ

二百五十三

高田停車場

御廟年を経てしのぶは何をしのぶ

はせを

又

歌書よりも軍書に悲しよしの山

支考

昔清水 往昔西行の草庵を結ひて三とせの星霜を送りし舊跡にして幽遠閑雅の地なり

深くともよしや又くも人もあらし我にことたる山のおの水

西行

ある坊に一夜をかりて

礎打てわれにきかせよや坊か妻

はせを

とくくく清水をかしにかはらすと見て

露とくく心見にうき世すかばや

同

蜻蛉瀧 西河原村にあり峻たる岩の間より漲り落ちて其長凡そ八十尋岩上瀧あり

此岸の廻りを蜻蛉の小野といひ瀧の下流は音無川といふ

代々を経て絶すとそれもふ吉野川をかれて落る瀧の白糸

延喜御製

春は猶咲ちる花の中に落る吉野の瀧も波やそうらん

養時

宮瀧 は宮瀧村にあり奇石突兀南岸に巨石ありて深淵に臨む水練に熟するもの石上より

身を躍らして水中に投じ流水に随ふて下流にいづこれを飛瀧といふ

法皇御製

秋山にまよふ心を宮瀧のたきの白泡にけちやはてらん

素性

宮瀧の瀧の水上尋ねみん古きみゆきの跡やのこると

光明寺入道

瀧をはやみ宮瀧川を渡り行は心の底のすも心地する

西行

何かその波はかゝれと宮瀧や鶴のゐる石のうへそかくれぬ

行家

餅餅は 下市の名産にして吉野川の鮎を以て之を製すしかして其鮎を盛る器物の似たる

を以て此名あり其味美にして昔時献上品の一なりしといふ

十津川 は山上岳に發する天の川の downstream して名水なり屈曲して南下する事二十餘里

に紀州の熊野川となる沿岸の村落は自から山間の別天地をなし就中殿野村は護良親王の潜

匿し給ひし地とて村民尙南朝の遺臣と稱せりとか明治維新の前年松本奎堂藤本鐵石等侍従

中山忠光を奉じて餘櫛の師を此地に起し事成らずして遂に死す

三芳野の山のあなただの十津川のいつみの原もあわれ浮世は

公朝

吉野山十尾津川上雪深みけふりも民の家なるらん

國信

右の外吉野山中の名跡は枚擧するに遑なきも紙數に限りあるを以て其大要を掲ぐるのみ

法隆寺停車場 (全國平群郡富郷村)

法隆寺 は法隆寺村にあり停車場を距る僅かに十二三町舊名を斑鳩寺と稱し推古帝の第

十五年聖德太子の開基なり一名を七徳寺といふ寺域廣瀧堂宇壯嚴にして一千三百年來の堂

塔古器物今絶く存在し南都七大寺中最も有名なる巨刹にして好古家美術家等來觀する者常に隨を接して絶へず本堂の西方に輪藏時鳥路寺と號す東方には鐘樓あり北に講堂を構へて聖國寺と呼ぶ乾に鎮守として龍田明神を祀る南に法隆學問寺の門觀々として金鼓

二ツを懸く

金堂 四方正面にして鳥佛師の作りたる金像の釋迦の三尊を安置す左の方の藥師の像は用明帝御惱祈禱のため右の方の阿彌陀佛は御母間人皇后のために作らる其傍の多門天廣日天は皆鳥佛師の作なり又前なる持國天增長天は孝謙帝の勅に依り東面の觀世音は推古帝の勅命を以て作る西面の阿彌陀三尊は光明皇后の御願所北面の虚空藏菩薩及阿彌陀佛は善光寺の模造にて北條時頼の寄進なりといふ

靈寶錄に曰く東北の隅に伏藏あり太子自作の佛像金銀等を藏めり

講堂 には藥師の三尊四天像寶頭靈尊者を安置す其他種々の佛鉢畫像等あり

五重塔 には又諸種の佛像を安置す皆鳥佛師作りたる泥像なり

上堂 には釋迦三尊丈六像四天王長七尺大涅槃像釋迦入相成道の畫像等を安置す

西圓堂 には八角堂形造りなり本尊は藥師如來十二神將は行基の作なり其外世人諸願の爲

め大刀刀種々の物品を納めて堂内に滿てり此堂は光明皇后の御母橘太夫の建立なりといふ

大總藏 には經論聖像等を納む本尊阿彌陀佛は春日の作なり此内にも伏藏あり當寺三

大 阪 鐵 道

大 阪 鐵 道

伏藏の一つなり

手水屋 には後醍醐上皇臨幸の時の御手水所なり藏王權現を安置す役行者の作なり

三經院 には本尊阿彌陀佛行基作文殊彌勒四天王を安置す毎年夏季中太子遺願の三經講

讀あり今に絶へず七種の寶器あり

聖靈院 には俗に太子堂といふ聖德太子攝政東帶の遺像及諸王子の佛像あり何れも鳥師

の作又沉香香と名つくる香木を藏す推古帝の御宇土佐の南海より淡路島に漂着したるもの

なりと世に法隆寺と稱する名香即ち之なり

東院 には推古帝の第九年皇太子初めて宮殿を班鳩に興す即ち班宮の宮にして後に寺とな

す

夢殿 には八角寶形堂なり上光院又は上宮王院ともいふ本尊は觀世音其他太子像及沉香

水を以て太子自作の觀世音等を安置す毎正月十二日開扉す其他殿堂寺院の數極めて多きも

茲に略す

毎年舊曆二月廿二日より同廿四日まで大會式の執行あり又毎日正午時印度渡來の佛沙利の

開扉あり

郡山停車場 (大和國添下郡々山町にあり)

郡山町 には舊九條の地帯で大和大納言秀長の居城せし所にして戸數凡り三千餘其繁華奈

郡山停車場



長に亞ぐ此地も神社佛閣多し旅店は茶屋、花内屋等あり最とす

金剛山寺 は矢田村にあり俗に矢田寺といふ停車場より三十町本尊は地藏菩薩にして天

武帝の勅に依り知道僧正開基す世人の信仰頗る厚く且つ土地高燥にして老松鬱茂し幽邃の

地なり舊四月一日二日供養あり参拜者れとす

補陀洛山西松尾寺 は矢田村と比隣の地にあり本尊は十一面觀世音にして天武帝の皇子

舍人親王自作の觀世音を本尊とす俗に厄除觀音と稱し信者多し毎年初午及庚申月の甲子日

は甚賑ふ

藥師寺 は砂村にあり停車場より十五六町本尊佛は藥師如來にして本邦第一の妙作なり

といふ當寺は天武帝白鳳九年皇后御病平癒の爲めに建てたる後持統帝の第十一年藥師の開

眼供養あり此寺初め高市郡岡本に建立ありしを元正帝の養老二年今の地に移すといふ此地

蓮花の名所なり

金堂 には藥師如來十二夜及神觀世音二軀を安置す其一軀は孝德帝一軀は水尾帝の勅命

に依り作る

東院 は本尊觀世音孝德帝の勅を奉じて造營す

六層堂

は天平二年の建立

文殊堂

は古昔の西塔の跡なり

佛足石

は百濟國より獻す釋迦牟尼佛の足形を彫たる石なり

唐招提寺

は藥師寺を距ること僅かに三町都跡村にあり七六寺中の舊號を建初律寺と

いふ聖武帝の勅願所として天平勝寶八年の創建なり開基は唐僧鑑真和尚とす本尊は盧

遮那佛夾紵漆の像なり樓門に唐招提寺の額あり孝謙帝の宸筆なり此寺は建立以來火災の厄

を免かれ世人の尊崇尤も渾し金堂、講堂、食堂、經藏、五層塔、胃索堂、御影堂及西方院

阿彌陀堂等あり又孤山松醜醐味泉等の名所あり此地は舊新田部親王の宮跡にして境内廣瀾

翠松林を成し且蓮花の名所なり

菅原伏見

は菅原村は菅公誕生の地にして野見宿禰の資土師宿禰古人土師宿禰道長等の

住せし所なり宿禰等は即ち菅 亟相の遠祖なり

垂仁安康二帝の御陵及菅原神社菅原寺等皆此村内に散在す

いさ愛に我世は經なん菅原や伏見の里の荒まくもなし

菅原や伏見の里の荒しより通ひし人の跡もたへにき

何となく物悲しき菅原や伏見の里の秋の夕くれ

衣うつ音は枕に菅原やふしみの夢をいく夜残しつ

子規はしやすらへ菅原やふしみの里のむら雨の空

神功皇后山陵 は平城村にあり土人御陵山と稱し又大宮ともいふ葺翠菴として英靈を

讀人しらす

同

俊 頼

慈 圓

定 家

郡山停車場

二百六十

護するに似たり

西大寺 是添下郡伏見村にあり停車場より北方一里餘天平神護元年孝謙帝の勅を以て釋常騰開基す丈六の觀世音を安置す此像は洛陽に久しく在りしを鳥羽院僧眞正に勅して此に遷さしむ堂内の四天王は天平神護元年に鑄造就中增長天の像は鑄る事七度にして初めて漸やく効せりといふ

人丸塚 是標木村柿本寺にあり停車場より凡一里餘即ち柿本人丸の塚なり

柿本講式日青陽の春の花に無常の雲一たびねほひ黄壤の秋の露に別離の嵐長く吹て大和國添上郡石上寺のほどり治道の森の中に一の草堂を建て爰に柿本を葬す身は龍門の土に埋むといへとも言葉は風聞の實となれり可惜可悲云々

人塵の墳にまふて

世を経ても逢へかりける契こそ昔の下にもくちせさりけれ

清 輔

ふるき迹を昔の下までたつぬすはのこれるかきものを見まじや

寂 蓮

かきつめし言葉の露の敷こと法の海にわけふやいたらん

長 方

けふを見る言葉は筆にかきの本もとより朽す殘る姿を

實 隆

よしの山さくらを雲と見し人の名をはこけにも埋まりけり

範 玄

是今市村にあり停車場よりは凡一里餘俗に滯解寺といふ春日作の地藏を安置

滯解地藏

是往古文徳帝の皇后染殿懷妊月滿ちて胎をし靈夢に由り此地藏尊に祈願ありければ無事に皇子御降誕あり帝御感斜をらす乃ち滯解寺と號を賜ひたりと言傳ふ

奈良停車場 (同國添上郡奈良町宇三條にあり)

奈良町 是古昔平城といふ後世南都と稱せし地にして今奈良縣廳の在る所とす國の北隅に位し既に山城の界に接せり春日若草三笠の三山其東に並立し佐保川西北を環り流れて南に赴くこれ即ち奈良川なり此地は元明帝始めて建都ありて左右京を設け九條大路を置れしより七世八十四年間の皇居にして聖武孝謙の兩帝最佛教を尊崇して諸大寺を建立せらる桓武帝遷都の後は舊都となりて今は僅かに左京の東隅を存するも尙ほ人口二萬餘を有し春日社及東大寺興福寺等あり大佛殿は聖武帝の時鑄造したる金銅佛像を安置す其傍に正倉院ありて亦同帝の遺物を藏し一千八百年前の服飾器具を存在し其他古器物古書畫等を藏するの社寺少なからず依之日本の美術上參考の料を得んと欲せば須らく此地に來觀すべし産物は奈良晒布、扇、團扇等諸品にして就中扇團扇は海外に輸出し年々増加の勢ありと族宿は武藏野、角定、明秀館、菊屋、金波樓、かまや、三景樓、含翠樓等宿泊料は上等金五十錢中等金三十錢下等同二十五錢にして中餐は十五錢乃至二十錢なり

皇后址 是今の奈良の町にはあらす興福寺の西超昇寺郷二條村の南街道の裏に宇築地の内といふ地あり今も田畠を耕さず又此處に内裏の宮と名つくる小祠あり

奈良停車場

二百六十一

ふるさと成にしちらのみやこにも道はかはらず花は咲けり  
萱さくならの都の跡とては石すへのみそ形見なりける

ならのはの名にねふ宮の子規世々にふりにしをかたらなん

春日野 春日社の大鳥居より東本社までの間をいふ

春日の雪をわけて生出る草のはつかにみへし君がも

驚の鳴つるなへに春日のけけのみ雲を花とこそ見れ

春日のくたさうの道の埋水またに神のしるしあらはせ

春日山峯のあらじや寒からんふもとの野邊に鹿がなくなる

春日社 奈良町の東端春日山の麓にあり停車場より二十町官幣大社にして神護景雲二年の創建なり本殿は四棟相並び東第一の神殿には武甕槌命を祭り第二は経津主命第三は天兒屋根の命第四は姫太神を奉祀して古來四社大明神と稱す境域廣く神さひて樹木老ひたり社殿の構造甚高古石頭數百基境内に羅列し樓門あり回廊あり瑞恒を繞らして院の内外を區畫す院内に二小社あり手力雄命 命 命を祭り院外の三小社は大己貴命 命 命 金山彦素盞鳴尊を祀る又神鹿と稱し社の内外群鹿所々に徘徊す毎年三月九日十日神鹿角切り祭を執り又三月十五日及十二月十七日に大祭ありて勅使参向儀式頗る嚴肅あり参拜の人常に絶へず亦た四時遊覽に宜しく特に藤花の名所なり

公 勝

俊 成

忠 房

忠 岑

公 朝

仲 正  
平 城 帝

春日若宮

は本社の南方にあり長保五年の創建長承四年の再建なり祭神は天神雲母とす

水屋社

は本社の北方水屋川の邊にありて素盞雄尊稻田姫南海神女この三座の神を祭る

毎年四月五日能あり水屋の能これなり

春日山

は古來著名の勝地にして山嶺を本宮ヶ嶽といふ山中積多く仁明帝承和八年の頃より狩獵伐木禁制の地なり

冬過て春はきぬらし朝日さすかすがの山に霞たを引

二葉よりたのもしきかな春日山木高き松の種うと思へは

春日山嶺のさかきはときはなる御代の光も月に見へつ

三笠山

は一に嫩草山ともいふ春日山に連なる小峯にして湖山一面の翠巒を展ふるが如く其頂上は眺望絶佳觀月の名所なり

春日山嶺

春日なる三笠の山にゆる雲を出みること君をしす思ふ

大君の御笠の山を帯にせり細谷川の音のさやけさ

名のみして山はみかさもなかりけり朝日名のさすをいふかも

けよきつる三笠の山の神をせばあめの下には君をさかへん

萬 葉 集

能 宣

忠 房

行 能

萬 葉

人 丸

貫 之

範 永

みかさ山としてたのめはしら雪のふかき心を神やじらん

實 隆

驚の瀧 は嫩草山の北隣花山にあり停車場より三十町流下五丈餘樹木鬱蒼として飛泉岩角より落ち夏も尙寒きの觀あり

雪消澤 は大鳥居の東方より南に入る細道にして春日野の中にある舊跡なり

春くれば雪消の澤に袖たれてまたうらわかき若菜をそつむ 崇徳院

春日野の雪けの澤に袖ふれて君かためけう小芹をうつむ 仲 實

東大寺 は春日神社の北隣にあり停車場より十二三町華嚴宗にして大華嚴寺國分寺又金光明四天王護國の寺等の別稱あり聖武帝の勅に依り天平勝寶年中長辨僧正の開基なり本尊は盧舍那佛にして大佛殿に安置す座像長五丈三尺五寸抑も此像は天平十五年聖武帝の勅を奉して行基僧正其鑄造を企て設計を改むる事前後八回に及び七ヶ年を費して天平勝寶元年に至つて漸く竣工し爾來一百餘年を経治承四年十二月平重衡の兵火に罹り爲めに悉く焼失す於此翌五年後白河法皇右大將 源 賴朝及醍醐の俊 乘坊重 源上人に勅して之れを再興せしめ建久六年に至つて成る後永祿十年松永久秀の兵火に罹り再び灰燼に歸すと雖も當時兵亂相續き復た顧みるものなきを當國の武士山田某大に之を慨歎し富財を抛つて修補せり今の佛像即ち之なり然れども又佛殿の再建なく佛あつて殿なき事凡一百三十餘年元祿年間蓮松院公慶上人再興し大に之を修補し以て今日に至るといふ而して本寺は七代寺

中寶物尤も多くして二月堂、三月堂及奈良博覽會等共に此寺内にあり

二月堂 は釋宗院と號す天平勝寶四年長 辨僧正 の弟子實忠勅命によりて造營する所本尊は觀世音にして長七寸の銅像なり蘇州雜波浦より此に安置す

三月堂 は所謂法華堂なり長辨僧の開基なり本尊は不空羂索觀音にして長辨の作なり

三昧堂 は一に四月堂といふ二月堂三月堂に續きたれはかくは名づけたるものにや本尊は普賢菩薩なり其他俊 乘堂、念佛堂、鐘 樓等あり

鎮守八幡宮 は天平勝寶年中梨原宮に新宮を作り後大佛殿の邊りに移し又最明寺時頼の命によつて三月堂の南に遷し奉るといふ

刺髮塔 は神前にあり聖武帝の御刺髮を收めし石塔なりといふ

勅封倉 は東大寺の寶藏なり三庫といふ和漢の寶器を藏す就中蘭奢待大紅塵共に名香にして聖武帝の御宇渡來するものにして又鴨毛屏風と名つくる唐土より渡來の大屏風あり又神武帝より孝謙帝に至るまで代々印信の巻物一軸あり其他記するに際限なしといふ

手向山 は一に八幡山といふ紅葉の名所なり

此たひはぬさもととりあへず手向山紅葉の錦神のまにく  
手向山紅葉のぬさは散にけり雪のしらゆふかけぬ日そなき  
紅葉をも花をもをれる心をは手向の山の神やじらん

道 具 織政左大臣入道 貫 之

奈良停車場

二百六十六

輓磴門 是東大寺西北の磴門にして或は俗に景清門忠光の誤ともいふ  
傳云建久六年三月大佛供養の日平忠光此門に隠れ右大將頼朝を頼み秩父重忠彼が異相を察して捕へしむ云々

興福寺 是奈良町の中央大字登大路にあり本寺は初め大織冠鎌足山城國宇治郡山階村に造營ありしを以て山階寺と稱せしを天武帝の白鳳五年當國高市郡厩坂に移され厩坂寺と號して元明帝の和銅三年今の地に遷し淡海公堂宇を造營ありて興福寺と改む即ち七大寺の一にして規模の宏壯なる佗に譲らざりし然れども今や頽廢して僅かに樓門金堂等の礎石と

五層塔及南圓堂其他二三の建物を現存するに過ぎざるのみ

南圓堂 是不空羅索觀音を安置す本堂は淡海公より五代の孫冬嗣大臣藤原氏の衰へたるを歎き弘法大師に謀り子孫繁昌の祈願に建立したるものなりといふ此地も藤花の名所にし

て左近の藤といふ花時遊覽の人多し

五重塔 是五智如來を安置す天平二年四月光明皇后の建立なり

猿澤池 是興福寺の門前にあり停車場より三四町天竺の猿澤池に摸造せるを以て此名ありと池形半月狀にして池邊より南圓堂五重塔を望み池畔に旅店、割烹店多く特に近年櫻樹を植へ春は花夏は涼みの雅客多し往昔奈良の帝に宮仕せし采女なるもの故ありて身を此池に投せし事大和物語に見へたり今尙其古跡として衣掛柳采女祠等あり

嚴若寺 是嚴若寺町にあり聖武帝の建立にして勅書の大嚴若經を地底に納め其上に十三重の塔を立給ひしより嚴若寺と名つけたりといふ本尊は文殊大士にして忍性律師の作なり此寺に元弘の亂大塔宮北條の兵と戦ひ敗れて當寺に逃れ經箱に身を潜め虎口の難を免れ給ひし唐櫃あり

多門山 是松永久秀の城趾にして今猶ほ濠渠の跡を存せり山麓に眉間寺あり佐保山と號す聖武帝の長寛年中の創建に係り行楷僧都の開基なり寺後に聖武帝の陵其東に光明皇后の陵あり

圓城寺 是奈良町の長位凡そ二里の處忍辱山にあり開基は唐僧虛龍和尚にして正堂護摩堂多寶塔照堂寶藏浴室等あり寺前に三橋あり僧院二十四宇寺内幽邃閑寂の地なり

笠置山 是笠置村にあり元弘の亂官軍敗れて後醍醐帝赤坂城に幸し給はんとて藤房兄弟扈從し奉り之に渡れ玉ひて共に岩に倚て臥させ給ふに松露滴りて御衣を沾す帝乃ちさして行笠置の山を出てしよりあめか下には隠れ家もなし

藤房とりあへず

いかにせん頼むかけとて立よればなを袖ぬらす松の下露

山上に當時行在所の舊址あり御座石目吹石其他の奇巖存在す

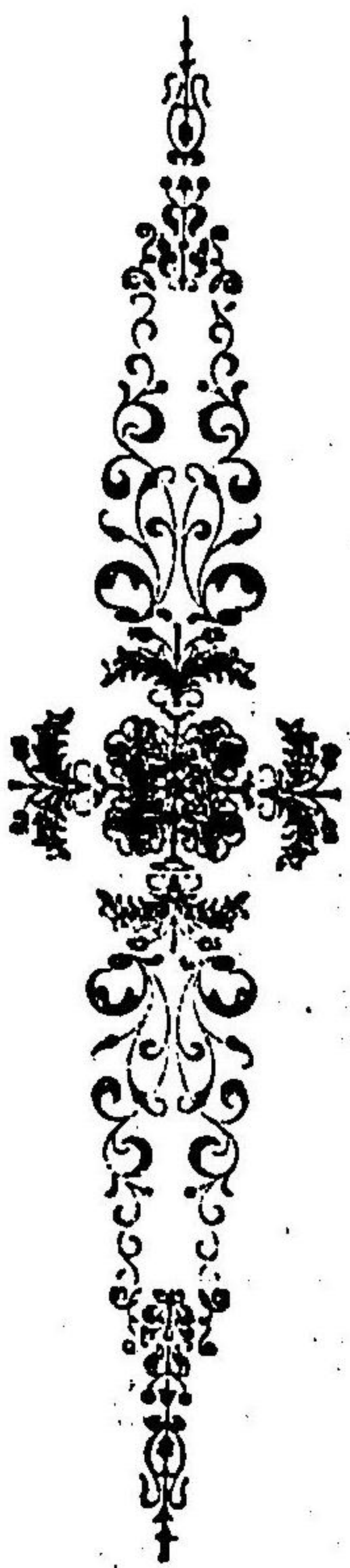
月ヶ瀬 是奈良町より六里餘人車を通ず梅花の名所にして吉野の櫻花と並賞せられ其

奈良停車場

二百六十七

名海内に遍ねし奈良よりの車賃一圓四五十錢を要すといふ

奈良停車場



### 關西鐵道

關西鐵道 是其東端初め伊勢國四日市を發し一は西へ進み東海道線草津驛に接續し一は南行津市迄の線路なりしか軌近者其東端を桑名を経て熱田名古屋に接續する事となり且つ今は津市より山田迄參宮鐵道の新設に由り更に一層の便利を加へたり

桑名停車場 (伊勢國桑名郡桑名町)

桑名 是尾張伊勢兩國の境に位し東海道に當り伊勢海灣に面し舟車の便多く本と松平氏の城下にして人家櫛比し商業繁昌の一都邑なり鐵道開通し停車場設置の後は益々其繁榮を増進すべし諸官衙會社學校等あり當所より笠岡宿西村等へ順路なり

伊勢の海に釣するままのうけさげなれや心一つを定めかねつゝ 識人しらす

いせの海に鹽やくまの旅衣なるとはすれとあはぬ君かな 躬 恒

いせの海のみまのもとは水こり初ておなしうらみに年がふりぬる 皇后宮兵衛

いせの海の渚をきよみすむ鶴の千歳の聲を君にきかせむ 馬 主

いせの海のひろはぬ玉やみたるらん鹽干のかさの蔽ふるなり 源 惠

間遠渡 是東海道中桑名の渡を指していふなり往古天武天皇大友の皇子に驥はれ亂を美濃尾張の間に避け此所を渡り給ふ時岸に達する間遠なりと宣ふ故に此名ありと又伊勢物語

桑名停車場

に

いとくすくすき行くかたのこひしきにうら山じくもかへる浪かき  
桑名城趾 是皆市の東北にあり三面市街に接して東の方は揖斐川を帯び文治の頃桑名某  
此地を領し其後幾變遷を経て織田信長の居城となり徳川氏に至りて本田忠勝之れに居城し  
後ち松平定長之れに代はり子孫相襲きて維新に至り城廢す

多度山 は一に突山といふ桑名の西北多度村にあり山上三十六峰に分れて據立す古松老

杉翁蔚として夏日甚涼く之に登臨すれば參尾諸州の峰巒海上の帆影は皆指目の間に落ち

來る一の勝地なり其麓に多度神社あり天津彦根命を祭る雄略天皇の御宇創建す元龜の頃織

田氏の兵燹に罹り慶長年間桑名城主本多忠勝之れを造營し甚壯麗なり

八壺谷 是同村八壺谷にあり多度山に屬す群芳圍繞し洞流繁瀾して八潭を爲す其狀壺の

如し青松紅楓相間はり飛泉あり斷崖に懸る眞に奇觀なり壺瀑布と稱す

四日市停車場 (伊勢國三重郡四日市町)

四日市町 是伊勢國三重郡に屬し伊勢灣に面し海内水深くして大船常に停泊し加ふるに

東海道と參宮街道の要に當るを以て往來頻繁物貨輻湊し商業隆昌の市邑なり其戸數凡三千

餘人口殆んど二萬に近く諸官衙會社銀行等あり此所より櫻菰野宿等へ行くの順路なり

千種城趾 是千種村城山にあり空濠猶存せり建武の頃千種忠顯南朝に仕へ三重二十四郷

を領し累世之れに居り勢州の北部諸城皆之れに屬す後ち秀吉の之れを奪ひ生駒氏の居城と  
なり遂に廢す

赤堀城趾 是赤坂村にあり高丈餘の小丘にして荒蕪の地なり應永年中中原景信なる者下

野國赤堀より來り之れを築きて居る因て赤堀氏と改む三子あり各所に城を構へて守る後ち

織田氏の爲めに亡され廢墟となる此外楠十郎城趾伊勢義盛の墓等古跡少なからず

日永村及濱田村 是共に東海道に屬する村落にして多く團扇を製造す世に日永團扇と稱

す

きのふたちけふたち見れば日長なる洲崎に見ゆる松のむら立

西 行

行わひぬいさ濱村に立よらん朝明過ては日長をりけり 鴨長明

諏訪神社 是四日市濱田村の間に在り建仁二年の創立にして神庫に赤堀美作守の兜太刀

を藏す例祭は舊曆八月二十六二十七の兩日にして俗に四日市祭と稱し花車をと出て近郷よ

り觀者極めて盛なり

水澤楓溪 是停車場より西凡四里水澤村西野にあり楓樹數百株碧溪の間にあり晚秋の候

は錦繡を織るか如く一名匠たり

鷹野温泉 是菰野村宇湯の山にあり四日市より東南五里菰野迄道途平易なれども是より

温泉場迄險道なり養老年中僧淨訓なるもの始めて之れを開くといふ治効著く來治するもの

河原田停車場 高宮停車場 龜山停車場  
二百七十二  
甚多く年中六七千に下らすといふ此地陸高く西南北三面は秀嶺危峯相列なり東面は伊勢灣に面して風景明媚なり又一の谷と稱する所あり楓樹の名所なり温泉宿は壽亭、旭亭、三故事等あり

河原田停車場 (伊勢國三重郡河原田村)

河原田村 是三重郡に屬し追分より分れて津に至る參宮道に當る一小村なり神戸白子町に行かんとする者は此所より下車すべし

神戸町 是參宮街道に當れる驛市にして停車場より凡一里地本と本多氏の城下なり人口凡三千餘諸役所寺院神社等あり旅舎は道具屋桐屋等なり

白子町 是參宮街道の一驛にして伊勢灣に臨み人口五千あり旅店は野島屋桐屋等なり

高宮停車場 (全國鈴鹿郡高津瀬村)

高宮 是石薬師宿と庄野宿の間に於ける一驛にして其距離甚相近し石薬師堂とも云ひ石薬師にあり古來現今有名なる寺なり

石薬師寺 是停車場より凡二十町餘石薬師宿に在り神龜年中僧泰澄奇石を獲て之れを本尊として一字を建立す後弘法大師此石に醫王尊の像を刻じ嵯峨帝の勅願所となる壽永の頃源範頼戰勝を此に祈願すといふ境内に蒲櫻といふあり

龜山停車場 (全國今郡龜山町)

龜山町 是鈴鹿郡に屬し東海道中の一驛にして本と石川氏の城下なり人家稠密今猶舊觀の土地にして關西鐵道分岐して一は草津驛一は津市に至る所なり郡役所裁判所等あり旅店の最なるものは魚屋伊勢屋柏屋等なり

龜山城址 是龜山に二所あり其一是宇古城にあり元弘三年中實忠關谷に居り六世實治を

るもの之れを茲に築き子孫相襲ひて之れを守り永祿年中織田氏の爲めに敗られ後天正年中關氏の巨岩圃某此城に據り瀧川一益に與し秀吉に抗す秀吉之れを取り蒲生氏郷に與へ

關城となす後廢す其一是龜山の中央宇舊館に在り古松翁蔚として石壘濠塹の趾今猶存

ぜり天正十七年岡本宗憲之れを築く宗憲石田三成に與みせしを以て除封せられ其後數氏を

經て延享元年石川總慶の居城となり歴世相續ひて明治維新に至り城廢す

御茶屋山 是龜山城趾の北に在り一小丘にして之れに登れば鶴足山冠が嶽等を雲際

仰き其下は椋川の流にして一帶の素練を曳か如く長太若松の浦々を望み風景明媚なり

能養野神社 是停車場より東北凡一里許田村宇女坂にあり日本武尊の陵にして高二間周

圍凡二百間丘上古松森鬱として林を爲せり古より尊の陵と唱ふる所二三にして足らず明治

十二年官之れを檢査して愈御陵と定めらる

世にふれば又も越けり鈴鹿山をかしの今に在るにやあるらん 齊宮女御  
づみか山うき世をよりにふりすていかになりゆく我身なるらん 西行



下紅葉いろくになる鈴鹿山時雨のいたく降ればなるべし

能 宣

關 停 車 場 (伊勢國三重郡關町)

關 は大化二年此地に關を据へて鈴鹿の關といふ今は其址だにあし驛の東端に參宮道在り本と關西よりするものは此處より行きしか較近參宮鐵道の新設あるを以て鐵道にて直行すべし旅店は山石、會津屋、大津屋、名物は關の戸餅といふ

祥 月

すゝか山むまや傳ひに關こへていくかになりぬ古郷の空  
鈴鹿山 坂下村の西端に在り勢江の境にあり峻阪屈曲連障屏の如く老樹陰鬱山間幽谷深溪多く俗に八百八谷といふ風景絶奇なり山頂に鈴鹿神社あり此峠は昔し東海道中第一の峻嶺なりと稱す古詠多し

齋宮女御

世にふれば又も超けり鈴鹿山昔の今になるにやあるらん

西 行

すゝか山浮世をよそにふりすていくかに行けり我身をるらん

能 宣

下紅葉いろくになる鈴鹿山時雨のいたくふればなるべし

筆捨山 (本名岩根山) 關町の西北三十町市の瀬村に在り東京よりすれば海道の右傍にあり瀧山奇岩怪石にして雜樹老松其間に占綴し五六月の候ハ幾種の躑躅咲き亂れて奇觀いはん方なく八十瀬の流れ其下を繞りて蜿蜒長蛇の如くと云傳ふ昔し狩野法眼東行の途次此山を見て賞歎措かず幾度か之れを寫さんとするも其具を得ず終ひに歎息筆を捨てさると

い ふ

關の地蔵 九關山寶藏寺と云ひ新所村に在り天台宗にして天平十三年僧行基の開基なり本尊地藏佛は一休和尚嘗て此地蔵に尿溺を瀝きしものとて名高し二大櫻ありて蝦夷櫻といふ蝦夷人杖を植ゑし所なりと發芽して此大樹になりしと

羽黒山 麓山村の西にあり奇岩怪石峻嶒として相疊り樹木其間に茂生して山上眺望に富み筆捨山に優ると數等なり夫婦石龜石花瓶石布袋石天守石等奇石多く山上に羽黒神祠あり或いふ佐藤嗣信兄弟の靈を祭ると  
觀音山 新所村の北にあり伊勢の内海を望み關市街を下瞰し來遊するものおほし山の中央に觀音石像十三軀を安置す

行末は思ふも久し君か代は岩根の山の峯の若松

俊 成

咲いつる岩根か峯の藤かつら春はすくれどかへる人もなし

家 隆

八十瀬川 一に鈴鹿川とも名付く海道の左右に沿ひて流れ幾瀬にも分るゝ故に八十瀬と呼ぶといふ

ふりそめていくかになりぬ鈴鹿川八十瀬もしらぬ五月雨の頃

俊 成

五月雨に日を経るまゝに鈴鹿川八十瀬の浪は立まさりける

治 部 卿

すゝか川八十瀬の波はわけもせでいそかぬ袖のぬるゝ頃かな

準子内親王

柘植停車場

二百七十六

すくか川今や關となりぬらん八十瀬の浪も行やらぬまで  
鈴鹿の關 は大化二年初めて此關を設け 屢興廢あり逢坂の關安宅の關を並ひ稱せらる  
永祿二年織田信長之れを撤去して京師への往來を便にす百姓大ひに之を悦べりといふ今は  
其趾だにもなし

ふるまゝにあとたへぬれば鈴鹿山雪にう關の戸さしをりけれ

内大臣

ふりすてゝ誰かいこへんすくか山關やは夜半の月も守けり

氏忠

琴の橋 は鈴鹿神社より一町計り東に在り

すくか山梧の古木の丸木橋これもや琴の音にかよふらん

俊成

屏風岩 は小岐須村の西南宇洞城にあり巨巖高三十丈創立して屏風の如し御幣川の西

岸に對峙し激湍岩に觸れて白雪の如く崖上松樹倒生して流れに臨み奇觀いはん方なし其南

石窟あり深凡十間白色にして石にて造る乳の如く俗に骨石といふ

柘植停車場 (伊賀國阿拜郡東柘植村)

拓植 は伊賀國阿拜郡東柘植村字上柘植に在り線路は關町より分岐し伊賀上野へ三里餘

停車場設置以來人家増加し商業繁昌するに至る旅店は尾張屋佐七なり

敢國神社 は國幣中社にして佐那具驛より左折じ一の宮村の東丘にあり境内樹木鬱蒼と

して幽靜を極む

上野町 は鐵屋の辻として伊賀越の驛計を以て世に著名なる所なり本と藤堂氏分城の地れ

りし所にて人口一萬三千商家軒を列ね市況繁榮し諸官衙銀行會社等あり茶木綿等を産出す

旅店は友生屋、八百新、三田屋等なり

月瀬梅林 は上野町より西南三里餘木與朝屋白櫻村を経て屋上村に至るは全村皆梅にし

て名張川を渡り月の瀬村に達す山噴水隈梅をらさるはなく香露四方に塞かり清絶いはん方

なく仙境に入の思あらしむ上柘植より上野町を過ぎ尾山村迄車行自在其賃金凡五六十錢を

り又月ヶ瀬より徒にて奈良に出る道あり或は笠置山を経て舟にて水津川を下り大坂に至る

便もあり尾上村月ヶ瀬村には旅舎料理店あり寺院も亦宿泊を許す

深川停車場 (近江國甲賀郡寺庄村)

深川驛 は近江國甲賀郡に屬し大和街道の佐那具に至る四里水口驛に至る一里十町戸數

凡四百戸人口凡三千餘人を有する一驛なり

飯道神社 は飯道手山の頂上に在り停車場より凡二里和銅年中創建に係り甲賀郡の總鎮

守なり境内古松老柏生ひ繁り甚幽邃の地なり

水口驛 は本と加藤氏の城下にして戸數一千餘戸人口凡七千甲賀郡役所裁判所等あり

三雲停車場 (全國全郡三雲村)

三雲驛 は甲賀郡に屬し東海道中水口石部兩驛の間に在る一小村落にして戸數七百戸人

深川停車場 三雲停車場

二百七十七

口三千西方より水口に至らんとする者此驛より下車すべし  
三雲神社 是垂仁天皇の御宇天照太神を大和より伊勢へ遷座の際四年間茲に鎮座せし靈  
跡なり

岩根山 是停車場より南一里餘山頂に善水寺あり延暦年間傳教大師の開基に係り薬師佛  
を安置す絶頂に登れば琵琶湖比良比叡石山等を望見すべし

萬里小路藤原卿墓 是三雲村妙感寺に在り藤原卿所々遍歴して後此山に入り曾つて帝よ  
り賜えりたる觀世音の像を本尊とし一字の寺を建て之れを安置し留錫して一生を終りたり  
と云傳ふ和歌あり

世のうさをよそに三雲の奥深くてる月影や山すみの友

石部停車場 (近江國甲賀郡石部村)

石部村 是舊東海道の一驛にして戸數七百餘戸人口三千草津へ二里二十五町石部神社は  
倭姫を祀る所にして此地の鎮守なり又村内に東寺西寺とて二寺あり聖武帝敕願所にして阿  
星山の麓に在り村端に一の流あり横田川と名づく

横田山いにしへ河原の蓬生に秋風寒く都戀しも

長 明

旅亭は扇屋、八幡屋等なり

此次驛を草津停車場とす即關西鐵道の極端驛にして官線東海道鐵道と聯絡する所なり是よ

り東すれば東京濱松名古屋及び敦賀分岐線米原等に行き西すれば西京大阪神戸大和紀伊等  
に至るべし草津驛に於ける案内は東海道の部草津停車場の所に記載せり

下庄停車場 (伊勢國鈴鹿郡晝生村)

下庄村 是鈴鹿郡晝生村に屬し寥寥たる一小村に過ぎず村内記すへきものなし

一身田停車場 (全國奄藝郡大里村)

一身田 是奄藝郡大里村に屬し關より津市に至る參宮別街道に當り津市に接近し人口凡  
四千餘商家立並び旅店の最もなるものは圓城、辰巳屋、榊屋等なり

專修寺 是初め下野國芳賀郡に在り寛正六年後堀河帝の御宇此地に移して專修阿彌陀寺  
の稱號を賜ふ眞宗高田派の總本山にして眞眞大師の開基なり境内廣く大師手植の菩提樹枝  
垂柳ありて勢州第一の寺院なり參詣者常に絶ゆることなし

津市 (全國津市榮町)

津市 是安濃郡に屬し舊藤堂氏の城下にして參宮街道に當り伊勢灣の西岸に臨み市坊八  
十八戸數凡六千人口殆んと三萬商業繁昌し三重縣廳 裁判所其他諸官衙銀行諸會社新聞  
社等あり其物産へ縵子、絹木綿、紙等なり旅店の最もなるものは大觀亭、聽湖館、櫻水樓、  
若六喜亭等あり

津城趾 是津市の南に在り安濃、岩田の二川を帯ひ伊勢海に面し内外濠渠を周らし今は

下庄停車場 一身田停車場 津停車場

城樓等毀たれ僅かに石墨樹木のみを存す此城は永祿年中細野藤教なるもの之れを築き後ち  
織田信長之れを取り信包之れを守り又秀吉之れを富田知信に與ふ慶長五年關原の役毛利長  
束二氏の來り攻め城陷る慶長十三年徳川氏藤堂高虎を此に封じ世々相襲ひて明治維新に至  
り城廢す此外長野城趾安濃城趾雲林院城跡等各所に散す

津公園 は市街の北下部田村に在り舊とは藤堂家の別荘なりしか明治十年公園となし祠  
堂を建て高虎の靈を祀る園中櫻樹躰躰等多く中央に博物館象觀亭省耕臺等を設け山海の  
風致甚美なり

瀧戸谷 は安濃郡桂畑村字瀧戸に在り奇石幾層となく墨り起伏して清流其下を細り櫻樹  
躰躰の類多く又萬年青、福壽草及び各種の藥草を産し四時の風景に富める所なり

阿漕浦 は津市の東津興村の海濱をいふ沙明に松碧に風致多し往古大神宮の鱒魚を取り  
し所にして漁を禁せり俗諺に阿漕平次なるものあり毎夜竊かに網を下せしか其事露はれ  
寶卷の儘海に投せらる里人祠を建て其靈を祭るといふ例祭七月十六日なり又古歌多し  
逢事を阿漕か島にひく鯛のたひかさならは人知ぬへし

逢事を阿漕か浦にひく網の度重なればあらはれにけり  
逢事を阿漕か浦にひく網の度重なればあらはれにけり  
安濃浦藤方浦等皆此邊の名所なり

みわたせばあの浦風吹あへに伊勢の演歌をひきぬるかを  
爲業

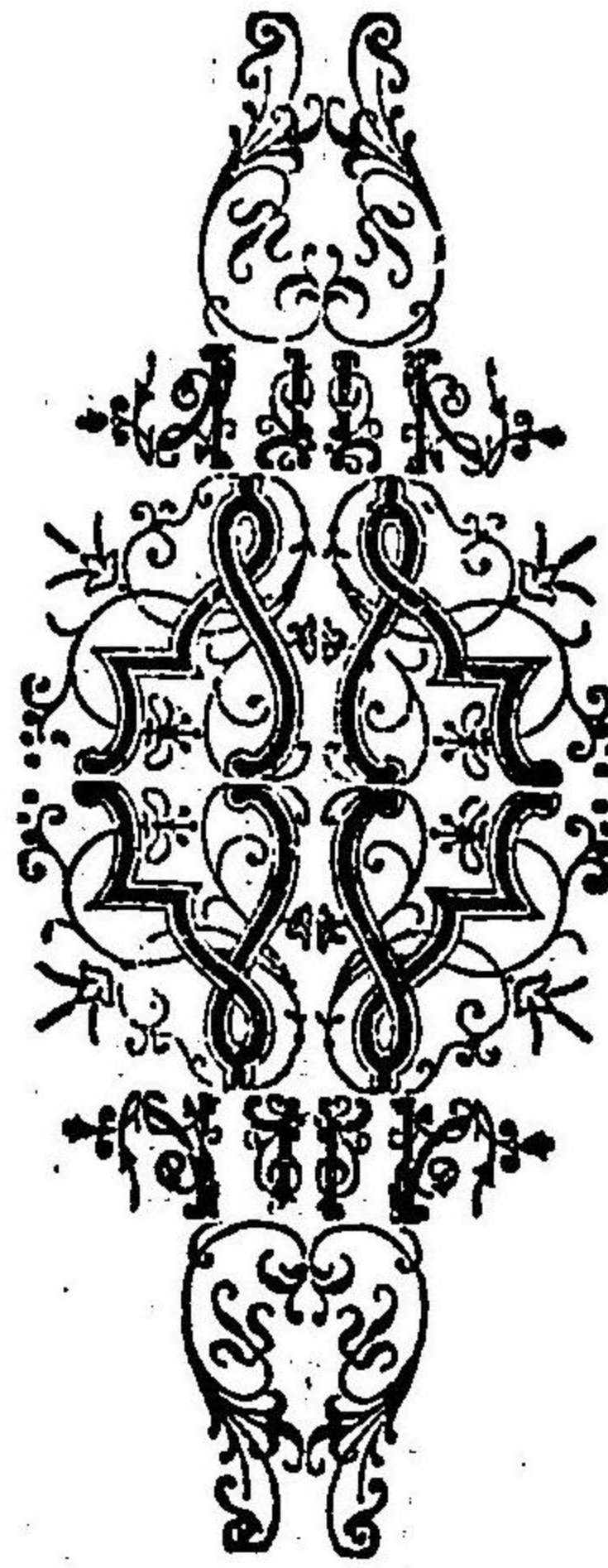
六帖集 西行

藤瀉にこき紫の色貝は幾しほ波の染めかへしけん 讀人しらす  
平忠盛宅趾 は安濃郡産品村に在り傳いふ忠盛此に生ると今猶同村の南長谷路の  
傍ら字産ヶ塚に胞衣塚及び産池と稱するものあり忠盛後ち仁平三年正月多氣郡河田村に卒

結城宗廣墳 は同郡藤方村字八幡田に在り宗廣は南朝に仕へ新田楠北畠氏等當時名を齊  
くす正成義貞顯家等前後相尋ひて戦死するに及んで北畠顯信を謀り皇子を奉じて奥羽に至

らんとし正平三年八月天龍洋にて颶風に遇ひ皇子及び顯信の舟と相失ひ海中に漂ふ事七日  
終ひに宗廣の舟安濃津に吹寄せられ病に罹り卒す宗廣死に至る迄志王室に存じ賊を滅し  
天下を復するを以て念となせり朝廷其誠忠を嘉みし今は別格官幣社とせらる

平維盛の墳 は安濃郡河内村字落合に在り碑面平維盛之墓の五字を題し其三面に傳を記  
す壽永の戦に維盛獨り逃れて紀伊那智海に身を投せりとなし此地に瀆み匿れ承元四年三  
月病死す時年五十三其宅趾に一字の寺を營む今の成覺寺是なり此村には其子孫猶存し數十  
戸をなすといふ



# 敦賀線

## 米原停車場

米原驛 北國街道の驛次長濱金ヶ崎に至る鐵道線分岐する處なり湖船發着の地なるを以て湖東の一小都邑と成り近江三港の一なり

名越寺 名越村にあり白鳳年中創立にして往古は七堂伽藍四十九院あり正治元年後鳥羽帝密に此寺に臨幸あり僧禪行等と北條討滅の策を議せらる謀漏れ帝逆臣の爲めに孤島に遷され給ふ禪行は貞應元年死す後村上此寺を勅願所と定めらる後ち元龜二年織田氏の兵江北を蹂躪するの際兵火にかゝりて一山悉く焼失す信長寺領を收め山林四十八ヶ所及び諸堂の舊趾を存す羽柴秀吉長濱城に在りたる時鳥羽殿を再築す萬治三年行者堂を廢し本堂を其跡に建つ後に鳥羽殿を廢し宸影を本堂に安置す

後鳥羽神社 名越寺の傍に鎮座す明治十一年主上北陸御巡幸の時宸影を天覽に供ふ因て後鳥羽神社の號を賜はり新に社殿を造立す

石田三成居趾 石田村にあり石田氏は藤原氏其祖は木曾義仲を粟津ヶ原にて遠矢に懸たる石田判官爲久なり其子爲成隱岐守となり世々石田村に住す三成初の名は宗成幼にして聰明穎悟嘗て書を同村觀音寺に學ぶ豊臣秀吉長濱城にあり一日狩に出て渴する甚し觀音

米原停車場

米原停車場

二百八十四

寺に入りて茶を求め三成出て茶を献す初め巨碗に温茶を汲み次は少しく熱きを半碗にして出し又次は温茶を小碗に汲んで進む秀吉其の才に感し即ち乞ふて以て近侍と爲す時に年十三能く秀吉の意を迎へ寵眷日に厚く諸將皆其鼻息を窺ふに至る而して其己に合はざる者は深く思み之を讒す故に加藤福島淺野黒田等の宿將常に三成と善からず相敵視す慶長三年秀吉薨じ豊臣氏の天下家康に奪はれんとするを慨し上杉景勝其臣直江兼續毛利輝元浮田秀家立花宗茂島津義弘等と謀り家康を除かんとし三成一介の身を以て天下の群雄を驅り雌雄を開ケ原の一戦に決す然れども天豊臣氏に幸せず加藤福島黒田等の如き豊公恩顧の宿將皆英雄の欺く處となり争ふて其爪牙を變じ一身の私忿に制せられ天下の大計を忘れ却て主家の軍に反嘴せんとす加ふるに金吾秀秋毛利秀元の如き輩出て兩端を挟み或は内應を爲すに至る西軍の謀略皆蹊蹶し大軍一度亂れて又集すべからず三成身を樵夫に扮し伊吹山に逃れ卒ひに擒はれて至る淺野幸長之れを見て其生を偷むを嘲る三成答て云ふ我兩腕を斷るも息ある内は内府豈安んずるを得んやと家康命して時服を三成行長僧惠瓊に與へしむ行長は拜謝して之を受け世に對するの顔をなしといふ惠瓊は直ちに之れを穿ら駄して言はす三成は之を視て何人の贈る所なるやと問ふ命を傳ふ者上様よりなりと答ふ三成云ふ上様とは誰ぞ曰く内府公なり三成憤然色を作して曰く大開覽して未だ幾干ならざるに早や内府を指して上様と稱する歟と終に手にたも觸れず其捕はれて大津に至るや小早川秀秋も出て觀る三成一

瞥して曰く内股膏藥めと秀秋慚愧語なし關ヶ原の一敗天下の大勢既に徳川氏に歸して三成等終に皆殺さる然れども一死以て豊公の恩に報す亦一世の俊傑なる哉

長濱停車場

長濱町 は三田と瀬田との中央に位し北陸道の要地なり昔は今濱と云しか秀吉此處に住居してより長濱と改む湖北第一の市街にして湖上の船舶常に輻湊し旅店茶店軒を並へ商業繁花なりこの地縮緬を多く産出す世に濱縮緬と稱する物是なり

八幡神社 は俗に阪田八幡と稱す長濱神前町に在り延久二年源義家の創建にして後三條帝の勅願所となる毎年秋一度大祭を行ふ遠近より來觀するもの甚夥し

長濱古城趾 は長濱の湖邊今は總て桑田となれり織田信長の命を奉じて秀吉の築きしものにして北陸の要害に備ふ秀吉姫路に移りたる後諸將交も之を守りしか慶長十一年徳川氏之を廢せり

姉川 は源を加須川嶺より發し東淺井郡甲津の原曲谷吉觀板並大久保の西を繞り南に流れ小田井口の北にて西に折れ龍ヶ鼻の北を過ぎ草津川と合し曾根細江の北にて田川馬渡川と合して一流と爲り湖に入る江北第一の大川なり此處は昔し織田信長と淺井朝倉と激戦せし地にして世に姉川合戦とて名高き古戰場なり

高月停車場

長濱停車場 高月停車場

二百八十五

井の口停車場 木の本停車場

高月村 は長濱と井の口の間にある一小村なり

高月川 一に高時川と云ひ或は馬上川といふ水源を越前國の山中より發し中河内村より曲折して南に流る下は馬渡川と爲る

井の口停車場

井口彈正邸趾 は井口村にあり今猶上屋敷下屋敷の跡あり井口宮内少輔義氏ハ淺井亮政に仕へ後彈正と稱す大永元年地頭山の戦に亮政に代り死す其の女を以て淺井久政の室とす義氏の子越前守淺井氏と共に亡ぶ

木の本停車場

木本村 は柳瀬へ二里八町なり町内に地藏堂あり町の左の方より賤ヶ嶽を望む  
淨心寺 は同村にあり俗に木本地藏と云は是なり天武天皇の御宇難波の津に漂着するを僧祚蓮之を拾ひ即ち難波に一字を建てて安置す後祚蓮越前に趣き此の地伊吹に隣り餘吾の入江に近く已高山は森々として茂り無比の靈地故帝に奏して此處に一字を建てて移すといふ

井口明神社 は木本村に在古人傳云ふ往古伊吹三郎なる者怪異の事を爲す佐々木頼綱偲て俱に井口川に遊び之を刺殺す其靈崇をなせしかは土人之を祭ると云ふ  
黒田村 は木の本の北に當りて黒田村と云あり昔は黒田の元祖佐々木黒田判官宗清が住

居せし所なりといふ

賤ヶ嶽 ハ木の木村の西餘吾の湖西に連亘する嶽なり麓より頂上まで十三町あり其の東に岩鼻山犬岩山峰ヶ嶽等發へ此地は天正十一年豊臣秀吉柴田勝家と戦ひし所にして勝家の婿佐久間盛政大岩山に在る秀吉の勇將中川清秀を破り之を殺し勝に乘じて深入遂に秀吉の爲めに擒にせられ柴田の軍大敗せし有名な古戰場なり清秀の墓は賤ヶ嶽の東南大岩といふ所に在り天和二年五世の孫中川久恒碑を建て其美靈を吊ふ

中の郷停車場

中の郷村 は東野村の南にあり小村落なり西近江に行く道に當る乃ち川並村より足海坂を越へ鹽津に出つべし北の谷に丹生路あり其谷に洞穴あり世に雨乞の洞といふ

餘吾湖 は南北十八町東西十二町あり水深三十五尋南は賤ヶ嶽の山脈に連り北は越前に境し湖中鯉鮒鱒多く生す

餘吾川 は餘吾の湖より流出し柳瀬川と合して大岩山赤尾山の麓を繞り西南に曲折し磯野山西阿閉磯野の西を歴て南に流れ河原村種路津里の南より尾上村を経て湖に入る

柳ヶ瀬停車場

柳瀬村 は北國街道の驛次なり徳川氏の世に關所あり彦根井伊氏の管轄にして往來を檢察せし所なり

中の郷停車場 柳ヶ瀬停車場

正田停車場

二百八十八

椽谷山 是中打尾山の南にありて賤ヶ嶽の役に徳山五兵衛金森五郎八などの陣營のありし處なりと

毛受勝助墓 是池原村にあり賤ヶ嶽の敗軍に勝家危く見へければ其臣毛受勝助自ら勝家と稱し茲に死して其急を救ふ近世有志者一碑を建て其忠烈を表す

刀根越 是柳瀬村より越前の國に出る路なり國境まで一里餘山路險難なり其近世鐵道布設あるより隧道を築き刀根越の下通きて越前に達す昔此處に於て信長朝倉義景と合戦あり去處なり

監津山 一名志保津といふ近江より越前へ行く古道なり近江と越前との兩國に跨る山に於て名所の一と稱せらる

正田停車場

正田村 是曳田といふ山中にあり敦賀まで二里八町川あり正田村を通りて敦賀の方に流れ下る清泉掬すへく鮮多く住めり

正壇の城 是曳田村より申酉の方山中にあり昔梅野三郎右衛門吉仍下壇民部の居城なり

有乳山 一名荒血山と稱す曳田と山中との間西の方の山をいふ近江の境なり麓に敦賀の笹かけ松といふあり此の道は天正の頃信長岐阜城にありし時越前への通路なりとといふ

いふくは分てもまらん有乳山雲も重なる峰の白雪

爲 賀

ありち山登の影をまるとにたてたるは谷の梢をりけり  
有乳山夕日かくれの淺茅はら色つきぬとや虫の鳴らん

ありち山峰の風さきたてて雲の行手に落る紅葉は

敦賀停車場

敦賀 是北海にある要港に於て常に船艘の出入繁く昔は奥羽出羽山陰等凡へて北海岸に於ける物貨は概ね此所に於て商業繁昌す富豪家多し近來此港を開港して浦鹽港との交通便利に於て西比利亞鐵道成の上は一層の繁華をもちたり可し舊名角鹿と稱す崇神帝の時角鹿の人任那の國より此處に來る依て名つく後世敦賀と改む延喜帝の時藤原利仁の館ありしといふ

我をのみ思ひつるかの越ならは飯る野山はまとはさりけり

讀人しらす

梓弓つるかの山を春越へて飯りし雁は今ぞ聞なる

春はまた立そ飯らん梓弓つるかの浦のまきつしら浪

朝倉義景城址 是氣比神社の東北手筒山に在り元龜元年織田信長徳川家康と兵を合し敦賀に攻入り遂に朝倉氏を亡す

同飯海 是敦賀の俗名ならんといふ

けの海のはよくあらんかりこの亂れて見ゆる其つり船

人 慶

敦賀停車場

二百八十九



金ヶ崎停車場

二百九十

矢田野 ヤタノ は教賀の西有乳山の北にあり應神天皇の皇女矢田姫の名を取りて名付しをりといふ其の由來詳ならず

武士の矢田のふすき折をひき男鹿妻よふ秋は來にけり

梓月矢田のひろ野の原しけみ分け入る人や道まよふらん

柳川村 ヤナギガハ は教賀より西に位す金筒城に一の宮新田義貞籠城の時亘新左工門か輪目を頂きて此の村の島崎より金ヶ崎まで泳ぎつきたまといひ傳ふ

色の濱 イロノハマ は一名常色の津といふ教賀の西北にありて濱渚なり當地名所の一なり

鹽の間にますらの小貝拾ふとて色のはまとはいふにや有るあら

手筒山城跡 テヅツヤマ は教賀より十二三町巳午に當る金ヶ崎山の續の山なり昔八生判官寺田采女朝倉景恒の居城なり

蕪木浦 ウヅキ は教賀町より良の方にあり昔金ヶ崎籠城の時氣比の大宮司大郎東宮を船に乗せ綱手を己か横手綱に結び付け海上三十町を游いで蕪木の浦へ着きぬと

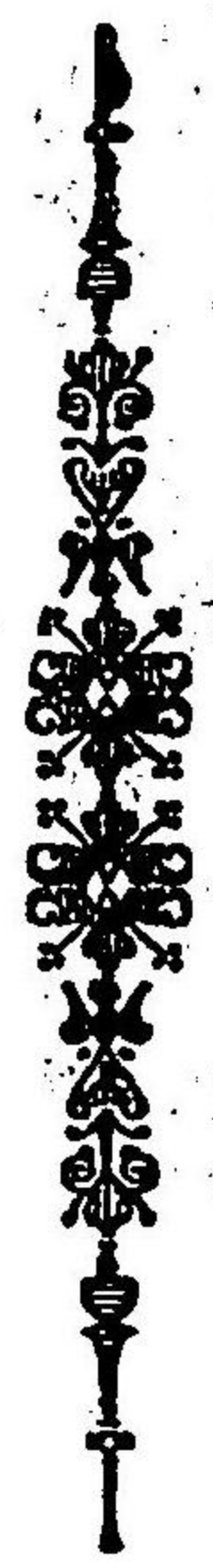
深山寺 フカヤマ は教賀より十餘町東の方にあり觀世音を安置す泰澄和尚の作なり

金ヶ崎停車場

金ヶ崎 カガサキ は教賀の東北にありて海濱なり

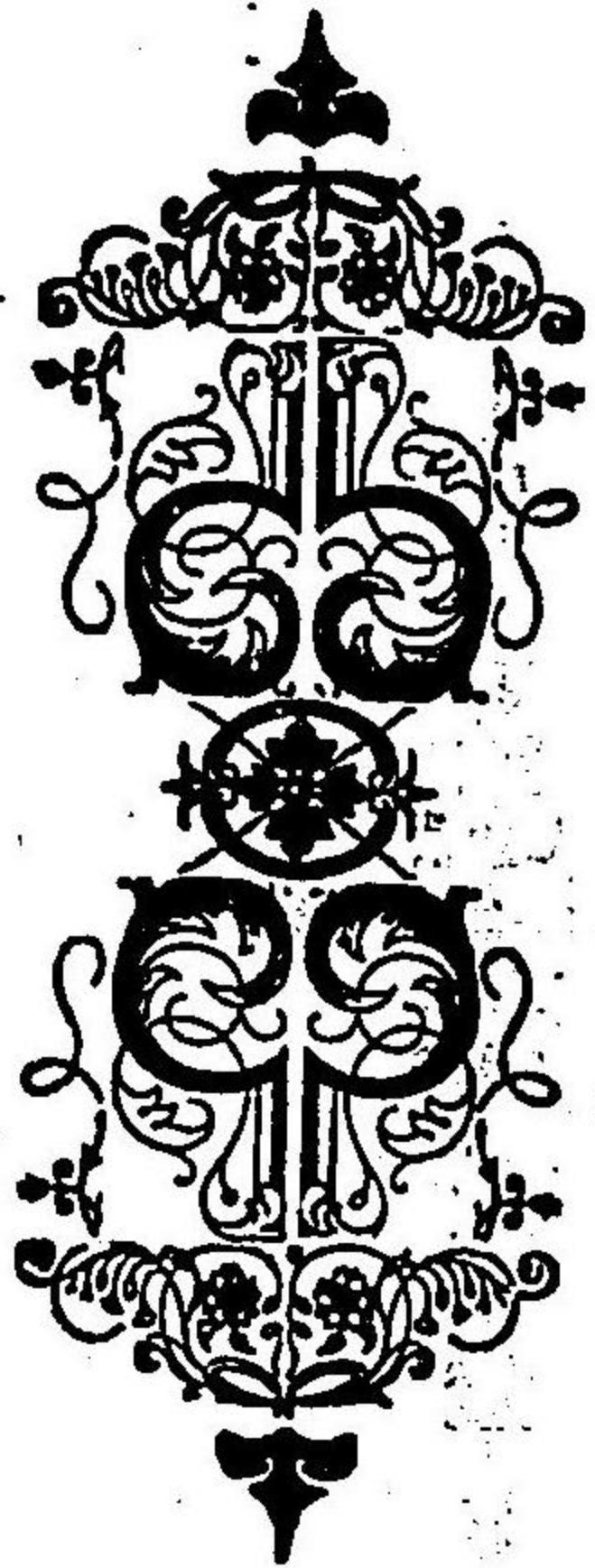
金ヶ崎古城跡 カガサキ は教賀城ともいふ教賀町の東北海中に突出したる山なり建武の頃新田義貞

貞義助之れに據り延元年中尊良親王尊氏の爲めに破らる義貞の嫡子義顯と共に自害ありし處なり其後朝倉教景の子孫及び足利義照大谷吉隆等の居城と爲る



金ヶ崎停車場

二百九十一



## 甲武鐵道

本鐵道は東京府下武藏國南豐島郡新宿町より發し同西多摩郡八王子町に達するものゝ稱にして將來は延長して山梨縣下甲斐國甲府に達するに至るべし現時は新宿停車場より東京市内に延長し青山を経て神田區の三崎の原に新線路を布設するに汲々たり該工事竣工せは乘客及貨物主の便益を増すのみならず三崎原頭忽にして一熱鬧場と變じ亦た市内の繁榮を加ふるの日近きにあり今新宿八王子間沿道の案内を略記し再版の日に追加すべし

### 新宿停車場 (武藏國南豐島郡)

新宿町 是所謂内藤新宿にして東京府下南豐島郡に屬し皇城の西北半込區の西端にある街市にして甲州街道の官驛を驛中妓樓商舖相交り軒を列ね繁華の地なり驛端に於て左右に岐路あり左折するものハ所謂甲州街道にして直行するものは青梅街道なり停車場は驛の西端にあり

植物御園 是新宿の東端大木戸にあり宮内省の所轄にして園地數萬坪小石川植物園と同じく種々の植物を培養す就中菊花多し

大宗寺 是町の中央にあり俗に大宗寺閻魔と稱す淨土宗にして閻魔像を安置す例年一七兩月の十六日には開帳をなす此日殺入と稱し都下商店幾萬の小則年二日の休日なるを以て

群集するもの甚だ多く極めて雑開賑へり  
 大久保開闢 是新宿停車場より北敷町大久保村にあり村内開闢を培養するの家十数あり  
 と雖も就中開闢園を以て第一となす彌生の末に至れば満園紅白の花爛熳として恰も野を布  
 けるが如く到る處目爲に眩せんとす茲に又開闢人形杯數多作りて子供等の愚に供す殊に近  
 來一層の繁開を極むるを以て漸次開闢園を廣め開闢を増設するの傾あり従つて酒樓茶店其數  
 を増し公園等新設するに至る

中野停車場 (武藏國南豐島郡)

中野村 是青梅街道淀橋の西にある一小村にして淀橋の地と共に兩立して一小繁華をな  
 す昔東京の武蔵野と稱し一大荒原たりし時該野を三段に分つ即ち上部を上野と云ひ下部を  
 下野と云ふ中野は即ち其の中央にあるを以て斯く名付くとか上野下野と云ふは抑何處を指  
 せしか  
 寶泉寺 是中野村に在り明王山聖無動院と號す古義の眞言宗にして本尊は不動明王を安  
 置す開基年號等今詳に難し昔は有名なる巨利なりしか大永の頃より兵戰續き爲めに殿堂  
 荒廢に及ぶ後世再建すと雖昔日の半にも達せずと云ふ鎌倉三代將軍嘗て此の寺を障所とせ  
 しと舊記に見たり當寺に享保年中交趾國より貢獻する象の枯骨を藏するは普く人の知る處  
 なり

桃園 是中野より西十町餘にあり栽ゆる處の桃樹數十大樹老幹にして紅白交々相交り爾  
 生の佳期此地に飄を携へ之を賞する者少からず當園は享保十五年の頃幕府命して桃樹數千  
 株を栽へしむ當時方二里と稱す其の後命して他に移植してより大に現今の如く其の數を減  
 したりと云ふ  
 新井薬師 俗に子育薬師と稱す中野停車場より北二十町許野方村新井に在り功驗著しと  
 て常に繁客の群集夥しく一村の大半は薬師在るを以て爲に口を糊すと云ふ其の繁榮なる推  
 して知る可し毎月十二日には特に雜沓す  
 十二社 是淀橋村角善にあり應永の頃鈴木某なる者熊野權現を茲に勧請すと境内取て快  
 濶宏大と稱するに非ざるも又小景乍らに風趣に富み池あり水清洒清徹深布は晴々懸懸より  
 落ち遠く之を聞かば琴瑟を彈するか如く潺々として川流とある四圍老樹隱隱寂として只鳥  
 啼を聞くのみ願雨雅幽靜の地なるを以て近時大に庭園を經營し茶亭を設けて一方の遊覽地  
 と爲す避暑納涼の佳期都人半日の納涼を取るに好適せり  
 淀橋 是淀橋村と中野村との中間に架したる一小橋にして大小土橋あり傍に水車あるを  
 以て昔徳川將軍此地に御鷹狩の初山城の院に據して淀橋と名付くとか淀橋の川を以て豊島  
 多摩の郡境とす橋より以東は豊島なり以西は多摩郡なり  
 堀内妙法寺 是日圓山と號す中野停車場より南二十町許堀の内村に在り法華寺なり其境

秋窪停車場 境停車場

二百九十六

造甚宏壯にして本尊は除厄祖師にして日朝上人の作に係る開山は日朝上人なり本尊は元元  
磯谷法華寺にありしを元祿の頃故ありて當地に移せしなりと此地都下を去る西三里僻隔の  
地なるも常に宗徒の参詣する者日夜絶えず就中七月の法華千部會十月の會式には非常の  
香を極む境内頗る廣潤なりと雖雜沓の爲め立錫の地なきに至ると門前には茶亭酒樓數多  
りて皆薄造清酒以て一酌を舉ぐるに足る

秋窪停車場(武藏國南登島郡)

秋窪村 是青梅街道に在る一小村にして上秋窪下秋窪の二段に分つ新宿を去る二里餘停  
車場は下秋窪にあり

大宮八幡宮 是甲州街道高井戸村和田にあり創建の年號大古に屬するを以て知るに由を  
し社傳に云ふ嘗て多田滿仲頗る崇信せし神社なりと後冷泉院御宇 源 頼義奥州征伐出陣の  
時奇蹟ありて康平十六年凱陣の時宮殿を再建す其後頼朝奥州泰平追討の後大に修理を加へ  
らる夫より上杉北條合戦の時上杉の軍亂入し社殿兵燹に罹り灰燼と爲る然るに天正の頃大  
石僧漢守再び建立し十九年大神君宮社へ合爲ありしと云ふ當社は最も古代の創草に係れる  
を以て境内老杉雜樹頗る多く陰翳として畫尙暗し

境停車場(全國西多摩郡)

小金井の西畔にあり一村なり停車場は村端にありて小金井迄七八町小金井に尤も近き故花

時花に酔んとするの客は多く此停車場より下車するを以て四月上旬より下旬迄は非常の雜  
沓を極む

井頭池 是境停車場の東十五町許武藏野村にあり神田上水の源にして元七井の池と稱す  
東西數十歩南北凡そ三百歩許常に清泉滾々として湧出し大旱と雖とも水の潤るをなし都下  
百萬の人民は飲料水を茲に仰く池水澄碧恰も瑠璃の如く四方の岡阜老樹茂り蘆々鬱蒼とし  
て天日爲に暗く其幾百年なるを知らず四面寂として幽靜閑雅夏日涼を掬せんとする者此地  
に曳筇する者多し池中一小島あり祀るに一祀を以てす彼名高き井の頭辨天是なり社は建久  
八年源頼朝の建立する處今大に荒廢せりと雖其構造尤も古雅にして蒼くに蘆芽を以てす社  
前最古ひたる石燈籠一基あり

小金井の櫻 是細流色蒼々として其疾きと矢を射るが如く遙に見れば刀を横たへし如し  
兩岸堤防ありて植ゆるに吉野櫻を以てし木皆古蒼老樹其大なる者二抱にも餘る可し兩岸枝  
相接し花相連り花下急流水清く流る水と櫻は日本の粹を鐘めし者なり長堤凡二里春風四月  
の天櫻花爛熳彩霞を込めたるが如し半ば堤に下りて遙に望めば杳然其行く處を見ず恰も白  
雲洞裡に徘徊逍遙するの感あるなり是之を小金井とす地は遠く塵寰を離れて甲武鐵道會  
社新宿停車場第四次の境停車場より十町餘の處にあり又第五次國分停車場より行くも可な  
り此地の櫻ハ三代將軍玉川治水を企てし時即ち元文二年に移植す上流とは所謂此清き碧流

境停車場

二百九十七

なり移植せし櫻は今や年古りて萬葉の櫻となる兩岸幅狭き事なれば花時に群る酒客杯往々にして兩岸戯れに盃を相獻酬するを見る花は紛々として又飄々として飛絮の如く流に浮ぶ状吹雪の如くにして而も香氣鼻を撲つ歎何ぞ堪ん此流れに橋を架す七基渡りなからにして前後を願望せば恰も吾は雲際の人なり花時甲武鐵道會社臨時瀛車を發して遊客の便に供す

國分寺停車場(武藏國西多摩郡)

國分寺村 は國分寺のあるを以て名とす一寒村なりしか甲武鐵道の開けてより花時小金井に遊ぶ者甚だ夥しく多く境に下りて國分寺に回り歸るを常とするを以て四月上旬より下旬までは乗客群集し極めて雜沓す故に花時新に茶店を停車場の畔に建て乗客の待合となす國分寺 は醫王山と號す國分寺村にあり本尊藥師如來を安置す聖武帝御宇天平年中の草創なり聖武記に曰天平十九年十一月己卯天下諸國に詔して國々に金光明寺(乃ち國)一寺を造らしむ國家持護の寺なり南都東大寺は總國分寺にして當寺は其一なり往時は頗る大伽藍にして方一里と稱す麗樓傑閣衆として礎を連ね七層の高塔巍峨として當國第一の靈佛たり延喜式に國分寺領四萬束と見ゆ承和年中回祿の禍を蒙り爾來大に荒廢に及ぶ今僅に一寺を存んずるのみ古來より周圍の田畝より往々古甕を掘り出すとあり其を見るに大なるは尺に精ち眞に製造巧緻にして堅牢なり人或は之を硯地となすあり以て搦造の結構なりしを推して知る可し

府中驛 は國分寺ステーションより西南十數町にあり甲州街道の一驛にして新宿を去る六里驛中旅舎妓樓商舖交々軒を接し一小繁華をなす此地玉川に接近し小金井まで僅に里餘故に花時小金井に花を賞し玉川に遊び歸路此の地を回遊する者多し抑も府中と稱する地は昔は必ず一國に一ヶ所ありて其の國の國司下向ありて各國政を司りし所なり彼甲府の如き即ち昔の府中なり  
大國魂神社 は府中驛の南端にあり官幣小社にして大己貴命素盞雄尊を祀る古代の社にして舊名六所明神と稱す景行天皇御宇四十一年之を創建す社々總て朱塗にして構造甚結構を極む境内老杉林立鬱蒼として神さびて幽し毎年五月五日大祭を行ふ此日數基の神輿を渡御し頗る盛んなり昔し六所の提灯祭と稱し華美なる例式ありしか今は廢じて用ひずと云ふ多摩川鮎 多摩は水源を信州イザムカ岳に發し甲州都留郡に入りて一の瀬丹波川と爲り東流して當國多摩に入りて多摩川となる下流に至りて六郷となり川崎の地に至りて海に注ぐ長さ凡三十八里水流清澄にして水底は總て礫砂を敷き珠玉の如く光れり世に玉川砂利と稱し其の名高し鮎は此川の名産にして初夏の頃より晩秋の頃までを佳期とす故に都人士女來り遊ぶ者多く羽網に或は笠に或は鵜飼に鮎を漁し直に炙りて其の潑刺を賞味す味甘くして香ひ高し就中羽網を最も美しとす甲武鐵道の開てより避暑を兼ね鮎漁に赴くもの年々歳々増加するの傾あり漁所は日野立川の邊を最佳とす舟宿の設ありて遊客を案内す又客

の求に應じて割烹をもせず東都より距離短かければ遊客は新宿發の一番に出て終列車にて歸京すれば推分慰となる

關戸古戰場 は府中より南に去ると三十町餘玉川の南岸にある一小村落なり昔は新田義貞

貞惠姓等此の地に於て合戦ありし古跡なり村中尊塚明塚などを稱する跡田畑中に存す今尙

偶々此地方より天竺等の腐朽せるものを掘出すとあり

小山田の關 は關戸の南小山田村を稱する一寒村あり歌に小山田の關を詠めるは此處を

らん然れども詳ならず

あふとを苗代水に任せてそこさんさとしは小山田の關

あふとはなわしろ水をひきとめてとをしはしめて小山田の關

向ヶ岡 は小山田村より東は未長に至る其間六里程の地を云ふなり總て玉川の對岸風景

奇絶にして水石の美なる殆んど名狀すべからず

むさしのく向ひの岡の草なれば根をたつねてもあはんとぞ思ふ

あさなくよそにやはみるますかみむかひか岡に積る白雪

秋霧のたへまをみれば朝附日むかひの岡は色付にけり

夕つくひ向ひの岡のうすもみぢまたき淋しき秋の色哉

此山の峰より月や出ぬらん向の岡に影そうつろふ

よみ人知らず

顯橋法眼

小 町

智 家

後一條入道

藤原家郷

藤原家隆

よみ人知らず

人 丸

後鳥羽院

藤原信實

常 陸

鳥さけひ聲やまつらん尋人の向ひの岡にとほみ立つ

出てみる向ひの岡のもしけく咲たる花のならすはやまじ

いつのまに向の岡の小松はら月もるまてに成にけるかな

山かつのいそく朝戸もあけ詫ぬ向ひの岡の雪のふよきに

見渡せばむかひの岡の夏草をたかふ駒のためとなるらん

百草園 は多摩の南岸七生村字百草の高丘にあり關分寺停車場より府中を横斷し西南三

里餘道路至て平坦なるを以て人力車を通す園は元ともぐさの松蓮寺と號し名勝の地なり寺

は天正年中の草創なり維新後堂宇毀壞し賤夫か僑居となりしを横濱の豪商青木某の所有に

歸してより庭園を大に經營し櫻桃を植て池泉を修理す爲めに一層の風致を致せり園内設く

るに一小割烹店ありて來客の飲食に供す前は多摩の清流を瞰下し遠くは十州の翠巒一眸の

中に集り春は花夏は涼秋は月冬は雪四季共に眺める佳地なり香魚の佳期に至れば多摩に下

りて潑刺たる魚を得るも又一興と云ふ可し

離宮 は百草園の東隣蓮光寺村の丘にあり所謂向ヶ岡にして前は多摩の清流を瞰下し磔

沙玲瓏晶玉を敷く如く遂に下流を眺れば竹樹清新松樹蒼々黃茅の家其の間に點綴し青田は

竹松と其の綠蒼を争ひ後は秩父小佛の翠巒婉々起伏し回顧風景殊に絶勝なり近き比苑内植

ゆるに櫻樹數十株を以てす彌生の比は紅綠相映して一層の眺あり

立川停車場

小野神社 是百草蓮光寺村の中間一ノ宮村に在り舊祠記多摩郡八座の内なりまた祭神は  
詳ならずとあり

立川停車場 (武藏國西多摩郡)

立川村 多摩の南岸にある一小村にして昔立川宮内大輔某なる者の城跡なりと云ひ  
傳ふ此地も鮎の好地なるを以て客は多く此地に来る然らざれば日野に趣くを常とせり故  
に近年新に割烹兼舟宿の設ありて遊客に便にす

御嶽山 八王子日野等より行くを得可し然れども道險なるを以て人は多く立川より行  
く初は停車場を下り直に多摩川に沿て行くに二里許拜島驛を過ぎ羽村に達し其より青梅宿  
に行く可し青梅宿は養蚕の盛んなるを以て繁昌なり青梅より二俣尾澤井を過ぎ玉川の上流  
を横断すれば直に山麓に達す青梅よりの距離大凡二里弱坂路なるを以て車を通せず山に近  
くに及んで道愈々險なり更に進んで崖を攀れば社前に達す社前には舊御師の家十数あり皆  
旅舎を營み待遇甚だ丁寧なり編者も且て遊べり社は縣社にして小彦名命を祭る建築頗る古  
代になりし者にして宏壯ならざるも四境靜肅なる故神威高を覺ふ又老杉鬱蒼として日光を  
遮り雨なきに糠雨を降らし風無く木静かに山氣懐然氣自から爽澄たり近年本邦人の避暑に  
赴く者大に其の數を増し從て外國人の遊山する者漸く多きを加へたり是より猶高き大嶽山  
に到る可し大嶽神社これなり山又幽境物凄き迄なり山中名所と稱する所其の數を知らず就

中七代龍御後龍後尾龍おはん岩圓山日の出山那具男の家等は其の尤も有名なるもの  
にして此地に遊者必す一見すへき所なり  
萬年橋 御嶽山の東麓にあり長六十間巾四五尺橋上より水上に至る八十尺許り一柱の  
橋を支ふるなく兩岸の絶壁より次第に木材を積み重ね層々相出で川の中央に於る兩者を相  
觸れしめ上に板を排列して人を渡す而して欄を設けず其製甲州猿橋に髣髴たり中央より伏  
瞰すれば身空中に在るか如く遂然として碧流を見る白き者は岩石に激するなり兩岸の絶壁  
は恰も鑿開老樹鬱として其上を掩ひ小赤壁の觀あり遠く下流を望めば南岸皆松樹黃茅の家  
其間に點綴する狀絶勝なり

日野停車場 (全國全郡)

日野村 多摩川の南岸にある甲州街道の官驛なり驛中漁師多く戸數二百許八王子を距  
る一里許なるを以て常に往來頻繁なり且つ此地香魚の好漁地なるを以て初夏の候より晩秋  
の頃迄は都下より遊山納涼を兼ね鮎漁に赴く者多く爲に驛中に繁昌す驛中旅舎數多ありて  
宿を求むるにわろからず價亦不廉あり

羽村 所謂玉川上水の源にして開門は精鍊なる鑛材を以て爲る開門の兩岸は絶壁にし  
て老樹其上を掩ひ蜿蜒するの狀銀龍の俯して溪谷ふ飲みか如く滾々として日夜絶へず流れ  
て東京に入り都下百萬の人口を治す門は承應年中玉川の上流をひいて江戸城下の上水と爲

日野停車場

八王子停車場  
三百四  
せし時始めて建設了爾後幾百年都下の人民其徳に浴する久し閑あらば一遊す可し昔に景色のみを愛するのみに非ず

八王子停車場(武蔵國西多摩郡)

八王子町 是甲州街道の官驛にして甲武鐵道最終の地にして人口一萬八千餘街道第一の都會なり養蠶紡績の業盛にして諸種の織物を産出す常に行商の往來頻繁にして驛中旅舎酒樓妓樓等其數多く加ふるに宏大なる者少からず旅舎は角屋を其尤なる者とし餘は皆之に次く此地は多摩川を去る遠からず高雄は僅二里餘にして御嶽は東北五里餘なるを以て多摩の清流を汲み高雄御嶽に涼を掬せん遊客八王子より見物し歸路に就く者多きを以て殊に初夏より晩秋の頃は一層の繁榮を爲す

八王子城跡 是八王子町より二里餘甲州街道小佛峠の右の山上にあり天正年間瀧山城を此に移せるなり抑瀧山城は名城の聞えありしか瀧は落るとの詞を禁じて此處に移せしなり

と尙又同じ天正年間廢城せりとあり又北條五代記に秀吉公氏直追討として東國へ發向し天正十八年三月十九日京都を打立同廿七日駿河の沼津に至る云々武州八王子北條陸奥守鳥井彦右衛門尉等大將として攻落すとあり

瀧山古城跡 是秋川多摩の合流する處中舟木村の丘にあり瀧山御嶽として黄茅の家二三其間に點綴す東北は秋川を擁し東南に多摩の清流あり西北は御嶽の高山聳峨として天表に

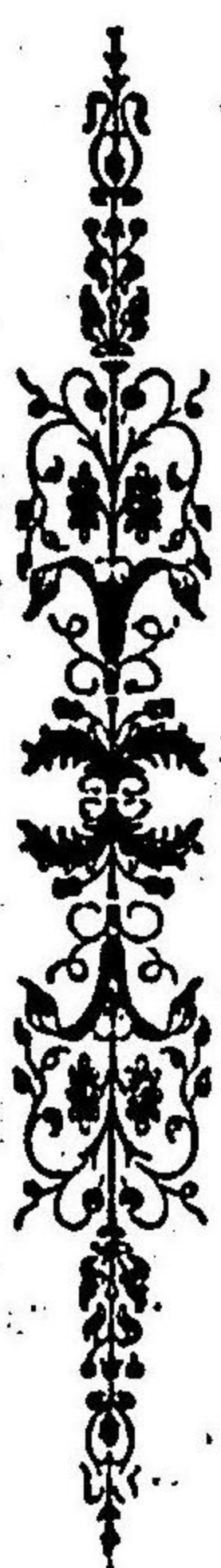
聳け眞に築城の適地なり廢城考に云ふ上杉の臣大石定久居城せり後氏康の有となり後永祿年中北條氏輝(氏政之弟)此城に籠り武田信玄來り攻め天正十八年前田上杉毛利松田等共に來攻し攻取して廢城となる

其他八王子内に八日市場に住吉神祠あり光輝山澤水寺は普化禪宗にして北野村に天神祠あり祭神は菅公ならむ又他の神祠なりとの一説あり

高雄山 是南多摩郡淺川村にあり八王子迄瀧車にて行き夫より甲州街道に就き字小名路を歴る十町許高雄山本道あり八王子より當所迄乗合馬車を通せり故に歩行の面倒もなし馬車の留まる處より道漸やく勾配急に足指仰ぐ徒歩して山麓に到る可し登山する事凡三十町餘山頂に一寺あり藥王院と稱す聖武帝の御宇天平十六年僧行基の開基にして其後人皇百代後圓融院の應安五年の比僧俊源なる者此地に來り八千枚の護摩供を供し不動の化身を彫み一字を營み之を安置す所謂飯綱善神是なり彫刻は美を盡し彩を凝し形容甚華美なり社の四面は老杉數百樹鬱々として陰森醇茂せり爲に千里の眺望を除殺する山に入れば清風徐に來りて輕々袂を拂ひ冷氣觸に徹して殆んど夏あるを忘る一度此處に遊はんか轉仙境道遙の感あり故に毎年夏季に至らば參詣を兼ね遊山する者特に多し山中一旅店一酒樓なく寺坊を借りて宿泊し或は山下に下りて酒を求むるの不便渺ならず故に此地に遊はん者前以て酒食の準備を爲さざる可らず境内より西北に行き事十六七町飛瀑あり琵琶の瀧と云ふ高一丈餘



八王子停車場  
傍に三四の茶店あり夫より十町餘を下りて蛇瀧と稱するあり琵琶瀧に比して稍小なり



### 日本鐵道

日本鐵道は東京市下谷區上野より端を發し品川に於て官線東海道鐵道に接続し東京市外の西部を迂回し赤羽に至りて上野線と合し進んで群馬縣高崎を経て前橋に至り兩毛鐵道に聯絡し一は埼玉縣大宮にて右折し小山に於て右は水戸支線に接し左は兩毛鐵道の一端に聯り而して本線は進んで宇都宮に至り日光支線に結び尙直進して白川福島仙臺一ノ關盛岡等を過き極端青森灣に達して終る其線路の諸縣を亘るると東京を始とし埼玉群馬栃木茨城福島宮城盛岡青森の八縣にして本支線路の延長五百九十二哩に及ぶ本邦私設鐵道中最大の鐵道會社とす近者又下總を経て常陸磐城陸前等の東海岸に沿ひ更らに一線を布設するの計畫あり加之鐵道は支線の増加に隨ひ益す其本線の利益を増進するを以て早晚尙更らに營利上必須の要地に新線布設を要するか故に同社鐵道の一千哩に達するは蓋し遠きに非ざるべし

#### 上野停車場

上野は東京市下谷區に屬し櫻花の名所なる上野山下に在り日本鐵道の首端驛にして旅客店貨物問屋等其前に軒を並へ馬車鐵道は淺草及び日本橋等へ往復す場内には人力車夫組合あり切符を賣ると都へて新橋停車場に於けるか如し故に地方より初めて出京し上野に下車するものは同所に於て切符を求めは甚安全なるべし此外近傍の案内は東京市の部に記すを

上野停車場

王子停車場 赤羽停車場

以て茲に省く

王子停車場

王子村 是東京府北豊島郡に屬し戸數千三百餘戸人口殆んど八千近年製紙會社紡績會社印刷局其他各種の工場起りたるを以て人口次第に増加し一小區街とせり

王子稻荷神祠

は停車場より數町の所に在り昔より有名の神祠にして參詣常に絶へず種々の神寶を藏せり

飛鳥山

は停車場の前面に當る山にして櫻花を以て有名なり盛春は都人の花を來賞するもの極めて盛なり又瀧の川は紅葉を以て名あり境域廣からずと雖も頗る風致あり飛泉所々に懸りて夏時納涼に宜し料理店は扇屋海老屋等にして何れも繁昌す産物は毛織物メリヤス及び紙類なりとす

赤羽停車場

赤羽 是上野線と品川線と分岐する所に在り北豊島郡岩淵町に屬す戸數九百餘戸人口凡五千川口宿及び鳩ヶ谷岩淵等への旅客は此所よりす

太田道灌城趾

ハ停車場より凡五町許淨勝寺に在り道灌の像其所持の二股の竹杖及び自

詠の書あり此所眺望に富み遙かに富士を望む道灌の歌に

我庵は松原つゝき海ちかくふしのたかねを軒端にり見る

産物は澤庵積を有名とす此外川口に於て製する鑄物類多し

浦和停車場

浦和町 是元と一宿驛なりしか埼玉縣廳設置以來人家次第に増加し商業繁昌に赴き今は近郊の一都邑となり諸官衙學校病院等あり

奥野の櫻

は浦和の西北一里餘奥野村に在り享保の頃吉野より移植せしものにして爾來櫻花の名所たり地勢稍高く中央に小丘あり富士秩父の諸山を望み其下溪流あり丘を繞りて流る風光頗る明媚都人の郊外散策に適するの地なり浦和より人力車賃九十錢内外酒肴は携帶するを可とす此地の産物は甘藷を重なるものとす

大宮停車場

大宮町 是埼玉縣北足立郡に屬し戸數凡四百戸人口二千川越及び岩瀬近傍への順路とす鐵道線路は此所にて一は高崎直江津等に向ひ一は右折して日光小山水戸及び青森地方へ岐る故に旅客は此所にて乗換を注意すべし

大宮公園

は停車場より凡十町餘氷川神社の境内に在り青松數千株蔭を垂れて幽邃閑雅の地なり園内に酒樓數軒あり皆温泉浴場を設け來遊者少からず又此邊は螢の名所にして東京近傍より螢狩に來るもの多し毎年十二月十日氷川神社の祭典あり俗に十日市と稱す參詣者甚多し

上尾停車場 桶川停車場 鴻巣停車場 吹上停車場 熊谷停車場

三百十

上尾 停車場

上尾 北足立郡ふり戸敷四百戸人口二千五百中仙道の驛次にして又川越地方の順降とす此近傍は總て養蠶の地にして年内の産額亦少ながらす産物は繭糸甘藷茶等とす

桶川 停車場

桶川 北足立郡に在り戸敷五百餘人口三千其産業大路上尾と同じ

鴻巣 停車場

鴻巣 北足立郡に在り戸敷七百餘人口四千松山町に往來するの旅人は常に此地に依る停車場より凡二里許吉見村と稱する所の山腹に百穴あり太古穴居の趾なりと云ふ此地物産は米穀綿織物等とす

吹上 停車場

吹上 北足立郡に屬し戸敷三百餘人口二千忍町及び館林羽生川股等への順路とす物産は穀類綿織物等なり

熊谷 停車場

熊谷 往時繁盛を極めし地にして戸敷二千五百餘戸市中に熊谷寺あり熊谷直實の墓存す青苔深く鎖じて往時を追想せしむ又夏時荒川に鮎漁する者頗る多し又馬頭觀音の緣日は舊曆正月十九日太田吞龍の同八月七日八日の兩日なり賽詣者多し産物は五家寶と名くる菓

子船等なり

本庄 停車場

本庄 埼玉縣見玉郡に屬し戸敷千三百餘人口八千商業相盛んにして秩父地方物産多くは此所に集る秩父大宮郷迄凡十里道路平坦にして馬車の便あり物産は秩父絹繭木材薪炭穀類寛等とす三峯神社は秩父郡大瀧村に在り毎年登山する者三萬人に下らず就中夏季は一日四五百人に及ぶと云ふ眺望頗る佳にして且極めて幽邃なる地なり

新町 停車場

新町 群馬縣藤野郡に屬し戸敷七百餘人口殆んど三千紡績所ありて甚盛大なり富岡藤岡町及び玉村等への順路とす物産は紡績系織物三波石等なり

高崎 停車場

高崎 西群馬郡に屬し本と大河内氏の城下なり戸敷五千人口凡二萬五千中仙道の要驛なるを以て市坊甚廣く商業繁昌せり兵衛裁判所其他諸官衙銀行會社等を有する小郡邑なり此所より一は官設鐵道直江津線に連絡す一は尙進んで右に折れ前橋に到り兩毛鐵道に接續す故に旅客は其列車乗換を注意すべし料理店は春露館岡源等にして旅店は塚屋越後屋高崎館登田屋吉田屋武藏屋信濃屋近州屋何れも停車場近傍に在り物産は織物類生糸等とす又近田の饅頭とて名物あり

本庄停車場 新町停車場 高崎停車場

三百十一

栗橋停車場 古河停車場

三百十二

清水観音

は高崎より二十町餘片岡郡石原村に在り小丘にして鳥川の急流其下を洄くり

西北は赤城様名妙義の諸山青空に聳へ眺望絶佳なり舊曆十月十日及び正月二日開帳す

達摩寺

は碓氷郡登岡村に在り松林山と號す新曆一月七日を縁日とす同寺境内に目をし

達摩を彫り参詣者購求して年内の吉凶を卜し吉なれば一目を墨書して祝す

栗橋停車場

栗橋

は武蔵國北葛飾郡靜村に在り利根川に臨み戸數凡一千人口六千餘水陸共に便ある

の地をり此所より大輪村へ一里賀須へ三里羽生へ五里上高柳村へ三里半なり物産は川魚綿

布生綿麥等をり

靜御前の墓

は停車場の前に在り相傳ふ源義經陸奥に逃れし後ら靜蕪ひて都より下總國

葛飾郡下逸見と云ふ所迄來りけるか義經高館にて討たれしと聞き悲歎止まず遂ひに此地に

て病死せり里人憐みて此所に葬り一本の杉を植へて標とせりと今は其樹も枯果て、無し享

保の頃中川某一片の碑を建てたるを云ふ舞衣義經の與へたる寶劍及び其持佛等を藏せり

古河停車場

古河

は下總國西葛飾郡に屬し舊と土井氏の城下にして戸數凡一千七百人口八千利根の

水利に因り昔より一の市區なりしと云ふ即ち古河公方足利氏の舊墟なり又城中源三位頼政

の墓あり宇治平等院にて頼政自殺せし時其臣猪早太頼政の首級を匿し逃れて當地に來り葬

りしと云ふ

熊澤番山の墓は停車場より十八九町の所に在り此地は多く桃樹を植へ開花の候には數村紅

霞の變變たるか如し當地の産物は茶桃奈良漬等とす

小山停車場

小山

は下野國下都賀郡に屬し戸數凡一千戸人口五千本とハ一小驛なりしか鐵道布設以

來兩毛線及び水戸線と本線と交叉する所となりしを以て鐵道旅客の乗降頻繁となり人家増

加し次第に繁昌の一驛と成れり此地は保元平治の頃小山下野大椽政光の居城せし所にして

其子朝政より世々居住し後ら宇都宮氏と屢戦ひ天正十八年北條氏と共に亡びたりと云ふ小

山驛の西思川の東岸に其城址あり

下館停車場

下館

は水戸支線に當る一驛にして小山驛より右折し結城に至るの間に在り此所より筑

波山に到る順路あり麓迄凡五里

筑波山 是真壁新治の兩郡に跨り男婦女躰の二峯あり奇岩怪石聳々山際甚峻しく頂上數

十里を望み風景絶奇なり

筑波根の紅葉うつらふみなの川瀾よりふかき秋の色かな

筑波根のこのもかのものみち葉に時雨もつけき程もしらるゝ

小山停車場 下館停車場

三百十三

笠間停車場 水戸停車場

笠間停車場

笠間町 是舊牧野氏の城下にして人家櫛比し農商相半し稍繁昌なる市街なり笠間城跡は笠間町佐白山の上に在り地勢峻峻にして岩石多く往昔平忠道なる者押領使に任じ此所に居る後ち笠間持朝の居城となり其より宇都宮蒲生小笠原松平永井井上本莊氏等交も之れに代はり最後に至り牧野貞通此に封せられ子孫世襲し明治維新に至り廢城となる  
胡桃下稻荷 是笠間驛にあり毎年舊曆初午の日祭禮あり又鎮守祭は舊曆十一月十五日にして四方より群集する者極めて多し

水戸停車場

水戸市 是舊徳川氏の城下にして上市下市と二つに分れ市坊甚廣く人家多く茨城縣廳官衙銀行會社等あり

水戸城 是水戸上下兩市の中間に跨り北は那珂川を帯ひ南は千波湖に面し地勢隆起して長蛇の如く東西に走り其中間隧道あり鐵道線路其下を通じて那珂川に達す城域甚だ廣からず此城は應永年間江戸通房の居城となり後ち天正十八年佐竹義宣江戸氏を亡して此に移る慶長七年徳川家康公佐竹氏を羽州秋田に移し武田信吉を此に封す信吉死し嗣なく國除かれ徳川頼宣之れに代り同十四年徳川頼房又代て此に封せられ累世居城し明治維新に至り官に歸じ今は縣廳の所在地なり

水戸の梅園 是ニヶ所に在り一は水戸公園にして上市三の丸に在り曾て烈公の弘道館を設け大ひに文武を講習せしめられし所なり館の四方梅樹數千株老幹偃蹇起伏して丘の上下を掩ひ花時遠望すれば宛然白雪の如し一は上市の西南常盤公園に在り天保年間烈公の經營に係り借樂園と名けられ園の中央に好文亭樂壽樓を設け諸士を集めて詩を賦し歌を詠せしめられたる所なり此園は梅花に著名なるのみならず又山水に富み東南仙波湖に面し遙かに筑波加波等の諸峯を雲際に見み風景絶佳なり又近傍に温泉酒樓等ありて遊人の休憩宿に便す  
鹿島神社 是鹿島郡宮中村にあり水戸より凡十里餘東國無比の古社にして境内廣潤老樹鬱蒼として御笠山要石藝山等舊跡最も多く又常陸帶と名け男女當社の祭日を卜し婚を定む今は此風俗を廢せり

三笠山かさきの島に住居してかくめつらしき跡をみるかな  
尋ねかねけふ見つるかな千早振深山の奥の石を見まじを  
東路のみちのはてなる常陸帯かことはかりも逢んとそれもふ  
衣手のひたちの神のちかひにて人の妻をも結ふなりけり  
大洗海水浴 是水戸より三里許り磯濱村に在り前は渺茫たる大洋に對し後は蜿蜒たる丘陵を負ひ一帶の青松白砂と相掩映して風光言はん方をし酒樓旅亭あり鮮を斫り酒を酌むに

水戸停車場

小金井停車場 石橋停車場

は最も妙なり

小金井停車場

小金井 是下都賀郡に屬し一小村にして近頃此所に停車場の新設あり同所より凡三十町  
薬師寺村に月削道鏡の墓あり道鏡此所に配額せられて死せりと云ふ其傍に唐僧眞和尚の  
墳墓あり又室の八島は有名なる古跡にして同郡總社村に在り古歌多し

成 範

我がためにありけるものを下野や室の八島にたへぬれもひり  
立りひてそれとも見はや音にきく室の八しまの深きけむりを  
下野や室の八島にたつけふり思ひありともいまこそはしれ  
物産は干瓢藍葉結城袖等なり

石橋停車場

石橋 是下都賀郡に在り戸數僅かに三百人口千六百一小驛にして停車場前に開雲寺と稱  
する古刹あり徳川三代將軍寛永年間日光社參の時宇都宮城内の危厄を免かれ一時此寺を以  
て其營所とせり當所より眞岡へ四里上三川村へ一里餘壬生へ一里十六町なり  
壬生 是本島居氏の城下にして戸數一千餘戸城址に精忠神社あり伏見城中に忠死せる鳥  
居氏の祖元忠の靈を祀る又北方に慈覺大師の誕生地あり毎年五月十一月馬市あり甚盛なり  
と云ふ

宇都宮停車場

宇都宮 是舊戸田氏の城下にして戸數六千餘人口二萬四千餘停車場設置以來商業益振ひ  
人家増加し福島以南警華第一の市邑とす栃木縣廳裁判所等諸官衙銀行會社あり石井へ二里  
三十町道場宿へ二里十三町桑島へ二里半餘祖母ヶ井へ四里半餘茂水へ八里餘物産は干瓢木  
綿綿等とす又日光支線は當所にて分岐するが故に日光遊覽の旅客は茲にて乗換ふへし  
宇都宮城 是昔天喜年中源頼義陸奥安倍頼時を征するとき逆徒調伏の爲め石山の座主宗  
圓此國に下り後ち尋ひて宗圓を下野の守護とせらるゝに及んで此城を築き居城すること五  
百五十年二十二世宇都宮國綱の時に至り豊大開の怒に觸れ慶長二年國除かれ蒲生與平本多  
阿部氏等交も之れに居り後ち戸田氏の居城となり明治維新に至り廢城す  
宇都宮神社 是市内白ヶ峯に在り崇神帝の第一の皇子を祭る仁德帝御宇の創立にして今  
に至る迄殆んど一千五百餘年營國の大社なり毎年十月二十八日二十九日大祭を舉行し市中  
甚賑ふ  
大谷の觀音 是當所より西北凡一里餘荒針村に在り寺中の石窟に千手觀音の像を安置す  
弘法大師の作と云ふ此地より大谷と稱する切石を産出す多氣不動は市街より二里餘多氣山  
に在り安倍頼時調伏の時用ひたる不動明王を安置す此外鶯鷲塚鑿塔婆は共に宇都宮市内に  
在る古跡なり

宇都宮停車場

日光停車場

三百十八

日光支線

日光支線 は宇都宮より分岐し砥上鹿沼文挾今市を経て日光町に至るの線路にして此中鹿沼今市の二驛は人家多く商業も稍見るべきものありと雖も他は微々たる小村落に過ぎず此邊一般に麻苧の産出を以て有名なるのみにして別に記すべきの勝處なし

日光停車場

日光 は我國遊覽地の最著名なる所にして其廟社の壯麗なる山水の奇絶なる海内其比を見ず蓋徳川氏三世の積威を振ひ天下の侯伯をして各力を出して其工を責けしめ加ふるに當時屈指の工匠番手彫刻等の諸名手を撰拔し巨萬の資財を抛ちて以て經營せしものなれば一柱一瓦の末に至る迄着意し美を極め金碧燦爛として四邊を射る然れども規模甚大ならず殿宇稍低く彫刻徒らに多くして雄大高尙の趣を缺くに似たり之を要するに當時勢に乗じ力に任せて漫りに黄金を附着したるの觀あり廟前には島津伊達細川鍋島山内等の如き侯伯より寄附したる燈籠華表等あり又以て當時三代將軍家光の威力如何を知るに足るべし其甚しきに至りては家康本殿内に掲ぐる三十六歌仙の額の如きは書は狩野某をして之を繪かしめ書は長くも後水尾帝の宸筆に係れりと云ふ廟を出づれば大谷の急湍岩に激して白雪を噴き其聲奔雷の轟くかど疑はれ群峯半空に聳へて積翠滴れんと欲し流を遡るに従ひ奇石怪巖路に横はり飛泉各處に懸り地益幽にして眞に仙境に入るの思あらしむ山上に湖水あり中禪寺湖

と云ふ二荒神社あり社の後に聳ゆる高峯は即ち男體山にして毎年舊曆七月一日より登山を許す湖に沿ひ男體山の麓を繞り進むと凡一里許にして又一湖あり湯湖と稱す蓋し温泉湧出するの地なり白根赤城等の諸嶽を望み風景又奇なり此所迄日光停車場より凡三里許にして人力車を通ず日光の奇勝を探るもの概此所迄を限る然れども鬼山本と名區ふ富み悉く之を探らんとせば數日を要すべし

東照宮祭典 は毎年六月二日九月十七日にして日光山鎮坐二荒神社は四月十七日なりとす此日は何れも近縣より賽詣する者甚多く臨時列車を發するに至る且夏季中は時々割引往復迴遊列車の便あり又日光山中瀑布の著名なるものを擧ぐれば華嚴、裏見、霧降、嚴若、寶幢、慈観等なりとす旅館は神山、小西等なり

古田停車場

古田 は河内郡に屬し戸數三百人口二千六百廣原間の一小村落なり當所より羽黒神社への順路あり停車場より僅かに一里二十町山上に神祠あり出羽國の羽黒神社を移すと云ふ毎年舊曆三月七日及び十月七八の兩日祭禮あり五穀の神として信者甚多し

長久保停車場

長久保 は鹽谷郡氏家町に屬し戸數七百人口凡五千を有し喜連川へ二里半那須郡烏山へ六里馬頭へ七里なり氏家驛と喜連川との間に五月女坂と云所あり昔は此邊を鹽谷の里と云ふ

古田停車場 長久保停車場

三百十九

旅衣うらふれてゆく鹽のやに烟さひしき夕かすみかな  
物産は葉巻紙猪皮菓粉等とす

矢板停車場

矢板 是鹽谷郡に屬し戸數八百人口凡五千郡役所警察署等あり佐久山町へ二里玉生村へ二里片岡村へ一里北泉村へ一里なり

西那須野停車場

西那須野 是那須野に屬し戸數僅かに三百餘人口凡二千那須野原中の一村落にして四顧茫々たる荒原の間にあり此原野は東西八里南北十三里其間僅々の村落林藪ありと雖も十分の六七は皆曠野なり昔建久四年四月源頼朝の狩したるも此地にして那須ヶ嶽の麓より南方を今稻御狩の莊と呼べり又鎌倉右大臣の歌に

武夫の矢並つころふ小手の上に霞たばしる那須の篠原  
と詠みし如く今に至る迄篠原最も多し

鹽原温泉

鹽原温泉 是鹽谷郡下鹽原村にあり西那須野停車場より五里餘翠巒四方を圍み鑄川の溪流中間を貫き鹽泉所々に湧出す昔壽永年間平重盛の姨妹雲尼なる者亂を避けて此地に來り草庵を結び携ふるところの觀世音の像を安置し常に倚依せしが其逝くに及び土人一字を建て妙雲寺と號し今稻存せり全村の戸數二百餘此地元來山間の僻村にして都人の來浴するも



圖之門明陽光日



の稀なりしが明治十七年故の縣令三島通庸氏大に土工を起し山を鑿ち谿を埋め交通の便を開きし以來車馬の往來自在にして頗る往時の觀を改め夏時は浴客群集して其名大に世に喧傳するに至れり此地には風景絶奇の瀑布多し避暑に適するのみならず秋季紅葉の候は四山一面に錦繡を織り頗る美觀なり又冬季と雖も寒氣左程強からず且鳥獸多きを以て遊獵を兼て入浴を企つるも亦一興をらん

黒磯停車場

黒磯 是東那須野村に屬し本と山下の寒村なりしが停車場設置以來薪炭の輸出非常に多し爲めに旅店各種の商店開業し諸方より移住するもの多く今は一小市を成すに至れり物産は石膏硫黄満カン石栢皮等なり

那須國造の碑 是停車場より凡五里湯津上村に在り本と荆棘の裡に埋没して知る者少なりしが水戸貴門光國卿發掘して碑亭を建てしより大ひに世に顯はる蓋し文武帝の頃のものと云ふ凡千百七十餘年の古碑にして文字古雅所々磨滅して讀む可からず

遊行柳 是蘆野宿の西北路傍に在り元木欄木も枯れ果てて苔のみ深く曇れり

道のへの朽木の柳糸たいて苔の衣にみどりをとかる

道の邊に清水なかる柳かけしばとてこそ立留まりけれ

いまでも又流れはたなし柳かけゆきらかひなは道しるべせよ

西行

殺生石 是黒磯より五里餘湯本村に在り今は山崖より土石崩壊して其位置を辨せず磁石の類なるへし飛鳥走獸其石に觸るるときは必ず斃ると云ふ芭蕉の句に

とぶものは雲ばかりなり石の上

那須温泉 是黒磯より凡四里半硫黄質温泉にして諸病に頗る特効あり年々來浴するもの多し

黒田原停車場

黒田原 是那須郡に屬し黒磯より川を渡り那須山脈の東麓に在る林麓にして無數の老松枝を垂れ人家甚稀にして極めて幽靜の所とす此地も亦多く薪炭を出せり

白河停車場

白河町 是福島縣磐城國阿賀郡白河郡に屬し舊阿部氏の城下にして奥羽街道の要衝に當り戸數凡二千人口一萬餘町の中央より右折し棚倉への路あり六里許り白坂へ凡二里をり白河城址 是停車場の向に在り本結城蒲生丹羽本多松平等數氏交も居城し文政の頃阿部氏之れに代り明治維新に至り城遂ひに廢す南湖は街道の右凡五町許りの所に在り樂翁侯の曾て開かれし地にして櫻樹數百株あり四時の風光甚美なり今は公園となる  
結城氏の古墟 是町の東端山に在り結城宗廣の居城にして義良親王北畠顯家顯信等暫らく此所に據れり斷崖高さ八九丈樂翁侯其北面に感忠銘の三大字を鐫らしむ

白河の關址 是市街を距ること三里許り旗宿村に在り好事家の其趾を問ふもの少あからず昔源賴朝泰衡征伐の爲め白川の關を超える時梶原景季を召し時は今秋の始めなり能因か歌を思ひ出てさるやと仰せければ景季取敢へず

秋風に草木の露を拂はせて君かこゆれば關守もなしと讀みて答へけるとなん

平兼盛

便あらはいかて都へ告げやらんけふ白川のせきこへぬと

清少納言

轉森の森 是東凡八町鹿島神社の東に在り

ちる花をたゞ一時の夢を見て風にねとろくうたゝねの森

陸奥のうたゝねの森橋たへていをあふせ鳥も通はさりけり

人不忘山は 是白河より凡二里

みちのくの逢隈川のあまたにそ人忘れすの山はさかしき

逢隈川 是甲子山より出て磐城岩代二ヶ國を貫流する著名なる大河にして流域五十八里

餘東海に注ぐ

あすはまた逢隈川の橋にきのふの秋の色やのこらん

逢隈川に霧立ち渡り明ぬとも君をはやらしめては未なし

夜を寒み妻よふ千鳥憶むなり逢隈川の名やたのむらん

甲子温泉 是白河停車場より五里二十五町甲子山半腹に在り阿武隈川の源流にして源泉

具親親王

順徳院

矢吹停車場 須賀川停車場

三百二十四

は川津四ヶ所に湧出し本湯瀧の湯湯神の湯新湯とす慶長五年會津の城主兼名氏の臣菊地將監を此地に遊憩遊し終に此鑛泉を發見せり爾後漸次患者群集し寛永十三年より浴舎を開き子孫相繼て今に至る泉質は鹽類無色透明にして無味無臭なり肺病胃病子宮病等に功あり盛夏の候には避暑療養の爲め來浴するもの頗る多し

矢吹停車場

矢吹 是西白河郡に屬し戸數三百餘人口二千棚倉の順路にして其里程左の如し棚倉迄五里二十四町會津へ十四里半母畑へ四里半中畑へ一里半長沼へ四里半釜の子へ三里半なり

須賀川停車場

須賀川町 是岩瀬郡に屬し戸數凡二千人口凡九千農商相半し郡山に亞くの宿驛なり  
岩瀬ヶ森 是停車場より東に見ゆる所にして鎌足公を祀る本と二た木の松と稱したる有名の松あり

みちのくのふたきの松と人とは岩瀬の杜の西と答へよ

陸奥の岩瀬の杜のしけれるにくらし山杜驛

石川瀧

は須賀川より凡一里許阿武隈川の中流に在り雌雄巨大の瀧にして頗る壯觀なり

と云ふ

平太佛

は同驛の西南一里許り稻村に在り一片の孤碑にして和田平太胤長北條義時を除

かんと謀り事露はれ此地に配流せらる其夫人慕ひ來り遂ひに空しく死せり化粧ヶ原鏡ヶ池等の古跡あり

埋峯 是東方一里許建武の昔北畠顯家義良親王を奉して義兵を擧けたる所と云ふ又古碑あり愛宕山上に建り應長二年八月の建設に係る

旭ヶ岡公園 是停車場より凡三十町櫻樹多く眺望甚美なり當地は多く菓を産出す

郡山停車場

郡山 是安積郡に屬し戸數千五百人口凡八千繁盛の市街なり又三春會津への順路あるを以て該地方の物産多くは此地に集まり驛内稍繁昌す三春へ七里馬車鐵道あり賃金十二錢會津へ十八里然れとも本宮より行くを近しとす物産は白釉生糸陶器篋又若松の名産漆器清酒人參麻蠟燭を商ふ有名なる安積山は市街の西北片平村にあり又耳語川安積沼逢瀬川花かつみ等古人の詠歌に上るもの少からず

東路のさゞやきのはし中絶てふみたに今は通はさりけり

安積山影さへ見ゆる山の井のあさき心はわれ思はなくに

とき待ちておつる時雨の雨やみて朝香の山の紅葉じゆらん

いにしへのわれとは知らし安積山見へし山井のかけにしあらねは

袖濡る山井の清水いかてかは人のもらさてかけをみるへき

源頼義

采女

市原王

蓮生法師

待賢門院

郡山停車場

三百二十五

本宮停車場

三四二十六

せき止ぬ人の堤にこそよせてなかれもやらぬ蓬瀬川かな

雅 定

君かためなれきし駒をみちのくの安積の沼にあらで見へしを

能因法師

月宿る安積の沼の水清みよるもたもとのなひくをそみる

忠 見

みちのくのあつみの沼の花かつみかづ見る人に懸やわたらん

飛鳥井

花かつみ且みるたにもあるものを安積の沼に水や絶へなん

開成山公園 是郡山より凡三十町櫻樹多く開花の候は近郷より來遊するもの甚多しと云ふ

本宮停車場

本宮 是安達郡に屬し戸數一千餘人口凡六千三春(三里餘)會津若松へ十一里越後街道中山へ二十里の順路なり

四十八瀧 是又遠藤の瀧と云ふ本宮より凡二里半の所に在り其數四十八幽邃の地にして

悉皆之れを見んとせば一日を要すべし

深堀の温泉 是本宮より凡三里一名岳の温泉と稱す火傷に特效あり夏季來浴者甚だ多く

本宮より馬車を通す風景亦賞すべし

三雄山 是凡一里二十町箕輪村に在り躑躅及び紅葉等の勝地にして往時は舊藩主の遊覽

場たりと云ふ

沼尻温泉白糸瀧 是本宮より西六里沼尻に在り胃病田蟲等の諸病に適す此外中ノ澤の温

泉あり皮膚病に特效あり何れも浴客常に絶へず又硫黄山あり風景佳絶の勝地にして白糸瀧

と稱する湯瀧あり高さ七十丈中央より以下ハ蒸氣濺々として頗る異觀なり

熱湯温泉 是本宮より凡三里花柳病皮膚病に治効多し就中古傷には頗る奇効ありと云ふ

猪苗代湖 是本宮より若松街道の中間に當り風光の美は人の遍く知る所なり此所より瀧

船に乗じて直ちに若松に達すべし

本宮 是多く金澤若松の生産物を商ふ漆器、陶器、蠟燭、氷豆腐、生糸、貝綿、米穀等なり

二本松停車場

二本松 是郡中第一の名邑にして戸數二千百餘戸市街の後に安達太郎山あり山中には温

泉ありて岳之湯と稱す又東南凡一里大平村に有名なる安達ヶ原黒塚あり傳へ云ふ昔那智の

東光坊の阿闍梨祐慶宿を假る主婦練り居しが深更に及び出で薪を山中に採る祐慶怪んで

其房中を窺ふに積骸山の如し驚て出走す偶主婦歸り來り追ふ事急なり祐慶法術を以て脱れ

去るを得たりとぞ此塚は其跡なりと云ふ遺物今猶存す

みちのくの信夫の鷹を手に据て安達ヶ原をゆくは誰か子ぞ

能因法師

時雨ゆく安達ヶ原の薄霧にまたちりはてぬ秋を殘れる

定 家

分陀伽露のみまけき安達野を獨り替らぬ袖じぼりつゝ

觀念法師

二本松停車場

三四二十七